

姫路文学館年報

令和5年度(2023年度)事業報告

第32号



ごあいさつ

姫路文学館は、平成3年4月に開館して以来、32年間にわたり、郷土の文学遺産を支え、文化的土壌を育むべく多彩な事業を実施してまいりました。その間、当館の発展のためにご協力くださいました皆様方に心から感謝申し上げます。

令和5年度は、大正・昭和初期に愁いを含んだ美人画で一世を風靡した竹久夢二の作品を展観した「大正ロマンの寵児 竹久夢二展」、世界中で愛されたイギリスの絵本作家デビッド・マッキーの代表作「ぞうのエルマー」シリーズの色あざやかな原画を展示した「ぞうのエルマー絵本原画展」、そして、ともに没後50年を迎えた姫路出身の小説家、阿部知二と椎名麟三の生涯と作品をたどった「没後50年 姫路が生んだ二人の作家 阿部知二と椎名麟三展」の3つの特別展を開催しました。

さらに企画展として、「週刊朝日」に掲載された「司馬遼太郎シリーズ」の写真を、司馬文学の世界とともに展示した「小林修写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点 歩いた風土、見抜いた時代」と、姫路での苦悩に満ちた青春期から出発した作家・詩人の木山捷平の作品世界を新発見資料とともに紹介した「生誕120年記念 木山捷平展」の2つを開催しました。

司馬遼太郎氏の誕生日8月7日に開催してまいりました「司馬遼太郎メモリアル・デー」では、生誕100年という大きな節目を迎え、アクリエひめじにて作家の沢木耕太郎氏が講演され、盛況のうちに終えることができました。36回目を迎えた和辻哲郎文化賞は、一般部門に小坂洋右氏、学術部門に嶺秀樹氏のご労作が受賞作に選ばれました。

今後とも変わらぬご厚情とともに、ますますのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和6年（2024）9月

館長 藤原正彦

目 次

ごあいさつ	2
目 次	3
第36回和辻哲郎文化賞	4
事業報告	
1 展覧会	
（1）特別展「大正ロマンの寵児 竹久夢二展」	10
（2）特別展「ぞうのエルマー絵本原画展」	16
（3）企画展「小林修写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点 歩いた風土、見抜いた時代」	19
（4）特別展「没後50年 姫路が生んだ二人の作家 阿部知二と椎名麟三展」	24
（5）企画展「生誕120年記念 木山捷平展」	34
2 第2回藤原正彦姫路文学館長講演会	41
3 司馬遼太郎セミナー「司馬遼太郎の播磨」	41
4 第25回司馬遼太郎メモリアル・デー	42
5 第9回藤原正彦エッセイコンクール	44
6 第12回「世界にひとつの絵本づくり」	45
7 第12回KOTOBAMAまつり	46
8 第15回如月まつり	47
9 講座・読書会	
（1）古典文学講座「源氏物語の世界」	48
（2）文学思想講座「よりよく自己を生きるために 「広く」そして「深く」」	48
（3）市民名作講座「『近現代文学中の名作』に挑む」	49
（4）「司馬遼太郎の『坂の上の雲』『街道をゆく』『東と西』などを読む」読書会	49
10 博物館実習・「トライやる・ウィーク」	51
11 出前講座	53
12 出版活動	54
資料概要	
1 資料収集状況	55
2 協力者一覧	57
3 文学館資料の貸出状況	59
4 文学館資料の出版物等掲載状況	59
運営管理	
1 利用状況	
（1）入館者数	60
（2）団体見学受付状況	62
（3）館使用者数	64
（4）資料特別観覧申請	65
（5）出版物等販売数	66
2 組織および分掌事務	68
3 予算の概要	69
施設の概要	70
日誌抄	74
姫路文学館友の会	76
沿革	79
条例規則集	81
利用案内	89

第 36 回 和 辻 哲 郎 文 化 賞

姫路市制百周年と姫路出身の哲学者和辻哲郎の生誕百年を記念して、昭和63年度に姫路市が創設。和辻哲郎の幅広い学的業績を顕彰し、その著作の今日的意義を国の内外にわたって探るとともに、研究者の育成かつ市民の文化水準の向上に資することを目的とする。

一般部門は、和辻哲郎が文学、歴史、芸術など、さまざまな領域において横断的かつユニークな著作を世に問い、広範な読者に訴えかけたスケールの大きな学者であったことに鑑み、文化一般におけるすぐれた著作に与えられる。

学術部門は、和辻哲郎が専門とした哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化といった領域での学術的水準を備えた、すぐれた論文に与えられる。

授賞式典は和辻哲郎の生誕日が3月1日であることに因み、3月の第1日曜日に姫路にて開催する。

1 対 象

○一般部門

令和4年（2022年）9月1日から令和5年（2023年）8月31日までに発刊された（復刊は除く）著作物（単行本）の中で、日本文化、伝統文化、風土と人間生活の関連等に関するもので国際的普遍性、斬新な視点及び深い思索性を有する評論。

○学術部門

令和4年（2022年）9月1日から令和5年（2023年）8月31日までに発刊された（復刊は除く）著作物（単行本）の中で、哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化等に関するもので高い水準に達した研究。

2 募集方法

自薦・他薦を問わず、推薦作を一般に募る。また全国の大学等研究機関、新聞社、出版社、研究者等にも推薦を依頼する。締切は令和5年（2023年）9月5日。

3 選考委員

○一般部門

山内 昌之（東京大学名誉教授）
ロバート キャンベル（早稲田大学特命教授）
藤原 正彦（お茶の水女子大学名誉教授・姫路文学館長）

○学術部門

清水 正之（聖学院大学名誉学長）
野家 啓一（東北大学名誉教授）
関根 清三（東京大学名誉教授）

令和6年1月に選考委員会を開催し、受賞作を決定した。

○一般部門 選考委員会

令和6年1月17日開催。会場：東京・學士会館

○学術部門 選考委員会

令和6年1月12日開催。オンライン会議

4 推薦会

選考手続きの補助として、以下の諸氏による推薦会を実施した。

○一般部門

大森 亮尚（古代民俗研究所代表）
石川 肇（京都日本文化資源研究所所長）
岡田 勝明（姫路獨協大学名誉教授）

塩出 雅（武庫川女子大学名誉教授）
島村 恭則（関西学院大学教授）
通山 由美（姫路獨協大学教授）
林 裕美子（元エリザベト音楽大学教授）
深尾 葉子（大阪大学教授）
松宮 園子（関西学院大学教授）
柳澤 田実（関西学院大学准教授）

○学術部門

荒谷 大輔（慶応義塾大学教授）
池田 喬（明治大学教授）
勢力 尚雅（日本大学教授）
張 政遠（東京大学大学院准教授）
三重野清顕（東洋大学教授）

9月～12月にかけて全3回の推薦会を開催し、選考委員会に推薦する最終候補作5点を選考する作業を行った。オンライン会議システムを併用して開催した。

○一般部門 推薦会

第1回 令和5年9月12日開催 会場：姫路文学館
第2回 令和5年11月5日開催 会場：姫路文学館（オンライン会議を併用）
第3回 令和5年11月28日開催 会場：姫路文学館

○学術部門 推薦会

第1回 令和5年9月19日開催 会場：東京・學士会館
第2回 令和5年11月12日開催 オンライン会議
第3回 令和5年12月10日開催 会場：東京・學士会館

5 賞

- 正 賞 蒔絵千姫源氏絵羽子板
（千姫が男山の天満神社に奉納したという羽子板を模した蒔絵漆芸品）
○副 賞 100万円

第36回和辻哲郎文化賞受賞作

○一般部門

小坂 洋右（ノンフィクション作家）

『アイヌの時空を旅する一奪われぬ魂』（令和5年1月30日刊 藤原書店）

北海道の各地を巡りながら、アイヌ民族の歴史や伝統文化、精神性に迫ることで、従来の北方史を新たな視点から語り直すことを試みたルポルタージュ。アイヌの歴史の〈今〉や文化の現在性・普遍性を伝える意欲作。

○学術部門

嶺 秀樹（関西学院大学名誉教授）

『絶対無の思索へ コンテクストの中の西田・田辺哲学』

（令和5年5月1日刊 法政大学出版局）

日本を代表する哲学者西田幾多郎と西田を批判しながら独自性を切り開いた田辺元の哲学について、フッサールやショーペンハウアー、ハイデガーら近現代ドイツ哲学との関係性を論じながらその形成過程と本質を明らかにし、東西の哲学が互いにもたらした影響や対話による可能性に言及した力作。



応募点数の実績

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回
一般部門	56	72	81	97	149	135	132	177	204	206	170	153	124	108	89
学術部門	10	22	41	70	61	62	77	75	125	87	99	63	79	83	72
合 計	66	94	122	167	210	197	209	252	329	293	269	216	203	191	161

	16回	17回	18回	19回	20回	21回	22回	23回	24回	25回	26回	27回	28回	29回	30回
一般部門	98	102	110	105	101	90	109	95	98	115	111	123	132	138	130
学術部門	58	53	51	55	74	61	89	66	56	74	93	63	82	71	95
合 計	156	155	161	160	175	151	198	161	154	189	204	186	214	209	225

	31回	32回	33回	34回	35回	36回
一般部門	150	108	119	109	92	110
学術部門	70	86	70	65	62	69
合 計	220	194	189	174	154	179

第36回和辻哲郎文化賞授賞式

毎年3月の第1日曜日に開催し、式典と著名な作家等を招いての記念講演会を催す。

日 時 令和6年3月3日（日） 午後1時30分～4時
 会 場 姫路市市民会館 大ホール
 内 容 《第1部》授賞式典
 選考経過 山内昌之（一般部門）
 清水正之（学術部門）
 《第2部》記念講演会
 講師／小松和彦（国際日本文化研究センター名誉教授）
 演題／シン妖怪談義—妖怪研究は楽しい謎解き—



左から受賞者の嶺秀樹氏、小坂洋右氏



小松和彦氏

これまでの受賞作

第1回（昭和63年度）

一般部門 大久保喬樹『岡倉天心 驚異的な光に満ちた空虚』（小沢書店）

学術部門 ウィリアム・R・ラフルーア『廃墟に立つ理性—戦後合理性論争における和辻哲郎の位相』（『戦後日本の精神史』（岩波書店）所収）

第2回（平成元年度）

一般部門 宇佐美斉 『落日論』（筑摩書房）

学術部門 上山安敏 『フロイトとユング—精神分析運動とヨーロッパ知識社会』（岩波書店）

第3回（平成2年度）

一般部門 中西 進 『万葉と海彼』（角川書店）

学術部門 永積洋子 『近世初期の外交』（創文社）

第4回（平成3年度）

一般部門 野口武彦 『江戸の兵学思想』（中央公論社）

学術部門 ヘルマン・オームス『徳川イデオロギー』（ペリかん社）

第5回（平成4年度）

一般部門 郡司正勝 『郡司正勝刪定集』全六巻（白水社）

学術部門 大森荘蔵 『時間と自我』（青土社）

第6回（平成5年度）

一般部門 土居良三 『咸臨丸海を渡る—曾祖父・長尾幸作の日記より』（未来社）

学術部門 加藤尚武 『哲学の使命—ヘーゲル哲学の精神と世界』（未来社）

第7回（平成6年度）

一般部門 堀田善衛 『ミシェル城館の人』全三巻（集英社）

〃 山内 昶 『「食」の歴史人類学—比較文化論の地平』（人文書院）

学術部門 関根清三 『旧約における超越と象徴—解釈学的経験の系譜』（東京大学出版会）

第8回（平成7年度）

一般部門 井上義夫 『評伝 D. H. ロレンス』全三巻（小沢書店）

学術部門 阿部良雄 『シャルル・ボードレーン【現代性の成立】』（河出書房新社）

第9回（平成8年度）

一般部門 長谷川三千子『バベルの謎 ヤハウィストの冒険』（中央公論社）

学術部門 小野清美 『テクノクラートの世界とナチズム—「近代超克」のユートピア—』（ミネルヴァ書房）

第10回（平成9年度）

一般部門 徳永 恂 『ヴェニスへのゲッソーにて—反ユダヤ主義思想史への旅』（みすず書房）

学術部門 一ノ瀬正樹『人格知識論の生成—ジョン・ロックの瞬間』（東京大学出版会）

第11回（平成10年度）

一般部門 嶋田義仁 『稲作文化の世界観—「古事記」神代神話を読む』（平凡社）

学術部門 佐々木毅 『プラトンの呪縛—二十世紀の哲学と政治』（講談社）

第12回（平成11年度）

一般部門 西村三郎 『文明のなかの博物学—西欧と日本』（紀伊國屋書店）

〃 渡辺京二 『逝きし世の面影—日本近代素描 I』（葦書房）

学術部門 宇都宮芳明『カントと神—理性信仰・道徳・宗教』（岩波書店）

第13回（平成12年度）

一般部門 稲賀繁美 『絵画の東方—オリエンタリズムからジャポニスムへ』（名古屋大学出版会）

学術部門 小林道夫 『デカルト哲学とその射程』（弘文堂）

第14回（平成13年度）

一般部門 岡野弘彦 『折口信夫伝—その思想と学問』（中央公論新社）

〃 山折哲雄 『愛欲の精神史』（小学館）

学術部門 ケイト・W・ナカイ『新井白石の政治戦略—儒学と史論』（東京大学出版会）

第15回（平成14年度）

一般部門 長部日出雄『桜桃とキリスト—もう一つの太宰治伝』（文藝春秋）

- 学術部門 木村 敏 『木村敏著作集第七巻 臨床哲学論文集』（弘文堂）
 〃 植村恒一郎 『時間の本性』（勁草書房）
- 第16回（平成15年度）
 一般部門 秋山 駿 『神経と夢想 私の『罪と罰』』（講談社）
 学術部門 塩川徹也 『パスカル考』（岩波書店）
- 第17回（平成16年度）
 一般部門 平川祐弘 『ラフカディオ・ハーン 植民地化・キリスト教化・文明開化』（ミネルヴァ書房）
 学術部門 井上達夫 『法という企て』（東京大学出版会）
- 第18回（平成17年度）
 一般部門 新倉俊一 『評伝 西脇順三郎』（慶應義塾大学出版会）
 学術部門 佐藤康邦 『カント『判断力批判』と現代一目的論の新たな可能性を求めて一』（岩波書店）
- 第19回（平成18年度）
 一般部門 大泉光一 『支倉常長 慶長遣欧使節の真相―肖像画に秘められた実像―』（雄山閣）
 学術部門 今道友信 『美の存立と生成』（ピナケス出版）
- 第20回（平成19年度）
 一般部門 岩下尚史 『芸者論 神々に扮することを忘れた日本人』（雄山閣）
 学術部門 伊藤邦武 『パースの宇宙論』（岩波書店）
- 第21回（平成20年度）
 一般部門 岡谷公二 『南海漂蕩 ミクロネシアに魅せられた土方久助・杉浦佐助・中島敦』（富山房インターナショナル）
 学術部門 森 一郎 『死と誕生 ハイデガー・九鬼周造・アーレント』（東京大学出版会）
- 第22回（平成21年度）
 一般部門 今橋理子 『秋田蘭画の近代 小田野直武「不忍池図」を読む』（東京大学出版会）
 学術部門 互 盛央 『フェルディナン・ド・ソシュール 〈言語学〉の孤独、「一般言語学」の夢』（作品社）
- 第23回（平成22年度）
 一般部門 杉田弘子 『漱石の『猫』とニーチェ 稀代の哲学者に震撼した近代日本の知性たち』（白水社）
 学術部門 権左武志 『ヘーゲルにおける理性・国家・歴史』（岩波書店）
- 第24回（平成23年度）
 一般部門 末延芳晴 『正岡子規、従軍す』（平凡社）
 学術部門 中畑正志 『魂の変容 心的基礎概念の歴史的構成』（岩波書店）
- 第25回（平成24年度）
 一般部門 劉 岸偉 『周作人伝 ある知日派文人の精神史』（ミネルヴァ書房）
 安住恭子 『『草枕』の那美と辛亥革命』（白水社）
 学術部門 中島隆博 『共生のプラクシス 国家と宗教』（東京大学出版会）
- 第26回（平成25年度）
 一般部門 池田美紀子 『夏目漱石 眼は識る東西の字』（国書刊行会）
 学術部門 野本和幸 『フレーゲ哲学の全貌 論理主義と意味論の原型』（勁草書房）
- 第27回（平成26年度）
 一般部門 亀井俊介 『有島武郎 世間に対して真剣勝負をし続けて』（ミネルヴァ書房）
 学術部門 稲垣良典 『トマス・アクィナスの神学』（創文社）
 『トマス・アクィナス 「存在（エッセ）」の形而上学』（春秋社）
- 第28回（平成27年度）
 一般部門 勝又 浩 『私小説千年史 日記文学から近代文学まで』（勉誠出版）
 学術部門 佐藤 光 『柳宗悦とウィリアム・ブレイク 環流する「肯定の思想」』（東京大学出版会）
- 第29回（平成28年）
 一般部門 山口謠司 『日本語を作った男 上田万年とその時代』（集英社インターナショナル）
 学術部門 野矢茂樹 『心という難問 空間・身体・意味』（講談社）
- 第30回（平成29年度）
 一般部門 保阪正康 『ナショナリズムの昭和』（幻戯書房）
 学術部門 竹峰義和 『〈救済〉のメーディウム ベンヤミン、アドルノ、クルーゲ』（東京大学出版会）

第31回（平成30年度）

一般部門 平川 新 『戦国日本と大航海時代 秀吉・家康・政宗の外交戦略』（中央公論新社）

学術部門 石川 求 『カントと無限判断の世界』（法政大学出版局）

第32回（平成31年度／令和元年度）

一般部門 白川方明 『中央銀行 セントラルバンカーの経験した39年』（東洋経済新報社）

学術部門 松井裕美 『キュビズム芸術史 20世紀西洋美術と新しい〈現実〉』（名古屋大学出版会）

第33回（令和2年度）

一般部門 サンドラ・シャール 『『女工哀史』を再考する―失われた女性の声を求めて』（京都大学学術出版会）

学術部門 宮本久雄 『パウロの神秘論 他者との相生の地平をひらく』（東京大学出版会）

第34回（令和3年度）

一般部門 三浦 篤 『移り棲む美術 ジャポニスム、コラン、日本近代洋画』（名古屋大学出版会）

学術部門 納富信留 『ギリシア哲学史』（筑摩書房）

第35回（令和4年度）

一般部門 多胡吉郎 『生命の罅 川端康成と「特攻」』（現代書館）

学術部門 渋谷治美 『カントと自己実現―人間讃歌とそのゆくえ』（花伝社）

事業報告

1 展覧会

(1) 特別展「大正ロマンの寵児 竹久夢二展」

画家・詩人の竹久夢二の多岐にわたる創作活動を俯瞰した特別展を実施した。

夢二の登場から時代背景「大正ロマン」について解説、「木版画装幀・挿画」、「婦人グラフ」、「オリジナル木版画」、「セノオ楽譜」、「肉筆画」、「童画」、「東京災難畫信」、「写真」、晩年の夢二と、彼の活動と生涯をたどった。

独学で技術を磨き、芸術の可能性を模索し、現在の芸術の多様につながる様々な分野の草分け的存在となった夢二を知ることのできる展覧会となった。

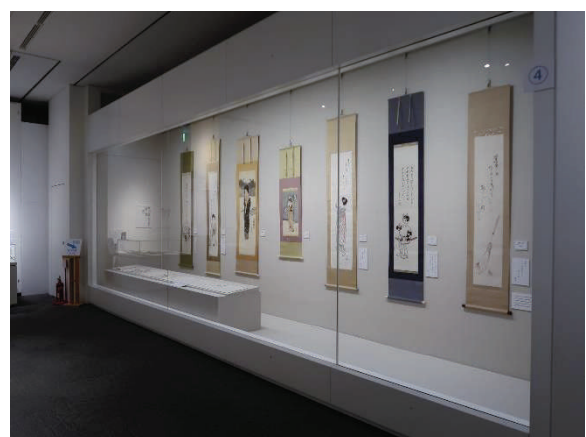
併せて、展示室内では姫路市出身の詩人有本芳水との交流や室津を訪れた時のエピソードとそこから生まれた作品を、南館さんかくギャラリーでは大正期文化や「日本少年」の紹介を行った。



会 期	令和5年(2023)4月15日(土)～5月28日(日) ※休館日：毎週月曜日。ただし、5月1日(月)は開館。
会 場	姫路文学館 北館
観 覧 料	一般700円、大学・高校生400円、中学・小学生200円 ※20名以上の団体は2割引
主 催	姫路文学館
企画協力	株式会社港屋
後 援	朝日新聞姫路支局、NHK神戸放送局、神戸新聞社、産経新聞社、サンテレビジョン、 播磨時報社、播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、姫路シティFM21、 毎日新聞姫路支局、読売新聞姫路支局、ラジオ関西
開催日数	39日間
観覧者数	4,525人
出品点数	約160点
印刷物等	ポスターB2、B3、A3／チラシA4



第1会場



第2会場

関連行事

※会場はすべて姫路文学館講堂（北館3階）

- （1）講演会「詩人になりたかった夢二
—大正ロマンに彩られた美と言葉を追って—」

日時 令和5年4月15日（土） 午後1時30分～3時

講師 石川桂子（竹久夢二美術館学芸員）

参加者 85人



石川桂子氏

- （2）講演会「竹久夢二 絵と文学の出会い」

日時 令和5年4月29日（土・祝） 午後1時30分～3時

講師 木股知史（甲南大学名誉教授）

参加者 90人



木股知史氏

- （3）展示解説会

日時 令和5年5月6日（土） 午後1時30分～3時

講師 担当学芸員

参加者 60人

○和服での来場者へのポストカードプレゼント

参加者 72人

○水屋珈琲（南館1階）提供コラボメニュー

「レトロ浪漫セット」

特製 ランチョンマット付き（4種類の内、1種）



コラボメニューとランチョンマット

出 品 目 録

(所蔵はすべて株式会社港屋)

	章タイトル	資料名	形態	制作年
1	明治期の夢二	夢二画集「春の巻」	書籍	明治 42 年
2		夢二画集「夏の巻」	書籍	明治 43 年
3		夢二画集「秋の巻」	書籍	明治 43 年
4		夢二画集「冬の巻」	書籍	明治 43 年
5		夢二画集「都会の巻」	書籍	明治 44 年
6		良民 2 巻 3 号	雑誌	明治 45 年
7		女鏡 17 巻 8 号	雑誌	明治 40 年
8		少女世界 6 巻 13 号	雑誌	明治 44 年
9		婦人世界 4 巻 10 号	雑誌	明治 42 年
10		中学世界 9 巻 6 号	雑誌	明治 39 年
11		中学世界 9 巻 10 号	雑誌	明治 39 年
12		ホトトギス 10 巻 8 号	雑誌	明治 40 年
13		こころの日記 8 巻 15 号	雑誌	明治 41 年
14	夢二エハガキ	夢二エハガキ「都々逸」	絵ハガキ	大正 8 年
15		夢二エハガキ「若葉集」	絵ハガキ	大正 9 年
16		夢二エハガキ「四季の花」	絵ハガキ	大正 2 年
17		夢二エハガキ「夜の唄（二）」	絵ハガキ	大正 7 年
18		夢二エハガキ「女四題」	絵ハガキ	大正 8 年
19		夢二エハガキ「小唄（二）」	絵ハガキ	明治 45 年
20		夢二エハガキ「藝者の一日」	絵ハガキ	大正 4 年
21		夢二エハガキ「ばらの唄」	絵ハガキ	大正 4 年
22	若草・大大阪	若草 創刊号	雑誌	大正 14 年
23		若草 11 月号	雑誌	昭和 3 年
24		若草 新年号	雑誌	大正 15 年
25		若草 新年号	雑誌	昭和 6 年
26		若草 新年号	雑誌	昭和 3 年
27		若草 11 月号	雑誌	昭和 2 年
28		若草 3 月号	雑誌	昭和 3 年
29		若草 8 月号	雑誌	大正 15 年
30		大大阪 1 月号	雑誌	大正 15 年
31		大大阪 3 月号	雑誌	大正 15 年
32		大大阪 4 月号	雑誌	大正 15 年
33		大大阪 5 月号	雑誌	大正 15 年
34		大大阪 7 月号	雑誌	大正 15 年
35		大大阪 8 月号	雑誌	大正 15 年
36		大大阪 9 月号	雑誌	大正 15 年
37		大大阪 10 月号	雑誌	大正 15 年
38		大大阪 11 月号	雑誌	大正 15 年
39		大大阪 12 月号	雑誌	大正 15 年
40	令女界・口絵	夢よ浅かれ (8 月号)	石版画	大正 15 年
41		晩秋 (11 月号)	石版画	大正 15 年
42		王春吉報 (1 月号)	石版画	昭和 2 年
43		雛節句 (3 月号)	石版画	昭和 2 年
44		名残の夕月 (5 月号)	石版画	昭和 2 年
45		微風の丘 (6 月号)	石版画	昭和 2 年
46		初参りの姉妹 (1 月号)	石版画	昭和 6 年
47		牧場の少女 (5 月号)	石版画	昭和 6 年
48	装幀本	三味線草	書籍	大正 4 年
49		露地の細道	書籍	大正 8 年
50		夜の露台	書籍	大正 8 年
51		縮刷 夢二画集	書籍	大正 6 年
52		青い小径	書籍	大正 10 年
53		ねむの木	書籍	大正 5 年
54		青い船	書籍	大正 7 年
55		山へよする	書籍	大正 8 年
56		草画	書籍	大正 3 年

57		恋愛秘語	書籍	大正 13 年
58		露地のほそみち（改版）	書籍	大正 15 年
59		箕輪心中	書籍	大正 5 年
60		舞鶴心中	書籍	大正 5 年
61		小夜ちどり	書籍	大正 4 年
62		葛城太夫	書籍	大正 5 年
63		お才と巳之助	書籍	大正 4 年
64		桑名心中	書籍	大正 6 年
65		お七吉三	書籍	大正 5 年
66		小さん金五郎	書籍	大正 4 年
67		晴夜	書籍	大正 15 年
68		女の執着	書籍	大正 9 年
69		五人女	書籍	大正 6 年
70		近松情話	書籍	大正 5 年
71		女の生命	書籍	大正 8 年
72		指蔓外道	書籍	大正 9 年
73		幻の華	書籍	大正 8 年
74		ニコラス・ニッケルベイ物語	書籍	昭和 4 年
75		少女ゼット	書籍	昭和 5 年
76		ファール昆虫記物語	書籍	昭和 5 年
77		ユートピア物語	書籍	昭和 5 年
78		埋木	書籍	大正 9 年
79		続・金色夜叉	書籍	大正 8 年
80		祇園待宵草	書籍	大正 6 年
81		幻の塔	書籍	大正 14 年
82		絵日傘 一の巻	書籍	大正 8 年
83		絵日傘 二の巻	書籍	大正 8 年
84		絵日傘 三の巻	書籍	大正 8 年
85		絵日傘 四の巻	書籍	大正 8 年
86		絵日傘 五の巻	書籍	大正 8 年
87		祇園夜話	書籍	大正 9 年
88		祇園囃子	書籍	昭和 9 年
89	婦人グラフ	婦人絵暦十二ヶ月 五月	オフセット	大正 13 年
90		六月	木版画	大正 13 年
91		八月「勇敢な恋人」	木版画	大正 13 年
92		九月「童話」	木版画	大正 13 年
93		十月「春の眼」	木版画	大正 13 年
94		十一月「寝椅子」	木版画	大正 13 年
95		十二月「愛の総勘定」	木版画	大正 13 年
96		専用綴り台紙		
97		3 月号（うさぎ）	雑誌	大正 14 年
98		4 月号（舞妓）	雑誌	大正 14 年
99		5 月号（すずらん）	雑誌	大正 14 年
100		記事「夢二」	オフセット	大正 15 年
101		記事「およう」	オフセット	大正 13 年
102	セノオ楽譜	春の宵	石版画	大正 6 年
103		涙	石版画	大正 7 年
104		街燈	石版画	大正 8 年
105		清怨	石版画	大正 8 年
106		花をたづねて	石版画	大正 9 年
107		巷の雪	石版画	大正 11 年
108		子守唄	石版画	大正 12 年
109		露台	石版画	大正 13 年
110		民謡おつた	石版画	大正 13 年
111		初恋之歌	石版画	大正 5 年
112		舞姫	石版画	大正 6 年
113		汝が碧き眼を開け	石版画	大正 6 年
114		歌の翼	石版画	大正 6 年
115		美しきクレオパトラ	石版画	大正 9 年
116		夢見草	石版画	大正 10 年

117		スワニィ河の月	石版画	大正 12 年
118		ヴェニス舟唄	石版画	大正 13 年
119		静けき夜に	石版画	大正 13 年
120		蚤乃歌	石版画	大正 13 年
121		海辺の別れ	石版画	大正 13 年
122		金乃鳥	石版画	大正 13 年
123		アイウォントプリティガール	石版画	大正 13 年
124		陽気な鍛冶屋	石版画	大正 13 年
125		雲雀	石版画	大正 13 年
126		アヴェマリア	石版画	大正 13 年
127		櫻町	石版画	大正 13 年
128		白鳥	石版画	大正 13 年
129		君よなど露はに	石版画	大正 13 年
130		美しの月日	石版画	大正 13 年
131	童画	夢二画手本（1）	書籍	大正 12 年
132		夢二画手本（2）	書籍	大正 12 年
133		夢二画手本（3）	書籍	大正 12 年
134		コドモアサヒ 1 月号	書籍	大正 14 年
135		コドモアサヒ 11 月号	書籍	昭和 3 年
136		コドモノクニ 1 月号	雑誌	大正 12 年
137		コドモノクニ 2 月号	雑誌	大正 12 年
138		コドモノクニ 4 月号	雑誌	大正 12 年
139		子供之友 7 月号	雑誌	大正 5 年
140		子供之友 2 月号	雑誌	大正 15 年
141		子供之友 4 月号	雑誌	昭和 3 年
142		子供之友 9 月号	雑誌	昭和 9 年
143	写真	ベスタンカメラ	カメラ	
144		凌雲閣（浅草十二階）	写真	大正中期
145		お葉	写真	大正後期
146		彦乃	写真	大正中期
147		不二彦	写真	大正中期
148		眠る男	写真	大正中期
149		彦乃と不二彦	写真	大正中期
150		船	写真	大正中期
151		海を眺める少年（不二彦）	写真	大正中期
152		サーカス	写真	大正中期
153	室の津～晩年	室の津	ポスター	
154		室の津懐古	ポスター	
155		年賀状	葉書	昭和 6 年
156		三越展覧会案内状	案内状	昭和 6 年
157		洋行案内状	葉書	昭和 6 年
158		告別式通知状	葉書	昭和 9 年

有本芳水と竹久夢二コーナー

（明記のないものは館蔵品）

	資料名	
1	雑誌 「日本少年」 7 巻 6 号 明治 45 年 5 月 實業之日本社	
2	雑誌 「日本少年」 7 巻 11 号 大正元年 10 月 實業之日本社	
3	雑誌 「日本少年」 8 巻 3 号 大正 2 年 1 月 實業之日本社	
4	雑誌 「日本少年」 8 巻 5 号 大正 2 年 4 月 實業之日本社	
5	雑誌 「日本少年」 9 巻 1 号 大正 3 年 1 月 實業之日本社	
6	原稿 有本芳水「夢二と私」 昭和 42 年	
7	書籍 有本芳水『芳水詩集』（カバー付） 大正 3 年 實業之日本社	株式会社港屋所蔵
8	書籍 有本芳水『芳水詩集』（表紙） 大正 3 年 實業之日本社	
9	書籍 有本芳水『夢二頌』 昭和 51 年 日本古書通信社	
10	書籍 東草水・有本芳水 竹久夢二画『野球美談』 大正 2 年 實業之日本社	
11	書籍 有本芳水『笛鳴りやまず』 昭和 46 年 日本教文出版	
12	書籍 徳田秋声 竹久夢二装幀 『めぐりあひ』（復刻版） 昭和 46 年 ほるぷ出版	
13	楽譜 有本芳水詩・多忠亮曲 「かきつばた」 昭和 42 年 新響社	

さんかくギャラリー

(すべて館蔵品)

	資料名
1	雑誌「日本少年」2巻9号 明治40年(1907年)9月 實業之日本社
2	雑誌「日本少年」3巻10号 明治41年(1908年)9月 實業之日本社
3	雑誌「日本少年」8巻1号 大正2年(1913年)1月 實業之日本社
4	雑誌「日本少年」9巻3号 大正3年(1914年)2月 實業之日本社
5	雑誌「日本少年」11巻1号 大正5年(1916年)1月 實業之日本社
6	雑誌「日本少年」12巻1号 大正6年(1917年)1月 實業之日本社
7	雑誌「日本少年」14巻1号 大正8年(1919年)1月 實業之日本社
8	雑誌「少女の友」10巻2号 大正6年(1917年)2月 實業之日本社
9	その他「日本少年」7巻1号附録「飛行機競争双六」 明治45年(1912年)1月 實業之日本社
10	その他「日本少年」8巻1号附録「冒険小説双六」 大正2年(1913年)1月 實業之日本社
11	その他「日本少年」9巻1号附録「自動車競争双六」 大正3年(1914年)1月 實業之日本社
12	その他「日本少年」11巻1号附録「少年運動双六」 大正5年(1916年)1月 實業之日本社

(2) 特別展「ぞうのエルマー絵本原画展」

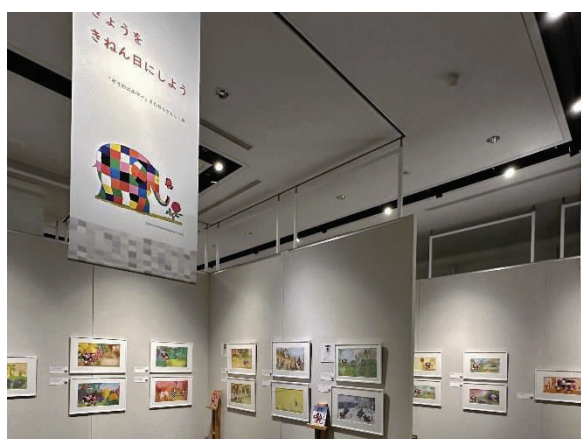
世界中で愛されてきたパッチワーク模様のぞうの物語、「ぞうのエルマー」シリーズを中心に、前年春に亡くなったイギリスの絵本作家デビッド・マッキー（1935～2022）による原画を一堂に集めた展覧会。日本では初の大規模な回顧展となった。

わが国では未刊行の「エルマー」シリーズや、ロシアのウクライナ侵攻で話題となった『せかいでいちばんつよい国』、じつはイギリスでは「エルマー」をしのぐ人気を誇る「ミスター・ベン」シリーズなどを通して、デビッド・マッキーの豊かなユーモアや問題意識に触れていただくとともに、きたむらさとしさんら友人たちとの間で交わされた絵封筒の数々も紹介した。

誰もがありのままの自分と他者を認めうる世界を願い続けたデビッドのメッセージは、幼い来場者の心にも届いたようである。



会 期	令和5年（2023）6月24日（土）～9月3日（日） ※休館日：毎週月曜日（7月17日、8月7日は開館）、7月18日（火）
会 場	姫路文学館 北館
観 覧 料	一般700円、大学・高校生400円、中学・小学生200円 ※20名以上の団体は2割引
主 催	姫路文学館
協 力	Andersen Press、Brett McKee、タトル・モリ エイジェンシー、BL出版、光村教育図書、きたむらさとし、なかがわちひろ、福井暁子
企画協力	東映
特別協力	神戸新聞社
後 援	朝日新聞姫路支局、NHK神戸放送局、産経新聞社、サンテレビジョン、播磨時報社、播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、姫路シティFM21、毎日新聞姫路支局、読売新聞姫路支局、ラジオ関西
開催日数	62日間
観覧者数	11,549人
出品点数	約170点
印刷物等	ポスターB2、B3、A3／チラシA4



展覧会場



園外保育で来場した園児たち

関連行事

※会場はすべて姫路文学館講堂（北館3階）

（1）講演会「デビッド・マッキー 作品とそのひとがら」

日時 令和5年6月24日（土）午後1時30分～3時

講師 きたむらさとし（絵本作家、イラストレーター）

参加者 120人



きたむらさとし氏

（2）えほんのじかん ～ぞうさんのおはなし会

日時 令和5年7月15日（土）・8月19日（土）

いずれも午後1時30分～2時

出演 姫路文学館友の会ボランティア

参加者 計160人



おうちうたコンサート（クジララ）

（3）まいにちがカラフル！おうちうたコンサート

日時 令和5年7月22日（土）午後1時30分～2時30分

出演 クジララ（山口光、黒田かなで、近藤幹夫）

参加者 170人（事前応募当選者）



5,000人目



撮影スポット



10,000人目



へんしんコーナー ゾうさんの帽子

（当館ボランティア・ぬいぬいクラブ製）

出品目録

	点数	制作年	出版社
マッキーのお仕事			
ミスター・ベンとあかいよろい 原画	1	1967	ドブソン・パブリッシング
ミスター・ベンとサーカスのなかまたち 原画	4	1980	アンデルセン・プレス
Mr Benn Rides Again 原画	2		※未出版
映像 ミスター・ベン オープニングテーマ			
Charlotte's piggy bank 原画	6	1996	アンデルセン・プレス
せかいで いちばん つよい国 原画	12	2004	アンデルセン・プレス
パネル きたむらさとしのマッキーさんへの想い「デビッドは、いつも、何かを見ていた」	1		
パネル 絵封筒(efuto)とは… 松田素子「デビッドは「絵封筒」で、みんなに笑顔を贈った。」	1		
アンデルセン・プレスのクラウド社長やきたむらさとしと交わした絵封筒	11		※複製を含む
ぞうのエルマー			
ぞうのエルマー 原画	16	1968、1989	ドブソン・パブリッシング、アンデルセン・プレス
映像 デビッド・マッキーによる「ぞうのエルマー」朗読			
日本のエルマーシリーズ 原画			
エルマー！エルマー！	2	1991	アンデルセン・プレス
エルマーのたけうま	3	1993	アンデルセン・プレス
エルマーとウイルバー	4	1994	アンデルセン・プレス
エルマーがとんだ	2	1997	アンデルセン・プレス
エルマーとまいごのくま	7	1999	アンデルセン・プレス
エルマーとカンガルー	4	2000	アンデルセン・プレス
エルマーのゆきあそび	2	1995	アンデルセン・プレス
エルマーとちょうちょ	3	2002	アンデルセン・プレス
エルマーとカバ	1	2003	アンデルセン・プレス
エルマーとヘビ	2	2004	アンデルセン・プレス
エルマーとローズ	3	2005	アンデルセン・プレス
エルマーとゼルダおばさん	1	2006	アンデルセン・プレス
エルマーとにじ	1	2007	アンデルセン・プレス
エルマーとおおきなとり	2	2008	アンデルセン・プレス
エルマーのとくべつな日	5	2009	アンデルセン・プレス
エルマーとスーパーゾウマン	2	2011	アンデルセン・プレス
エルマーと100さいのたんじょうび	3	2012	アンデルセン・プレス
エルマー はやいのはだれ？	2	2016	アンデルセン・プレス
エルマーのたんじょうび？	1	2019	アンデルセン・プレス
エルマーのおてんき	2	1994	アンデルセン・プレス
エルマーのいちにち	2	1994	アンデルセン・プレス
エルマーいろいろ	1	1994	アンデルセン・プレス
エルマーのともだち	2	1994	アンデルセン・プレス
ぞうのエルマーのかくれんぼ	7	1997	アンデルセン・プレス
エルマーのあたらしいともだち	1	2002	アンデルセン・プレス
世界のエルマーシリーズ 原画			
Look! There's Elmer	12	2000	アンデルセン・プレス
Elmer And The Monster	5	2015	アンデルセン・プレス
Elmer and the Flood	1	2016	アンデルセン・プレス
Elmer and the Tune	5	2017	アンデルセン・プレス
Elmer's Walk	1	2018	アンデルセン・プレス
Elmer and the Lost Treasure	15	2020	アンデルセン・プレス
Elmer and the Gift	14	2021	アンデルセン・プレス
〈絵本以外の作品〉 原画			
ポスター Elmer day parade Poster	1		
Elmer's Day Parade	1		
プロモーションアート Elmer-Painter	1		
カードデザイン Elmer-AquaElmer	1		
カードデザイン Elmer-New Arrival	1		
カードデザイン Stalk-New Arrival	1		
カードデザイン Elmer	1	1993	
トリビアパネル（デビッド・マッキー 一問一答）			
10			
その他			
紙芝居 エルマーのとくべつな日	1		
ぞうのエルマー 大型ぬいぐるみ	1		
エルマー 大型ぬいぐるみ	1		BL 出版

(3) 企画展「小林修写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点 歩いた風土、見抜いた時代」

姫路ゆかりの作家司馬遼太郎氏の生誕百年を記念して開催。

司馬氏のライフワーク「街道をゆく」が連載された「週刊朝日」(2023年5月休刊)で続いていた「司馬遼太郎シリーズ」を飾った小林修氏(朝日新聞出版写真映像部長)撮影の写真から選りすぐりの140作品を展示した。「街道をゆく」とそれに関連する小説、エッセイなどの内容に応じて撮られた写真は、新鮮な時空の魅力を引きだしており、司馬作品の数多のシーンを振りかえるスケールの大きな展示となった。

富士フィルム関連の展示場(東京、大阪)で開催され好評を博した展覧会の巡回展であったが、姫路文学館の展示では「官兵衛と秀吉の戦国」の章を設け、播磨関係の写真を追加した。



会 期 令和5年(2023)10月7日(土)～11月26日(日)

※休館日 毎週月曜日(ただし、10月9日(月・祝)は開館)、10月10日(火)、11月24日(金)

会 場 姫路文学館 北館

観 覧 料 一般310円、大学・高校生210円、中学・小学生100円(常設展観覧料)

※20名以上の団体は2割引

主 催 姫路文学館

特別協力 公益財団法人司馬遼太郎記念財団

協 力 朝日新聞出版

監 修 村井重俊(元「週刊朝日」編集委員)

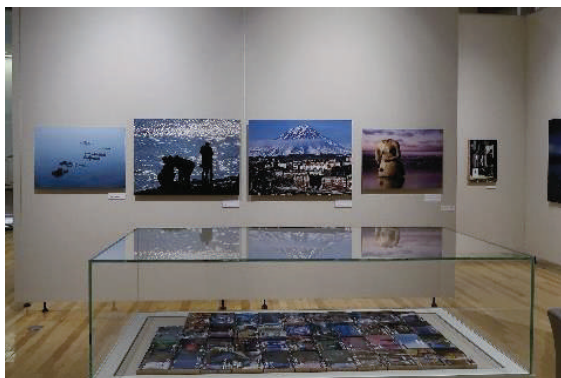
後 援 朝日新聞社姫路支局

開催日数 43日間

観覧者数 2,018人

写真点数 約140点(ほかに、「司馬遼太郎シリーズ」MOOKなどの書籍、村井重俊氏執筆の解説パネル等を展示)

印刷物等 ポスターA3／チラシA4



第1会場



第2会場

関連行事

トーク・イベント 写真家と担当記者が「週刊朝日」司馬遼太郎シリーズを語る

日時 令和5年10月8日（日） 午後1時30分～3時

会場 姫路文学館 講堂

講師 小林修（朝日新聞出版写真映像部長）、村井重俊（元「週刊朝日」編集委員）

参加者 60人

備考 このトークの全記録を「姫路文学館紀要 27号」に収載している。



小林修氏



村井重俊氏

● 写真作品リスト

作品名	街道等	寸法
『街道をゆく』		
白鬚神社（滋賀県高島市）	湖西のみち	880×1200
朽木（滋賀県高島市）	湖西のみち	580×800
津軽鉄道・大沢内駅	北のまほろば	580×800
津軽鉄道・嘉瀬駅	北のまほろば	580×800
津軽・蓼ヶ沢町	北のまほろば	430×600
津軽のテラー	北のまほろば	430×600
十三湖	北のまほろば	1090×1500
弘前城の桜	北のまほろば	B1（728×1030）
馬毛島	種子島みち	B1（728×1030）
黒潮の海と雲	沖縄・先島への道	B1（728×1030）
嘉手納基地	沖縄・先島への道	A1（594×841）
種取祭	沖縄・先島への道	A1（594×841）
与那国島	沖縄・先島への道	A1（594×841）
竹富島 1	沖縄・先島への道	430×600
竹富島 2	沖縄・先島への道	A1（594×841）
竹富島 3	沖縄・先島への道	430×600
九十九島	肥前の諸街道	A1（594×841）
オランダ堀	肥前の諸街道	A1（594×841）
白兔海岸	因幡・伯耆のみち	A1（594×841）
弓ヶ浜から大山	因幡・伯耆のみち	A1（594×841）
神田古書祭	神田界限	A2（420×594）
お茶の水界限	神田界限	A2（420×594）
隅田川	本所深川散歩	A2（420×594）
富岡八幡宮例祭（東京都江東区）	本所深川散歩	430×600
春の大横川（東京都江東区）	本所深川散歩	430×600
北海道樺戸郡浦臼町	オホーツク街道	580×800
宗谷の道	オホーツク街道	A1（594×841）
オホーツク海（北海道根室市）	オホーツク街道	580×800
樺太の廃船	オホーツク街道	A1（594×841）
間宮海峡（サハリン）	オホーツク街道	720×1000
活火山コリャークスキー（カムチャツカ）	オホーツク街道	720×1000
オホーツクヴィーナス（モヨロ貝塚）	オホーツク街道	580×800
三四郎池	本郷界限	580×800
東大赤門	本郷界限	720×1000
高度1万3700メートルからみた東京	本郷界限	1020×1500

アラン諸島の牛	愛蘭土紀行	A1 (594×841)
イニシュモア島 (アイルランド)	愛蘭土紀行	720×1000
オスカー・ワイルド像 (ダブリン)	愛蘭土紀行	430×600
トリニティ・カレッジ図書館 (ダブリン)	愛蘭土紀行	430×600
リバプール	愛蘭土紀行	450×650
モンゴルの祭りナードム (ウランバートル郊外)	モンゴル紀行	720×1000
モンゴル・ゴビ砂漠	モンゴル紀行	1020×1500
ゴビの遊牧民	モンゴル紀行	A1 (594×841)
砂漠の力士	モンゴル紀行	430×600
スフバートル広場 (ウランバートル)	モンゴル紀行	430×600
ゴビの馬	モンゴル紀行	B1 (728×1030)
鳴門の渦潮	阿波紀行	880×1200
「竹内街道」の少年	竹内街道	880×1200
官兵衛・秀吉の戦国		
余呉湖		A1 (594×841)
広峰山		A1 (594×841)
朽木谷 (滋賀県高島市)		610×762
安土城		B2 (515×728)
室津		A1 (594×841)
佐用町		B1 (728×1030)
備中高松城跡		B1 (728×1030)
播磨灘		B1 (728×1030)
名護屋城		B1 (728×1030)
姫路城		A1 (594×841)
山崎		A1 (594×841)
龍野の町並み		B1 (728×1030)
中津		B1 (728×1030)
火縄銃演武 (愛知県新城市「設楽原決戦場まつり」で)		580×800
関ヶ原		B1 (728×1030)
鷹狩り (東京都瑞穂町で)		580×800
大阪城		610×762
黒田官兵衛ゆかりの城々 ー①備前福岡城跡、②国府山城跡、③志知城跡、④上月城跡、⑤福岡城址・黒田如水屋敷跡、⑥有岡城跡、⑦御着城跡、⑧三木城跡		B1 (728×1030)
早朝の播磨灘		720×1000
伊賀上野城／伊賀の竹林／阿弥陀ヶ峰／伏見城		610×762
犬山城 (愛知県犬山市)／長浜城 (滋賀県長浜市)		610×762
『坂の上の雲』		
松山城 (愛媛県松山市)		580×800
松山市 (愛媛県)		430×600
松山・道後温泉		430×600
片瀬海岸 (神奈川県藤沢市)		720×1000
テムズ川 (ロンドン)		580×800
旅順 (大連市旅順口区) 1		430×600
旅順 (大連市旅順口区) 2		580×800
海軍記念日 (ロシア・サンクトペテルブルク)		720×1000
ベルリン・アレクサンダー広場		430×600
戦勝記念塔 (ドイツ・ベルリン)		580×800
ピョートル大帝像 (ロシア・サンクトペテルブルク)		720×1000
瀋陽 (旧奉天) 駅		430×600
記念艦三笠		580×800
沖ノ島西方海域		580×800
『風塵抄』『この国のかたち』		
東京スカイツリーから見た都心		593×830
伊勢神宮内宮		593×830
東大寺盧舎那仏座像		593×830
サル山温泉 (函館市熱帯植物園)		593×830
奈良・若草山		593×830
甲浦 (高知県東洋町)		593×830
夕暮れの斐伊川 (島根県)		593×830
出雲大社拝殿の大注連縄 (島根県出雲市)		593×830
東京・渋谷		593×830
「日刀保たたら」 (島根県奥出雲町)		593×830

幕末の群像－龍馬・土方・西郷		
松下村塾（山口県萩市）		580×800
壬生寺（京都市中央区）		508×610
鉢金（土方歳三資料館蔵）		508×610
和泉守兼定（土方歳三資料館蔵）		508×610
金戒光明寺（京都左京区）		508×610
会津若松城		430×600
河井継之助終焉の地（福島県只見町塩沢）		430×600
桂浜・竜王岬		580×800
龍馬通り（長崎市）		610×762
坂本龍馬・中岡慎太郎遭難之地（京都市中京区河原町通）		610×762
瀬戸内海（広島県福山市）		610×762
高千穂峰山頂（宮崎県）		610×762
桜島		580×800
鰻温泉（鹿児島県指宿市）		508×610
甲浦（高知県東洋町）		508×610
京都御苑蛤御門（京都市上京区）		508×610
「徳の交わり」銅像		508×610
東京スカイツリー		720×1000
西郷隆盛像（上野公園）		720×1000
宗教の世界－親鸞からザヴィエル		
海上マリア像（熊本県天草市）		580×800
黒崎教会（長崎市上黒崎町）		280×400
黒崎教会（長崎市上黒崎町）		720×1000
日本二十六聖人記念館そばにある記念碑（長崎県西坂公園）		430×600
天龍寺の修行僧（京都・嵐山）		430×600
二月堂の松明（東大寺）		430×600
修二会での「五体投地」（東大寺）		580×800
四国遍路の一番札所「霊山寺」（徳島県）		430×600
「両祖大師降誕会」（根来寺）		580×800
神事「オヒデリサマ」での元山送り		430×600
「オヒデリサマ」で行列が来る前、雷命神社の鳥居で手をあわせる女性		580×800
室戸の海	『空海の風景』	A1（594×841）
赤岸鎮	『空海の風景』	A1（594×841）
西安の踊り	『空海の風景』	A1（594×841）
満濃池	『空海の風景』	A1（594×841）
その他		
司馬遼太郎の本棚		1000×1500

● 書籍リスト

書名	出版社	発行
「週刊司馬遼太郎」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞社	2006 年 11 月 30 日
「週刊司馬遼太郎Ⅱ」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞社	2007 年 5 月 1 日
「週刊司馬遼太郎Ⅲ」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞社	2008 年 2 月 1 日
「週刊司馬遼太郎Ⅳ」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2008 年 11 月 15 日
「週刊司馬遼太郎Ⅴ」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2009 年 6 月 25 日
「週刊司馬遼太郎Ⅵ」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2010 年 4 月 5 日
「週刊司馬遼太郎Ⅶ」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2010 年 11 月 30 日
「週刊司馬遼太郎Ⅷ」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2011 年 10 月 25 日
「週刊司馬遼太郎Ⅸ」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2012 年 11 月 30 日
「司馬遼太郎の街道Ⅰ」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2013 年 8 月 5 日
「司馬遼太郎の街道Ⅱ」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2014 年 3 月 25 日
「司馬遼太郎の街道Ⅲ」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2014 年 9 月 30 日
「司馬遼太郎の街道Ⅳ」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2015 年 3 月 30 日
「司馬遼太郎の言葉」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2015 年 12 月 20 日
「司馬遼太郎の言葉Ⅱ」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2016 年 4 月 5 日
「司馬遼太郎の言葉Ⅲ」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2016 年 12 月 25 日
「司馬遼太郎と宗教」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2017 年 12 月 10 日
「司馬遼太郎と明治」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2018 年 10 月 30 日
「司馬遼太郎と明治 「坂の上の雲」の時代」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2019 年 8 月 30 日
「司馬遼太郎と昭和」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2020 年 4 月 5 日
「司馬遼太郎の戦国」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2021 年 3 月 25 日
「司馬遼太郎 もうひとつの幕末史」	週刊朝日 MOOK 朝日新聞出版	2022 年 4 月 5 日

「司馬遼太郎と鎌倉」	週刊朝日 MOOK	朝日新聞出版	2022 年 12 月 30 日
「司馬遼太郎の現在地」	週刊朝日 MOOK	朝日新聞出版	2023 年 4 月 10 日
小林修『特装版 司馬遼太郎「街道をゆく」の視点』		朝日新聞出版	2023 年 6 月 30 日
小林修『司馬遼太郎「坂の上の雲」の視点』		朝日新聞出版	2022 年 10 月 30 日
司馬遼太郎『街道をゆく』（新装版）1～4 3	朝日文庫	朝日新聞出版	2008 年～2009 年

● パネルリスト

パネル内容

章タイトル	『街道をゆく』
	官兵衛・秀吉の戦国
	『坂の上の雲』
	『風塵抄』『この国のかたち』
	幕末の群像－龍馬・土方・西郷
	宗教の世界－親鸞からザヴィエル
「街道」解説	「湖西のみち」
	「北のまほろば」
	「種子島みち」
	「沖縄・先島の道」
	「肥前の諸街道」
	「因幡・伯耆のみち」
	「神田界限」
	「本所深川散歩」
	「オホーツク街道」
	「本郷界限」
	「愛蘭土紀行」
	「モンゴル紀行」
	「阿波紀行」
	「竹内街道」
『空海の風景』解説	
『街道をゆく』街道マップ	
『街道をゆく』文庫表紙パネル（1）	1 巻から 12 巻
『街道をゆく』文庫表紙パネル（2）	13 巻から 24 巻
『街道をゆく』文庫表紙パネル（3）	25 巻から 36 巻
「街道をゆく」文庫表紙パネル（4）	37 巻から 43 巻
司馬遼太郎記念館館長挨拶	
小林修氏ステートメント&略歴	
村井重俊氏ステートメント&略歴	
司馬遼太郎略歴	
司馬遼太郎記念財団紹介	

(4) 特別展「没後50年 姫路が生んだ二人の作家 阿部知二と椎名麟三展」

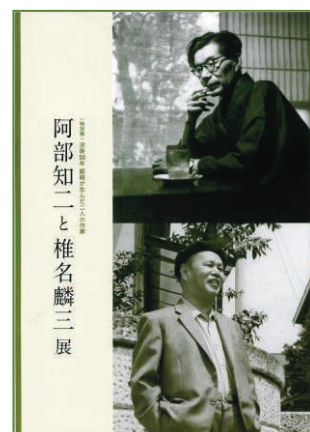
ともに没後50年の節目を迎えた作家、阿部知二（1903～1973）と椎名麟三（1911～1973）の生涯と時代を彩った代表作を紹介した展覧会。作家の人となりに加え、研究、翻訳、戯曲、映画、社会貢献など、小説にとどまらない作家活動の全体を、直筆資料や旧蔵資料、愛用品などで伝えた。

第1会場では、作家前史としてデビューに至るまでの生い立ちを辿り、それぞれの特徴を際立たせながら〈作家の原点〉に言及した。

後半となる第2会場では、作家として深化してゆく道のを、代表作を中心に、文学研究や戯曲のほか幅広い創作活動も取り上げながら追った。その中で、文化活動や社会活動、特に戦後の姫路の文化復興や発展に対する取り組みと、その背景となった体験にも注目。意図せず生み出された二人の関係を浮き彫りにし、二人が姫路の〈今〉に欠かせない作家たちであったことを振り返る展覧会となった。



会 期	令和5年（2023）12月2日（土）～令和6年（2024）2月4日（日） ※休館日：毎週月曜日、12月26日（火）～1月5日（金）、1月9日（火） ただし、1月8日（月・祝）は開館。
会 場	姫路文学館 北館
観 覧 料	一般700円、大学・高校生400円、中学・小学生200円 ※20名以上の団体は2割引
主 催	姫路文学館
後 援	朝日新聞姫路支局、NHK神戸放送局、神戸新聞社、産経新聞社神戸総局、サンテレビジョン、 播磨時報社、播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、姫路シティFM21、毎日新聞姫路支局、 読売新聞姫路支局、ラジオ関西
開催日数	46日間
観覧者数	1,060人
出品点数	約430点
印刷物等	ポスターA3、B2、B3／チラシA4
図 録	A4判 56ページ オールカラー 500部 令和5年12月2日刊行 販売価格1,100円 〔寄稿〕 「阿部知二のことー「冬の宿」をめぐる回想ー」（再録） 中西進（国文学者、姫路文学館初代館長） 「椎名文学と私」佐伯一麦（小説家）



図録



第1会場



第2会場

関連行事

※（１）～（４）の会場はすべて姫路文学館講堂（北館３階）

（１）映画「冬の宿」（1938年 東京発声・国立映画アーカイブ蔵）上映会

日時 令和５年12月2日（土）午後1時30分～3時

協力 兵庫県映画センター

参加者 110人

（２）朗読会「ふたりの「姫路」」

日時 令和５年12月17日（日）午後1時30分～3時

出演 音訳ボランティアグループ サークルさえずり

参加者 45人



音訳ボランティアグループ サークルさえずり

（３）展示解説会

日時 令和５年12月23日（土）午後1時30分～3時

講師 担当学芸員

参加者 25人

（４）椎名麟三セミナー「椎名麟三の思想」

日時 令和６年1月13日（土）午後1時30分～3時

講師 玉田克宏（学芸員）

参加者 35人



玉田克宏 学芸員

(5) 来場者プレゼント【姫路文学館友の会協賛事業】
 配布 朗読音声QRコード付きしおり
 朗読 阿部知二「冬の宿」 出演：桂佑輔（声優）
 椎名麟三「美しい女」 出演：速水奨（声優）
 デザイン 伊藤由美子



速水奨氏（左）と桂佑輔氏（右）



【配布しおり】椎名麟三（左）と阿部知二（右）

出品目録

（所蔵欄に記載のないものは、すべて姫路文学館蔵。そのうち直筆資料や遺品を除く作家の旧蔵資料について＊を付した）

資料名	発行ほか	所蔵
◆ 導入 ◆		
写真 阿部知二 姫路城を背にして	昭和 20 年代前半 推定	
写真 椎名麟三 姫路城を背景に（撮影：林忠彦）	昭和 31 年(1956)	
『阿部知二全集』全 13 巻	昭和 49 年 (1974) 6 月～50 年 (1975) 7 月 河出書房新社	
『阿部知二作品集』全 5 巻	昭和 27 年 (1952) 8 月～昭和 28 年 (1953) 1 月 河出書房	
『椎名麟三全集』全 23 巻・別巻	昭和 45 年(1970)6 月～昭和 53 年(1978)3 月 冬樹社	
『椎名麟三信仰著作集』全 13 巻	昭和 52 年(1977)11 月～昭和 57 年(1982)1 月 教文館	
イラストボード 伊藤由美子画「阿部知二・椎名麟三」	令和 5 年 (2023) 制作	
第一章 阿部知二の原点		
一、ふるさとの風景―美作、出雲、姫路		
写真 生家跡に建つ生誕碑(岡山県美作市中山)	令和 5 年 (2023) 8 月撮影	
写真 阿部家墓地(岡山県美作市中山)	令和 5 年 (2023) 8 月撮影	
写真 兄公平と		
写真 上野権八郎と稲荷神社（現島根県出雲市大社町菱根）		
写真 稲荷神社（島根県出雲市大社町菱根）	令和 5 年 (2023) 8 月撮影	
写真 稲佐の浜（島根県出雲市大社町杵築北）	令和 5 年 (2023) 8 月撮影	
写真 弥山（島根県出雲市大社町）	令和 5 年 (2023) 8 月撮影	
写真 杵築中学校博物教室の外にて、一家	明治 45 年 (1912) 4 月 1 日	
出生届（控）	明治 36 年 (1903) 6 月 28 日付	*
杵築町尋常小学校 1 年生時の書き方の賞状	明治 43 年 (1910)	*
写真 大正末期の姫路市街地		
写真 昭和初期の姫路市坊主町（撮影：高橋秀吉）		
写真 姫路中学時代		
写真 家族写真	大正 5 年 (1916) 4 月 2 日	
写真 中学時代の随筆「池」	兵庫県立姫路中学校「学報」26 号 大正 7 年 (1918) 7 月 28 日	
写真 播磨国総社三ツ山大祭	平成 25 年 (2013) 4 月	
野里尋常小学校時代の図画	大正 2 年 (1913) 推定	
野里尋常小学校 4 年生時の褒状	大正 3 年 (1914) 3 月 26 日	*
野里尋常小学校 4 年生時の読み書き帳	大正 2 年 (1913)	
「地図」原稿	「行動」昭和 9 年 (1934) 4 月	
二 八高時代―〈歌よみ〉を夢見て		
写真 八高時代（制服姿）		

写真	八高短歌会（推定）	
写真	第八高等学校	
写真	第八高等学校時代の下宿 明治館	平成 5 年（1993）撮影
	明治館の宿泊帳	大正 11 年（1922）9 月～昭和 16 年（1941）4 月
	校章	*
	八高の学寮から父良平に宛てた葉書	大正 9 年（1920）10 月 2 日
	詩「城」「八高校友会雑誌十五周年記念臨時増刊号」詩歌号	大正 12 年（1923）5 月
	詩稿「城」断片	大正 12 年（1923）推定
写真	八高時代の歌稿手帳 冒頭ページ、兄公平による書き込み	大正 10 年（1921）
写真	剣が森（八高古墳 名古屋市瑞穂区）	令和 5 年（2023）9 月撮影
写真	砲兵工廠跡（名古屋市熱田区）	令和 5 年（2023）9 月撮影
写真	父阿部良平	令和 5 年（2023）9 月撮影
写真	鶴舞公園 奏楽堂（名古屋市昭和区）	令和 5 年（2023）9 月撮影
写真	八事山（名古屋市天白区）	令和 5 年（2023）9 月撮影
写真	八高時代（和服姿）	
	八高時代の歌稿手帳（2 冊）	大正 10 年（1921）8 月～11 年（1922）春
写真	兄阿部公平	明治 31 年～大正 12 年（1898～1923）
写真	今中楓溪による阿部公平への挽歌	「霸王樹」大正 14 年（1925）8 月 原品：関西大学図書館蔵
	兄阿部公平への挽歌	「霸王樹」大正 14 年（1925）8 月 関西大学図書館蔵
	兄阿部公平（号・桐花）短冊	*
	今中楓溪短冊	昭和 32 年（1957）4 月 26 日 *
	最近名古屋明細地図	明治 43 年（1910）3 月
	〈父阿部良平〉	
写真	父阿部良平（杵築中学校にて）	
写真	父阿部良平の碑（姫路市本町 姫路神社）	令和 5 年（2023）9 月撮影
	父阿部良平 履歴書	*
	阿部良平著『鉱物問答』	大正 15 年（1926）12 月 宝文館 *
	阿部良平著『動物問答』	昭和 2 年（1927）2 月 宝文館 *
	兵庫県博物学会編『播磨植物目録』	昭和 10 年（1935）11 月 *
	阿部良平 短冊「なにごとにも神にまかせし心もてわれいそしまむ身こそやすけれ」	*
	牧野富太郎から贈られた書 軸「朝夕に草木を吾れの友とせばこゝろ淋しき折ふしもなし」	昭和 11 年（1936） *
	与謝野晶子書「清水へ紙圍をよぎる花月夜こよひ逢ふ人皆なつかしき」	昭和 12 年（1937） * 個人蔵
三 東大時代—小説への覚醒		
写真	大学時代	
写真	東京帝国大学卒業写真	昭和 2 年（1927）
写真	エドモンド・ブランデン	
	「化生」	「朱門」創刊号 大正 14 年（1925）10 月
	大学時代の習作"White Poppy"	大正 13 年（1924）5 月
	「樹の話」	「青空」昭和 2 年（1927）2 月
	「辻馬車」	大正 15 年（1926）6 月
	阿部知二"Imaginative Sympathy—Remembrance"原稿	昭和 39 年（1964）推定
	卒論に使用した <i>POE AND HIS POETRY</i>	* 個人蔵
四 文学理論の模索—文壇デビュー・主知的文学論		
写真	新興芸術派倶楽部第一回総会（本郷燕楽軒）	昭和 5 年（1930）4 月 13 日
写真	「新人訪問記」	「文学時代」昭和 5 年（1930）2 月
写真	昭和 5 年（1930）頃の阿部知二	
写真	妻澄子と	昭和 5 年（1930）頃 推定
	「或青年の手記—美しい跛足の女」	「文芸都市」昭和 4 年（1929）1 月 *
	「愛のない風景」原稿（複製）	「文芸都市」昭和 3 年（1928）5 月 原品：日本近代文学館蔵
	「詩神」	昭和 6 年（1931）1 月 *
	「詩と詩論」	昭和 4 年（1929）9 月 厚生閣書店 *
	「シネマの黒人」	「近代生活」昭和 5 年（1930）3 月 *
	「ハアフ・バック事件」	「新青年」昭和 5 年（1930）12 月 *
	「恋とアフリカ—或るテノオルの話」	「文学時代」昭和 5 年（1930）4 月 *
	「日独対抗競技」	「新潮」昭和 5 年（1930）1 月
	新興芸術派十二人『モダン TOKIO 円舞曲』	昭和 5 年（1930）5 月 春陽堂
	『恋とアフリカ』	昭和 5 年（1930）5 月 新潮社
	『海の愛撫』	昭和 5 年（1930）10 月 新潮社
	『主知的文学論』	昭和 5 年（1930）12 月 厚生閣書店
	愛蔵のレコード"La Cumparsita" "Oh, Donna Clara" "The Pines of Rome"	
五 長編小説に挑む		
写真	『文学の考察』出版記念会記事	「読売新聞」昭和 9 年（1934）7 月 24 日 *
	「文学界」創刊号	昭和 8 年（1933）10 月 文化公論社
	「行動」	昭和 9 年（1934）1 月 紀伊國屋出版部 *
	「荒地」原稿	「行動」昭和 10 年（1935）2 月 吉備路文学館蔵
	『文学の考察』	昭和 9 年（1934）7 月 紀伊國屋出版部
	『文学の考察』出版記念会芳名録	*
	横光利一 阿部知二宛書簡	昭和 9 年（1934）9 月

オルダス・ハクスリー『恋愛対位法』原書 <i>Point counter point</i>	London：Chatto&Windus 1928 年	* 明治大学図書館蔵〈阿部知二文庫〉
マルセル・ブルースト『スワン家のほうへ』英訳書 <i>SWANN'S WAY</i>	NEW YORK MODERN LIBRARY （1930 年 再販）	* 個人蔵
〈文化学院〉		
写真 文化学院跡（東京都千代田区神田駿河台）	令和 5 年（2023）9 月撮影	
写真 文化学院の講師たち	昭和 8 年（1933）3 月 21 日	
写真 生徒たちと		
写真 三宅幾三郎と生徒たち		
『沈黙の女』	昭和 29 年（1954）5 月 東方社	
小野敏子 文化学院成績表	昭和 8 年（1933）7 月 13 日	
「現実・文学」	昭和 7 年（1932）7 月	
堀口大学 阿部知二宛書簡	昭和 7 年（1932 推定）2 月 7 日	
岡本かの子 阿部知二宛書簡	昭和 9 年（1934）5、6 月か	
瀬戸内晴美『かの子繚乱』	昭和 40 年（1965）5 月 講談社	
〈軽井沢〉		
写真 軽井沢から妻澄子に宛てた絵葉書	昭和 7 年（1932）	
写真 千ヶ滝の貸別荘にて	昭和 8 年（1933）推定	
写真 中野好夫と、追分の堀辰雄宅にて	昭和 10 年（1935）	
写真 旧阿部知二別荘（長野県北佐久郡軽井沢町千ヶ滝）		
写真 仙祿湖公園の文学碑（長野県佐久市 撮影：阿部信雄）	昭和 32 年（1957）建立	
軽井沢関連地図	平成 5 年（1993）作成	
色紙「タまけてもらさきふゝむ湖の四方の山べにいざよふ白雲」		
第二章 椎名麟三の原点		
一、「故郷はない」		
写真 おば伊勢田こべんと昇		
写真 大坪家の家族 大坪熊次（父）、みす（母）、昇（椎名麟三）、和子（妹）、実（弟）	大正 10 年(1921)頃	
写真 大坪家の旧居（電柱の左隣）	昭和 30 年(1955)頃	
写真 椎名麟三「菱の花」文学碑（姫路市書写）		
写真 姫路中学在学時（中学 2 年の頃）		
参考図版 曾左尋常小学校時代の大坪昇の通信簿（大正 10 年～13 年）		
福本白宇〈少年像〉※展示期間は、12 月 2 日～25 日		
福本白宇〈みす像〉※展示期間は、2024 年 1 月 6 日～2 月 4 日		
『凡愚伝』	昭和 42 年(1967) 5 月 日本基督教団出版局	
『母の像』	昭和 30 年(1955)12 月 河出書房	
「菱の花」原稿	昭和 35 年(1960)頃	
雪山山人述 立川文庫『第四十編 真田三勇士忍術名人 猿飛佐助』	大正 2 年 1 月 立川文明堂	
雪山山人述 立川文庫『第五十編 真田三勇士忍術名人 霧隠才蔵』	大正 3 年 1 月 立川文明堂	
「島崎藤村について」草稿		
クロボトキン『革命家の思出 クロボトキン自叙伝』（大杉栄 訳）	大正 9 年(1920)5 月 25 日 春陽堂	
写真 椎名麟三（左）と福本白宇（右）（撮影：林忠彦）	昭和 31 年(1956)	
福本白宇〈阿字観〉		
福本白宇〈大正十五年 書写村〉		
二、家出少年と社会思想		
写真 専校受験用に撮影した写真		
「自由と希望」原稿	昭和 48 年(1973)1 月 11 日脱稿	
『神の道化師』	昭和 30 年(1955) 10 月 新潮社	
ペーベル『婦人論 婦人の過去・現在・未来』（山川菊栄 訳）	大正 12 年(1923)3 月 アルス	
ダキン『縮刷 種の起原』（大杉栄 訳）	大正 6 年(1917) 12 月(4 版) 新潮社	
アンリイ・ファブル『昆虫記（一）』（大杉栄 訳）	大正 11 年(1922)10 月 叢文閣	
三、目の死と愛への疑いー転向		
写真 車掌時代の椎名麟三と親友の志船信之	昭和 5 年(1930)頃	
写真 椎名麟三『自由の彼方で』文学碑（神戸市長田区）		
マルクス、エンゲルス『文學・藝術論（思案選書 5059）』（川口浩 訳）	昭和 25 年(1950) 2 月 思索社	*
『マルクス＝エンゲルス全集』18 巻・20 巻（マルクス、エンゲルス往復書簡集）	昭和 5 年(1930)8 月、10 月 改造社	
ニーチェ『この人を見よ』（安倍能成 訳）	昭和 3 年(1928) 10 月 岩波書店	
改造文庫 第 1 部 第 143 篇『ニーチェ藝術論抄 2 「人間的なあまりに人間的な」抄抄』（井汲越次 訳）	昭和 14 年(1939)6 月（11 版） 改造社	*
ノート（無題・「ニーチェの思惟活動の特質を～」）	昭和 23 年(1948)頃	
『自由の彼方で』	昭和 29 年(1954) 3 月 大日本雄辯會講談社	
「自由の彼方で」原稿		
「（無題）」（自由の彼方で）草稿		
「蜘蛛の精神」原稿	昭和 23 年(1948)	
四、文学の道へードストエフスキー体験		
写真 昇と寿美	昭和 10 年(1935)頃	
写真 椎名麟三 同心社でのガリ版筆耕時代	昭和 12 年(1937)頃	
『私のドストエフスキー体験』	昭和 42 年(1967) 5 月 教文館	
飾り皿「苦悩を愛する」（椎名麟三 筆）	昭和 44 年(1969)9 月 1 日	
ドストエフスキー『ドストエフスキー全集 第 17 巻 悪霊Ⅲ』（米川正夫 訳）	昭和 17 年(1942) 10 月 河出書房	
「人間に於けるスタヴローギン性ースタヴローギンの告白からー」草稿	昭和 23 年(1948)頃	

ドストエフスキ『地下生活者の手記』（米川正夫 訳）	昭和 22 年(1947) 11 月	思索社	*
ドストエフスキ『ドストエフスキ全集 第 10 巻 未成年』（米川正夫 訳）	昭和 27 年(1952) 9 月	河出書房	*
A・L・ウオリンスキ『カラマーゾフの世界』（道本清一郎 訳）	昭和 17 年(1942)3 月	興風館	*
メレジュコフスキ『トルストイとドストエフスキ その生涯と藝術』（昇曙夢 訳）	昭和 10 年(1935)12 月	東京堂	*
A・G・ドストエフスカヤ『夫ドストエフスキの回想』上下（羽生操 訳）	上:昭和 16 年(1941) 6 月、下:昭和 16 年(1941)12 月	興風館	*
ツウルナイゼン『ドストエフスキ研究』（丸川仁夫 訳）	昭和 16 年(1941)12 月(2 版)	新生堂	*

五、創作活動への第一歩―習作と文学論

写真 椎名麟三 豊国社（東京都小石川）にて	昭和 15 年(1940)頃		
「島長の家」原稿	昭和 13 年(1938)6 月 29 日脱稿		
「焰の槍」原稿	昭和 13 年(1938) 12 月 18 日脱稿		
「少女と老音楽師」原稿	昭和 13 年(1938)12 月 29 日脱稿		
「男の言葉」原稿	昭和 14 年(1939)1 月 27 日脱稿		
「幸福」原稿	昭和 15 年(1940)9 月 15 日脱稿		
「鞆」原稿	昭和 15 年(1940)9 月 22 日脱稿		
「小さな種族」原稿	昭和 16 年(1941)12 月 21 日脱稿		
「（無題）第一章 林家及杉本家の人々」草稿	昭和 15 年(1940)頃		
「新創作」第 5 巻 1 号	昭和 18 年(1943) 1 月	豊国社	
フリードリヒ・ニーチェ『如是説法 ツアラトゥストラ』上下（登張竹風 訳）	上：昭和 21 年(1946)10 月、下：昭和 22 年(1947) 5 月	山本書店	*
「ツアラトゥストラ」メモ			
ヤスパアス『理性と実存』（草薙正夫 訳）	昭和 24 年(1949)12 月（再版）	創元社	*
アロイス・フィッシャー『ハイデッガーの哲学』（佐藤慶二 訳）	昭和 16 年(1941) 4 月	富山房	
ハイデッガー『存在と時間』上下（寺島實仁 訳）	昭和 17 年(1942)5 月(4 版)	三笠書房	*
ノート「読書と感想」	昭和 17 年(1942)		
『世界大思想全集 36 ケルケゴール 憂愁の哲理（宮原晃一郎 訳）ノベルグソン 意識に直接與へられたもの（廣瀬哲士 訳）ノオーエン 社會に就ての新見解（加藤一夫 訳）』	昭和 5 年(1930)10 月	春秋社	*
『ケルケゴール選集』全 3 巻（三木清ほか 訳）	昭和 10 年 11 月～12 月	改造社	
ノート「短篇乃生成」	昭和 19 年(1944) 1 月 1 日		
ノート「霧の旅愁」	昭和 18 年(1943)12 月 13 日脱稿		
「霧の旅愁」原稿	昭和 18 年(1943)12 月 30 日脱稿		
ノート「文学論覚書」（1）～（3）	昭和 18 年(1943)		
ノート「文学論覚書 正篇」	昭和 19 年(1944)		

六、実存主義作家の誕生

写真 東京大空襲の焼け跡 本所区（現墨田区）	昭和 20 年(1945)9 月 28 日	提供：東京大空襲・戦災資料センター	
ドストエフスキ『ドストエフスキ全集 スチェパンチコヴォ村とその住人』（米川正夫 訳）	昭和 18 年(1943)年 3 月	河出書房	*
船山馨『椎情歌』	昭和 21 年(1946) 1 月	創美社	
「黒い運河」草稿			
草稿（無題）（黒い運河）			
ノート「黒い運河」	昭和 21 年(1946)7 月 21 日		
「黒い運河」原稿	昭和 21 年(1946)7 月 24 日		
「展望」昭和 22 年(1947)2 月号		筑摩書房	
「重き流れのなかに」草稿			
『重き流れのなかに』	昭和 23 年(1948) 1 月	筑摩書房	
新潮文庫版『重き流れの中に』	昭和 41 年(1966) 1 月（22 版）	新潮社	
「次元」創刊号	昭和 23 年(1948) 5 月	次元社	
「死と愛の覚書―荒本守也氏へ捧ぐ―」草稿	昭和 23 年(1948)頃		
田辺元『哲学入門 哲学の根本問題』	昭和 24 年(1949) 3 月	筑摩書房	*
「キング」昭和 23 年(1948)1 月号		大日本雄弁会講談社	*
「アサヒグラフ」1948 年 5 月 12 日号		朝日新聞社	*

第三章 作家たちの創造

一、【昭和 10 年代 I】阿部知二 風前のヒューマンズムを描く

写真 昭和 12 年（1937）頃の阿部知二			
『冬の宿』	昭和 11 年（1936） 12 月	第一書房	
「冬の宿」第一回		「文学界」昭和 11 年（1936） 1 月	
ジェイムズ・ジョイス <i>A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN</i> 註解書の執筆に使用した原書	1928 年	NEW YORK MODERN LIBRARY	* 明治大学図書館蔵〈阿部知二文庫〉
萩原朔太郎 阿部知二宛書簡	昭和 12 年（1937） 4 月 8 日消印		
横光利一 阿部知二宛書簡	昭和 12 年（1937） 4 月 14 日消印		
阿部知二 佐々木米行宛書簡	昭和 46 年（1971） 7 月 10 日		
映画「冬の宿」紹介誌面	昭和 13 年 掲載誌不明		*
『北京』	昭和 13 年（1938） 4 月	第一書房	
『幸福』	昭和 12 年（1937） 11 月	河出書房	
島木健作 阿部知二宛書簡	昭和 12 年（1937） 12 月 6 日		
手塚一夫画「いちじく」	昭和 12 年（1937）		* 個人蔵
『街』	昭和 14 年 1 月	新潮社	
アンケート「学生はどんな文学を読んでいるか？」		「文芸」昭和 14 年（1939） 12 月	
『風雪』	昭和 14 年（1939） 9 月	創元社	
『光と影』	昭和 14 年 11 月	新潮社	
『旅人』	昭和 16 年 1 月	創元社	
『朝霧』	昭和 15 年 6 月	新潮社	

書「とほき代の夢みるごとしみやしろのはるの庭べにはるの雨はけぶりて」 「煙雨」	昭和 46 年（1971）推定 「中央公論」昭和 16 年（1941）5 月	吉備路文学館蔵
【昭和 10 年代Ⅱ】阿部知二 ジャワ従軍体験		
写真 兵隊姿の阿部知二		
写真 ジャワ・バリ島地図（『火の島ージャワ・バリ島の記』より）		
写真 旧ファン・モーク邸にて（バタビア）		
写真 読売新聞社主催「従軍文化人座談会」記念写真	昭和 17 年（1942）3 月 22 日	バタビアにて
写真 バリにて、小野佐世男らと	昭和 17 年（1942）	
徴用令書（出頭者注意書）	昭和 16 年（1941）11 月 15 日消印	*
身分証明書	昭和 17 年（1942）6 月 1 日	*
台湾高雄から子供たちに宛てた葉書	昭和 17 年（1942）1 月 26 日消印	
妻澄子宛書簡	昭和 17 年（1942）2 月	推定
ジャワ強行上陸作戦の成功を伝える記事	「東京朝日新聞」夕刊	昭和 17 年（1942）3 月 3 日
従軍時に身につけていた腕時計		
ジャワからの初めての便り 妻澄子宛	昭和 17 年（1942）3 月 23 日	バタビアにて
『火の島ージャワ・バリ島の記』	昭和 19 年（1944）7 月	創元社
「夢と科学 ポゴール植物園のこと」原稿	昭和 17 年（1942）8 月 18 日検閲印	吉備路文学館蔵
妻澄子宛書簡	昭和 17 年（1942）8 月 15 日	スカブミ
『死の花』	昭和 22 年（1947）9 月	新文芸社
ジャワの陣中新聞「うなばら」		*
『緑衣』	昭和 23 年（1948）6 月	山根書店
『大河』	昭和 22 年（1947）6 月	新潮社
二、【昭和 20 年代】阿部知二 傍観から行動へ		
写真 焼け跡の姫路市街地（撮影：高橋秀吉）	昭和 20 年（1945）夏	
『抒情と表現』	昭和 23 年（1948）11 月	養徳社
『黒い影』	昭和 24 年（1949）6 月	細川書店
『人工庭園』	昭和 29 年（1954）2 月	講談社
「人工庭園より女の園」映画化営業会議資料	昭和 29 年（1954）3 月 26 日	
『現代の文学』	昭和 29 年（1954）3 月	新潮社
『歴史のなかへ』	昭和 30 年（1955）6 月	大月新書
〈姫路文化連盟〉		
写真 「女性文化講座」開設当初の受講生らと	昭和 20 年 12 月	
写真 姫路文化連盟主催 色紙短冊展	昭和 21 年（1946）6 月 20 日	
写真 山田耕筈夫妻、初井しづ枝夫妻と	昭和 23 年（1948）	
「姫路文庫」蔵書印（「ボードレール全集」第 5 巻 昭和 14 年 河出書房）		*
貸本屋「姫路文庫」の機関誌「城」	No.1：昭和 22 年（1947）推定、No.2：昭和 22 年（1947）4 月	
『青葉』	昭和 22 年（1947）4 月	山根書店
『わかもの』	昭和 22 年（1947）6 月	高島屋出版部
歌人初井しづ枝と交わした「白鷺城下歌信」	「短歌研究」昭和 21 年（1946）5 月	
〈国際ペンクラブ大会〉		
写真 国際ペンクラブ大会出発前の阿部、北村喜八と見送りの人々	昭和 25 年（1950）8 月 17 日夜半	羽田空港
写真 国際ペンクラブ大会晩餐会（推定）	昭和 25 年（1950）	
ロンドン到着後初めて妻澄子に宛てた手紙	昭和 25 年（1950）8 月 22 日	
『ヨーロッパ紀行』	昭和 26 年（1951）6 月	中央公論社
国際ペンクラブ大会講演原稿“OUR CASEーThe Writer and the Idea of Freedom”	昭和 25 年（1950）8 月	
旅先の絵葉書から（ノートルダム寺院）		
写真 血のメーデー事件	昭和 27 年（1952）5 月 1 日	
写真 メーデー事件三周年の講演会にて	昭和 30 年（1955）	
〈城ー田舎からの手紙〉		
写真 姫路市坊主町の自宅書斎にて		
写真 姫路市坊主町の自宅付近（撮影：高橋秀吉）	昭和 20 年代（推定）	
写真 「城ー田舎からの手紙」文学碑（姫路市小利木町 清水橋西）	平成 3 年（1991）建立	
写真 『城』収録「信教」のモデルのひとつ、須鎗邸内の教会（姫路市山野井町 男山）	昭和 23 年（1948）推定	
浦川和三郎『浦上切支丹史』	昭和 20 年（1945）12 月再版	全国書房
『城ー田舎からの手紙』	昭和 24 年（1949）8 月	創元社
「暮春ー田舎からの手紙」	「文藝春秋」昭和 23 年（1948）7 月	
「蜀山人と寸翁」原稿	「読売市場」3 号	中国新報社 昭和 22 年 8 月
「読売市場」3 号	昭和 22 年（1947）8 月	中国新報社
玉林晴朗『蜀山人の研究』	昭和 19 年（1944）6 月	中央公論社
木庭喜久男画「姫路城」	昭和 29 年（1954）5 月	*
〈阿部知二ー姫路を描いた作品〉		
姫路城を背にして	昭和 20 年代前半	推定
写真 「煙雨」文学碑（姫路市 英賀神社社務所庭園）		
写真 小説「煙雨」のモデルとなった英賀神社木村百樹宮司	昭和 50 年（1975）	
写真 野路菊の自生地にて（姫路市白浜町）	昭和 41 年（1966）11 月	
色紙 兵庫県立姫路西高等学校校歌「友にあたう」歌詞（作曲・山田耕筈）複製		原品：兵庫県立姫路西高等学校蔵
「猫」	「新潮」昭和 24 年（1949）10 月	
「山鳴り」	「改造」昭和 25 年（1950）4 月	

「ハリマ文学集団」第3号	昭和24年(1949)9月	
三、【昭和20年代Ⅰ】椎名麟三 ニヒリズムを超える試み―「深夜の酒宴」から「永遠なる序章」へ		
写真 椎名麟三 梅崎春生宅にて	昭和23年(1948)2月頃	
梅崎春生『櫻島』	昭和24年(1949)12月(2版) 月曜書房	*
佐古純一郎『私の出会い』	昭和53年(1978) 審美社	
「近代文学」昭和23年(1948)6月号	近代文学社	*
「序曲」創刊号(終刊号)	昭和23年(1948)12月 河出書房	
「三つの訴訟状」草稿	昭和23年(1948)頃	
「深尾正治の手記」草稿	昭和23年(1948)頃	
『深尾正治の手記』	昭和23年(1948)1月 銀座出版社	
「ニヒリズムについて」草稿	昭和23年(1948)頃	
夜の会 編『新しい芸術の探求』	昭和24年(1949)5月 月曜書房	
岡本太郎〈空間〉	1933年、リトグラフ・紙	姫路市立美術館蔵
岡本太郎『日本の伝統』	昭和31年(1956)9月15日(再版) 光文社	*
写真 岡本太郎 椎名麟三文学碑除幕式にて	昭和55年(1980)8月24日	
「岡本太郎の横顔」草稿	昭和23年(1948)頃	
「総合文化」昭和23年(1948)10月号<復刻>	眞善美社	
「太宰治の死について」草稿		
「展望」昭和23年5月号	筑摩書房	
「永遠なる序章」草稿	昭和23年(1948)頃	
「永遠なる序章」原稿(複製)	昭和23年(1948)頃	
『永遠なる序章』(装幀:高橋忠彌)	昭和23年(1948)6月 河出書房	
河出市民文庫版『永遠なる序章』	昭和26年(1951)6月 河出書房	
『自由を求めて』	昭和24年(1949)2月 近代文庫社	
『病院裏の人びと』(装幀:高橋忠彌)	昭和25年(1950)4月 月曜書房	
「その日まで」作品ノート・草稿	昭和24年(1949)	
『その日まで』	昭和24年(1949)11月 筑摩書房	
【昭和20年代Ⅱ】椎名麟三 信仰への賭け―『赤い孤独者』、そして『邂逅』へ		
写真 赤岩栄と椎名麟三		
雑誌「個性」第1巻8号	昭和23年(1948)8月 思索社	
講演「二重に理不尽なもの(法政における講演)」原稿		
講演「聖書をどう読んできたか」(箱根)	昭和30年(1955)7月31日	
赤岩栄から贈られた聖書、および椎名旧蔵聖書(4種類)		
『私の聖書物語』	昭和32年(1957)2月 中央公論社	
色紙「一日の苦労はその日一日だけで十分である」		
『赤い孤独者』(装幀:麻生三郎)	昭和26年(1951)4月 河出書房	
「文学界」昭和27年8月号	文藝春秋新社	
「赤い孤独者」草稿		
『邂逅』(装幀:庫田發)	昭和27年(1952)12月 大日本雄弁会講談社	
「邂逅」原稿(「群像」発表時)		
「群像」第7巻4号	昭和27年(1952)4月 大日本雄弁会講談社	
『嫉妬』	昭和26年(1951)4月 早川書房	
四、【昭和30～40年代】阿部知二 知識人の使命に賭ける		
写真 トルストイの家の前で、青野季吉、高見順と	昭和33年(1958)5月	
写真 アジア・アフリカ(AA)作家会議理事国会議(コロンビア)	昭和36年(1961)1月	
写真 東京都各界代表日中友好団団長として	昭和39年(1964)推定 中国	
写真 三木清の墓前にて(現兵庫県たつの市)	昭和28年(1953)10月10日	
写真 三木清の墓(兵庫県たつの市)	令和5年(2023)9月撮影	
写真 阿部知二の墓(神奈川県川崎市 春秋苑)	令和5年(2023)撮影	
阿部知二訳 アグネス・スメドレー『偉大なる道 朱徳の生涯とその時代』上・下	昭和30年(1955)5、6月 岩波書店	
『夜明けに進む女性』	昭和31年(1956)4月 講談社	
『白い塔』	昭和38年(1963)10月 岩波書店	
「白い塔」原稿	昭和38年(1963)推定	
「わだつみのこえ」創刊号	昭和34年(1959)11月	
『世界文学の流れ』	昭和38年(1963)6月 河出書房新社	
『良心的兵役拒否の思想』	昭和44年(1969)7月 岩波書店	
阿部知二訳 エディタ・モリス『ヒロシマの花』	昭和46年(1971)7月 朝日新聞社	
『求めるもの 変動する世界と知性の試練』	昭和45年(1970)1月 勁草書房	
『日月の窓』	昭和34年(1959)4月 講談社	
『捕囚』	昭和48年(1973)7月 河出書房新社	
「捕囚」原稿	昭和46年(1971)	
「捕囚」口述テープ	昭和47年(1972)5月～48年(1973)3月	*
「捕囚」モデル対照表(編集者作成)		*
音声 「捕囚」口述筆記の最後の録音	昭和48年(1973)3月	
五、【昭和30～40年代】椎名麟三 円熟、さらにその先へ―『美しい女』から『懲役人の告発』まで		
写真 椎名麟三と正木鈿 山陽電鉄旧本社前にて	昭和29年(1954)2月	
写真 椎名麟三と原末治夫妻 NHK「私の秘密」のスタジオで	昭和37年(1962)5月	
参考図版 読売新聞(昭和30年12月25日)記事「1955ベスト・スリー「文学」」		

『美しい女』（装幀：山本敬輔）	昭和 30 年(1955)10 月	中央公論社
『ジャン・ジュネ全集』（平井啓之・朝吹三吉ほか 訳）第 1 巻～第 4 巻＊	昭和 42 年(1967) 5 月～昭和 43 年(1968) 2 月	新潮社
旅館 静波の接客用茶碗とマッチ		
椎名麟三 田磨新八宛書簡	昭和 29 年(1954) 8 月 25 日消印	
昭和 30 年度芸術選奨文部大臣賞 賞状	昭和 31 年(1956) 3 月 26 日	
『運河』（装幀：山田申吾）	昭和 31 年(1956)5 月	新潮社
『明日なき日』（装幀：中西勝）	昭和 34 年(1959) 7 月	人文書院
「小説新潮」昭和 31 年 5 月号		新潮社
写真 椎名麟三 山陽電鉄・運転手詰所にて （「小説新潮」昭和 31 年 5 月号企画「作家・故郷へ行く」）（撮影：林忠彦）	昭和 31 年(1956)	
写真 椎名麟三 整備士たちと （「小説新潮」昭和 31 年 6 月号企画「作家・故郷へ行く」）（撮影：林忠彦）	昭和 31 年(1956)	
写真 椎名麟三 須磨海浜公園にて （「小説新潮」昭和 31 年 7 月号企画「作家・故郷へ行く」）（撮影：林忠彦）	昭和 31 年(1956)	
写真 書写 女人堂にて （「小説新潮」昭和 31 年 5 月号企画「作家・故郷へ行く」）（撮影：林忠彦）	昭和 31 年(1956)	
写真 「文芸」の座談会にて〈あさって会〉の結成 （堀田善衛、埴谷雄高、椎名麟三、梅崎春生、中村真一郎、武田泰淳、野間宏）	昭和 31 年(1956) 8 月	
写真 〈あさって会〉東京湾でのハゼ釣り	昭和 35 年(1960) 5 月	
写真 第五次訪中文学者代表团（堀田善衛、中村光夫、竹田泰淳、椎名麟三、木村菊男）	昭和 36 年(1961)12 月	
写真 たねの会（小説部会）	昭和 40 年(1965)10 月	
堀田善衛・武田泰淳 椎名麟三宛はがき	昭和 37 年(1962) 2 月頃	
野間宏「跳躍力を持つ椎名麟三」原稿	昭和 34 年(1959)	
埴谷雄高「『現代の文学 28 椎名麟三集』解説」原稿	昭和 41 年(1966)	
中村真一郎『冷たい天使』	昭和 30 年(1955) 2 月	大日本雄弁会講談社 *
ノート「（無題・「十一月十八日午後一時羽田発インド航空～」）」		
「文芸雑誌 たね」第 1 号、第 14 号	1 号：昭和 39 年（1964）1 月 14 号：昭和 48 年（1973）8 月	たねの会
ノート「（無題）キルケゴール研究」	昭和 42 年(1967)	
キェルケゴール『死に至る病』（斎藤信治 訳）	昭和 16 年(1941) 12 月（第 3 刷）	岩波書店 *
『懲役人の告発』（装幀：辻光典）	昭和 44 年(1969) 8 月	新潮社
「懲役人の告発」原稿		
「西に東に」原稿		
安岡章太郎『花祭』（装幀：中本達也）	昭和 37 年(1962) 9 月	新潮社
「創作ノートⅠ 1956.9.3～ 主として文芸理論を中心として」	昭和 31 年(1956)	

第四章 創作のひろがり

一、阿部知二―翻訳、児童文学、映画		
映画「金の実る樹に恋が咲く」ポスター	昭和 36 年（1961）	松竹
映画「炎の肌」ポスター	昭和 26 年（1951）	大映
映画「冬の宿」スチール	昭和 13 年（1938）	東京発声
映画「朝霧」スチール	昭和 30 年（1955）	東宝
映画「光と影」スチール	昭和 15 年（1940）	東宝
映画「女の園」スチール	昭和 29 年（1954）	松竹
映画「街」スチール	昭和 14 年（1939）	東宝
阿部知二訳・ロバート・フロイト『牧場』（山本有三編『日本少国民文庫 14 世界名作選（一）』）	昭和 11 年（1936）2 月	新潮社
ジェイムズ・ジョイス <i>A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN</i> 註解書	昭和 10 年（1935）7 月	研究社 *
阿部知二訳、ハーマン・メルヴィル著『白鯨』（昭和 24 年～30 年 筑摩書房）と原書 <i>MOBY DICK</i> （1930 年 CASSEL & COMPANY）		*
阿部知二訳 エミリ・ブロンテ『嵐が丘』	昭和 50 年（1975）	岩波版ほるぷ図書館文庫版
阿部知二訳 エミリ・ブロンテ『嵐が丘』原稿		
明治大学の教え子、進一男に贈った書	昭和 35 年（1960）4 月	
『新聞小僧』	昭和 24 年（1949）	講談社
その他、手がけた翻訳書、英米文学研究書類		
二、椎名麟三―映画、演劇、メディア		
写真 映画「愛と死の谷間」の打ち合わせ（津島恵子、芥川比呂志、五所平之助、椎名麟三）	昭和 29 年(1954)6 月	
写真 ラジオドラマ「勉強部屋の窓」の出演者と （東山千栄子、内藤武敏、有馬稲子、山岡久乃、椎名麟三、穂積隆信、公卿圭子）	昭和 34 年(1959)頃	
「キネマ旬報」№57	昭和 28 年(1953) 2 月	キネマ旬報社
「キネマ旬報」№83	昭和 29 年(1954) 2 月	キネマ旬報社
映画「愛と死の谷間」台本	昭和 29 年(1954)頃	*
ラジオドラマ「台風之夜」台本	昭和 29 年(1954)	*
ラジオドラマ「勉強部屋の窓」台本	昭和 34 年(1959)	*
テレビドラマ「現実世界―人間の約束―」台本	昭和 39 年(1964)頃	*
写真 「悪霊」椎名麟三追悼公演上演風景	昭和 49 年(1974) 2 月	
写真 椎名麟三「家主の上京（復活のパロディ）」演出のようす	昭和 28 年(1953) 4 月	
「家主の上京（復活のパロディ）」上演アルバム	昭和 28 年(1953) 4 月	*
「第三の証言」パンフレット	昭和 29 年(1954)	劇団青年座 *
「第三の証言」ポスター	昭和 29 年(1954)	劇団青年座 *
「タンタロスの踊り」パンフレット	昭和 31 年(1956)	劇団青年座 *
「生きた心を」台本	昭和 31 年(1956)	劇団同人会 *
「自由の彼方で」「同人会」第一回上演台本	昭和 30 年(1955)	劇団同人会 *
「関西弁の効果」原稿	昭和 35 年(1960)	
『悪霊』	昭和 45 年（1970）11 月	冬樹社

第五章 姫路の文化振興		
一、阿部知二・城ペンクラブ		
写真	文学教室で講義中の阿部	昭和 25 年(1950) 8 月 1 日
	城ペンクラブ機関紙「城」No.3	昭和 25 年(1950) 8 月
	「城ペンまつり(城 PEN 祭り)」プログラム	昭和 25 年(1950) 4 月 1 日
	啄木祭のしおり	昭和 41 年(1966) 11 月 4 日
	「酒友」原稿	「文学界」昭和 39 年(1964) 9 月
二、椎名麟三と「姫山物語」		
写真	「姫山物語」上演風景	昭和 38 年(1963)11 月 16 日
	平野庸脩 編『地誌 播磨鑑』	昭和 33 年(1958)5 月 播磨史跡刊行会
	ミュージカル「姫山物語」(初演)ポスター	昭和 38 年(1963) 姫山物語制作協議会制作
	ミュージカル「姫山物語」(初演)チラシ・パンフレット	昭和 38 年(1963) 姫山物語制作協議会制作 *
	ミュージカル「姫山物語」(再演)台本	昭和 39 年(1964) *
	ミュージカル「姫山物語」(平成 10 年公演)パンフレット	平成 10 年(1998)10 月
	椎名麟三 黒川録朗宛書簡	昭和 38 年(1963)8 月 14 日消印
音声	ミュージカル「姫山物語」椎名麟三インタビュー	昭和 38 年(1963)11 月 17 日放送 ラジオ関西
	姫路市文化センター建設関連記事	「読売新聞」昭和 46 年(1971) 11 月 24 日
◆ 愛用品 ◆		
	阿部知二 机(ペンナイフ、文鎮、ペン皿、筆立て、硯、万年筆、眼鏡、聖書、英語文法書等)	
	阿部知二 愛用品(こけし、湯呑と茶托、ジャワの置物、舟橋聖一から贈られたペン皿)	
写真	ジャワの置物を手にした妻澄子と	
	椎名麟三 机(蛍光灯、鉛筆削り、鉛筆、ペン皿、ペン、原稿用紙、文鎮、家人を呼ぶ鈴、灰皿、ライター、クロロマイセチン箱)	
	椎名麟三 愛用品(ベレー帽、腕時計、ハンドバッグ、パイプ・パイプケース・表札・名刺)	
◆ むすび ◆		
〈阿部知二〉		
写真	姫路市坊主町の旧居跡	令和 5 年(2023) 4 月撮影
写真	出雲の文学碑「自然のなかに美しきものを探り 人間の中に善きものを求める」 (島根県出雲市大社町菱根)	昭和 43 年(1968) 11 月 3 日建立
	「阿部知二研究」全 30 号	平成 6 年(1994) 4 月～令和 5 年(2023) 4 月
〈阿部知二長男 阿部良雄〉		
写真	阿部良雄	
	代表作(『夢の展開』『シャルル・ボードレール』、阿部知二・阿部良雄共訳、エリザベス・ボウエン『パリの家』)	
〈椎名麟三〉		
	「椎名麟三研究」全 20 号	昭和 56 年(1981)8 月～平成 20 年(2008)3 月 椎名麟三研究会
	「椎名麟三 ―自由の彼方で」全 15 号	平成 8 年(1996)7 月～平成 29 年(2017)3 月 椎名麟三を語る会
	埴谷雄高 色紙「深夜の酒宴を君と一緒に…」	昭和 63 年(1988)6 月 22 日
	野間宏 色紙「影多く重し光鋭く多謝す」	昭和 63 年(1988)6 月 22 日
	中村真一郎 色紙「君より生き残ったことは…」	昭和 63 年(1988)6 月 22 日
◆ 配信音声ダイジェスト版 ◆		
朗読	阿部知二「冬の宿」(出演：桂佑輔)	
朗読	椎名麟三「美しい女」(出演：速水奨)	

(5) 企画展「生誕120年記念 木山捷平展」

岡山県笠岡市出身の小説家・詩人木山捷平（1904 - 1968）の生誕120年を記念した展覧会。

木山はその青春の一時期を、姫路や播州各地で過ごしたが、木山自身がほとんど語ることがなかったその「苦い青春期」をクローズアップした。

木山研究者のこれまでの研究成果をふまえ、また吉備路文学館をはじめとした関係諸氏の協力を得て、木山が加西市の北条尋常高等小学校（現・北条小学校）にいたことや、姫路で個人詩誌「野人」を発行所であった「南畝町288番地」の謎にせまるなど、不明であった時期についての新発見の資料や事実を提示することができた。

さらに当館が令和3年に東京の古書店から購入した54篇の詩稿群については、木山が戦時中（昭和18年）に刊行を画策していた第3詩集の原稿の一部であったことを解明し、その根拠や行方不明になった経緯等を明らかにするとともに、新発見資料として初公開することができた。

当館ならではの切り口に全国の木山ファンから静かな反響があり、遠方からの来館者も多く、没後50年以上を経ても、愛されつづける「木山さん」の魅力を発信することができた。



会 期	令和6年（2024）2月17日（土）～4月14日（日） ※休館日：毎週月曜日、3月21日（木）
会 場	姫路文学館 北館
観 覧 料	（～3/31）一般310円、大学・高校生210円、中学・小学生100円 （4/1～）一般450円、大学・高校生300円、中学・小学生150円 ※20名以上の団体は2割引
主 催	姫路文学館
協 力	吉備路文学館
開催日数	49日間
観覧者数	1,538人
出品点数	約200点
印刷物等	ポスターA3／チラシA4
図 録	A4判 40ページ オールカラー 500部 令和6年2月14日刊行 販売価格1,000円 〔寄稿〕

「木山さん」 岩阪恵子（小説家）

「“たった一人の友”大西重利と姫路市南畝町288の謎」 内藤省二（木山捷平研究家）

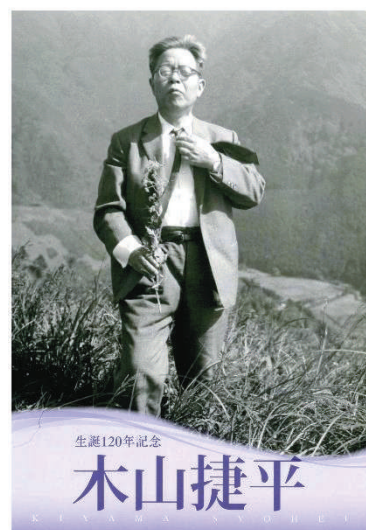


図 録

水屋珈琲（南館1階）提供コラボメニュー

「木山さんの〈桃と柚子のおもひで〉プレート」
特製 しょうへいさんのしおりつき



コラボメニューとしおり



展 覧 会 場

関連行事

※会場はすべて姫路文学館講堂（北館3階）

（1）展示解説会

日 時 令和6年2月25日（日）午後1時30分～3時
講 師 担当学芸員
参加者 30人



展示解説会

（2）世田谷ピンポンズライブ

木山捷平をうたうーおき忘れた下駄に雨がふる

日 時 令和6年3月24日（日）午後2時～3時30分
参加者 100人



世田谷ピンポンズ氏

出 品 目 録

提供者の記載がない資料はすべて館蔵資料

テーマ	資料・写真名	時 期	所蔵者・提供者
第1章 文学の原郷 故郷笠岡	写真 故郷の村 山口（岡山県笠岡市）	昭和19年（1944）4月	吉備路文学館蔵
	「わが文学の故郷」掲載「早稲田文学」	昭和3年（1928）	吉備路文学館蔵
	詩「ふるさと」の草稿（部分）		
	写真 村の入口に立つ石灯籠		
	写真 生家		
	写真 生家の土間		
	写真「木山園」の扁額		
	写真 木山家の墓地		

1 貧相な寝顔の子―三月生まれの運命	写真 長福寺の白壁		
	写真 母為と捷平（1歳）	明治38年（1905）	吉備路文学館提供
	写真 5歳の頃 父、静太 母為と	明治42年（1909）	
2 「百姓のジレタント」―父 木山静太	写真 新山小学校の頃		
	木山尾川（静太）漢詩草稿「哭児驥」		吉備路文学館蔵
3 中学校時代―文学少年という快	写真 次男驥一の墓		
	写真 矢掛中学校時代の捷平		
	写真 矢掛高校（旧制矢掛中学）		
	写真 矢掛の街並み		
	写真 現在の観音橋（岡山県笠岡市）		
	矢掛中学時代の創作ノート「つれづれ」	大正9年（1920）	吉備路文学館蔵
	矢掛中学時代の創作ノート「10ab」	大正10年（1921）	吉備路文学館蔵
	砂山宵二名義の手製の詩集「心の影」	大正10年（1921）	吉備路文学館蔵
	短歌・俳句集「空とぶ鳥」	大正10年（1921）	吉備路文学館蔵
	矢掛中学時代の創作ノート「7a」	大正10年（1921）	吉備路文学館蔵
	矢掛中学時代の創作ノート「3a」	大正9年（1920）	吉備路文学館蔵
	矢掛中学時代の創作ノート「4ab」	大正9年（1920）11月23日	吉備路文学館蔵
	矢掛中学時代の創作ノート「ゆき」	大正9年（1920）	吉備路文学館蔵
	有本芳水による揮毫作品頒布注文者メモ	昭和32年（1957）	
	写真 矢掛中学の文学仲間と	大正10年（1921）	吉備路文学館提供
第2章 やせがまんの青春	写真 姫路師範学校		〈高橋秀古文庫〉
1 姫路師範学校―あきれ果て候	写真 姫路師範学校時代の捷平	大正11年（1922）～12年（1923）頃	
	写真 歌誌「黄薇」	大正11年（1922）7月	吉備路文学館蔵
	写真 姫路師範学校在学中、自宅の縁側にて父から姫路の木山に宛てた手紙	大正11年（1922） 大正12年（1923）1月26日	吉備路文学館提供 吉備路文学館蔵
2 出石―新米教師	写真 出石の旧・弘道小学校跡地（豊岡市）		
	写真「弘道小学校跡」の石碑とレリーフ		
	写真 木山が下宿していた松枝付近		
	出石での詩作ノート（無題）	大正12年（1923）	吉備路文学館蔵
	出石での詩作ノート「詩稿Ⅰ」	大正13年（1924）～14年（1925）	吉備路文学館蔵
	出石での詩作ノート（無題）	大正13年（1924）	吉備路文学館蔵
3 上京―墓地の散歩	東京での詩作ノート「詩稿Ⅱ」	大正14年（1925）	吉備路文学館蔵
	写真 雑司ヶ谷霊園を歩く55歳の木山	昭和35年（2月）	
	東京での詩作ノート「詩稿Ⅲ」	大正14年（1925）	吉備路文学館蔵
4 都から播州へ―なぐりころしてはくれないか	詩作ノート「詩稿Ⅳ」	大正14年（1925）	吉備路文学館蔵
	写真 現在の加西市立北条小学校		
	写真 金刀比羅神社（加西市北条町東南）		
	写真 「コンビラ山」からの眺め		
	加西市北条にいた時代のノート「詩稿Ⅴ」	大正14年（1925）～大正15年	吉備路文学館蔵
	詩作ノートに書かれた「傷」	大正15年（1926）4月5日	吉備路文学館蔵
	故郷で療養中の頃のノート「詩Ⅵ」	大正15年（1926）	吉備路文学館蔵
	写真 大正4年（1915）頃の荒川小学校	昭和48年（1973）	『荒川小学校 開校八十周年記念誌』
5 ふたたびの姫路 ―"たった一人の友"	写真 現在の姫路市立荒川小学校		
	姫路時代の詩作ノート「詩Ⅶ」	昭和2年（1927）	吉備路文学館蔵
	写真 最初に下宿した町坪に立つ石灯籠		
	写真 千代田町の下宿があったあたり		
	「姫路市街全図」昭和4年	昭和4年（1929）	原資料：姫路市立城内図書館史料整理室蔵
	写真 当時、千代田町、南畝町方面をのぞむ	昭和2年（1927）	〈高橋秀古文庫〉
	個人詩誌「野人」1～5号	吉備路文学館蔵	
	写真 生家裏山の坂道		
	写真 南畝町288番地のあったあたり		
	写真 南畝町下ノ丁東側	戦前〈高橋秀吉コレクション〉	兵庫県立歴史博物館蔵
「野人」創刊―「捷平の我慢が捷った」	写真 南畝町津田本家南望	戦前〈高橋秀吉コレクション〉	兵庫県立歴史博物館蔵
	写真 南畝町職業女学校南側・東裏小路	昭和18年（1943）〈高橋秀吉コレクション〉	兵庫県立歴史博物館蔵
	写真 南畝町南端より南を望む	昭和12年（1937）	兵庫県立歴史博物館蔵
姫路の日々―「秋」と「友達」と「船場川」			

	参考図版 詩稿「友の秋」		原資料：笠岡市教育委員会蔵
	写真 夜の船場川(姫路市千代田町)		
	姫路時代の詩作ノート「詩Ⅶ」（昭和二、三	昭和2年（1927）	吉備路文学館蔵
	詩稿「秋の友達」	昭和18年（1943）	
	詩誌「南方詩人」	昭和5年（1930）1月	吉備路文学館蔵
	写真 教え子たちに囲まれた大西重利	昭和2年（1927）頃	内藤省二氏提供
6 「俺達の詩人」 木山捷平	写真 現在の姫路市立菅生小学校		
	写真 菅生小学校教師時代に木山が下宿して		
	写真 菅生小学校時代の木山捷平（1列目右）	昭和4年（1929）2月	原資料：姫路市立菅生小学校蔵
	父からの手紙	昭和3年（1928）4月17日	吉備路文学館蔵
	父からの手紙	昭和3年（1928）8月31日	吉備路文学館蔵
	菅生小学校時代のノート「詩Ⅷ」	昭和3年（1928）	吉備路文学館蔵
	「南方詩人」（第5輯）木山捷平号	昭和4年（1929）1月	吉備路文学館蔵
	ノート（無題）に書かれた『野』自序案	昭和3年（1928）推定	吉備路文学館蔵
	抒情詩社の内藤鍼策から詩集出版にあたって	昭和3年（1928）12月31日	吉備路文学館蔵
	第一詩集『野』	昭和4年（1929）4月 抒情詩社	
	「南方詩人」春号	昭和4年（1929）3月10日	吉備路文学館蔵
	「南方詩人」（第7輯）（木山捷平詩集	昭和4年（1929）7月1日	吉備路文学館蔵
	黄瀛からののがき	昭和4年（1929）5月23日	吉備路文学館蔵
	写真 菅生尋常高等小学校在籍簿	昭和4年（1929）2月	原資料：姫路市立菅生小学校蔵
【詩人坂本遼との心の交流】	写真 坂本遼		
	面会の日を伝える坂本遼 木山捷平宛のがき	昭和3年（1928）11月23日	吉備路文学館蔵
	写真 木山が坂本を訪ねた砲兵第十聯隊		
	坂本遼 詩集『野』の序文原稿	昭和4年（1929）1月	吉備路文学館蔵
	木山の出発を祝う坂本遼 木山捷平宛書簡	昭和4年（1929）3月18日	吉備路文学館蔵
	『野』の感想を伝える坂本遼 木山捷平宛書	昭和4年（1929）9月5日	吉備路文学館蔵
	上京して苦勞する木山に宛てた 坂本遼書簡	昭和4年（1929）11月4日	吉備路文学館蔵
第3章 駄目も目である 長い道程	伊藤信吉編『学校詩集』（復刻版）	昭和4年（1929）12月 学校詩集発行	
	写真 野長瀬正夫と	昭和7年（1932）2月頃	吉備路文学館提供
	第二詩集『メクラとチンパ』	昭和6年（1931）6月 天平書院	
	写真 『メクラとチンパ』出版記念会	昭和6年（1931）6月	吉備路文学館提供
	黄瀛からの『メクラとチンパ』の礼状	昭和6年（1931）8月8日	吉備路文学館蔵
	ノート「民謡選集」		吉備路文学館蔵
	木坂俊平民謡集『生きる唄』	昭和5年（1930）11月 淵と断崖社	
	木坂俊平『生きる唄』評（スクラップブッ	昭和6年（1931）4月	吉備路文学館蔵
1 結婚—父子の断絶	写真 新婚間もない頃、妻みさをと	昭和7年（1932）5月	吉備路文学館提供
	みさを代筆の詩稿「白い襦衣」	昭和18年（1943）	
	「音楽新潮」	昭和6年（1931）6月	吉備路文学館蔵
	写真 清瀬保二発表会	昭和7年（1932）4月20日	吉備路文学館提供
	写真 詩人たちとのつどい	昭和7年（1932）2月頃	吉備路文学館提供
2 詩から小説へ	「海豹」創刊号（「出石」掲載）	昭和8年（1933）3月	吉備路文学館蔵
	太宰治 木山捷平宛書簡（「出石」の感想）	昭和8年（1933）3月1日	吉備路文学館蔵
	写真「海豹」1巻3号（「うけとり」掲載）	昭和8年（1933）5月	吉備路文学館提供
3 父の死から—仕事をしない自分	「海豹」1巻7号（「子におくる手紙」掲載）	昭和8年（1933）9月号	吉備路文学館蔵
	太宰治 木山捷平宛書簡	昭和8年（1933）9月11日	吉備路文学館蔵
	「季刊文芸 鶴」第一輯	昭和9年（1934）4月	吉備路文学館蔵
	「青い花」創刊号	昭和9年（1934）12月	吉備路文学館蔵
	写真 晩年の父静太	撮影時期不詳	吉備路文学館提供
	「日本浪漫派」（「父危篤」掲載）	昭和11年（1936）10月	吉備路文学館蔵
	写真 母、弟妹らと	昭和9年（1934）6月	吉備路文学館提供
	「コギト」（「抑制の日」掲載）	昭和13年（1938）4月	吉備路文学館蔵
	『抑制の日』赤塚書房	昭和14年（1939）5月	
	文学者（「河骨」掲載）	昭和15年（1940）2月	吉備路文学館蔵
	『昔野』	昭和15年（1940）7月 ぐろりあ・そきえて	
	『河骨』	昭和16年（1941）3月 昭森社	

【発見—「失われた詩稿」】	原稿「『河骨』とその後」	昭和 36 年（1961）11 月	
	写真 井伏鱒二が寄せた書	昭和 16 年（1941）4 月	
	写真 阿佐ヶ谷会のメンバーと奥多摩へ遠足	昭和 17 年（1942）2 月 5 日	
	「雨月会」会報	昭和 18 年（1943）	吉備路文学館蔵
	「作品」（「枯木の花」掲載）	昭和 23 年（1948）4 月「作品」	吉備路文学館蔵
	『和気清麻呂』	昭和 19 年（1944）8 月 みたま出版	
	「大法輪」（童話「鸚哥と小間物屋」掲載）	昭和 14 年（1939）6 月	
	『和気清麻呂』	昭和 19 年（1944）8 月 みたま出版	
	詩稿の入っていた封筒		
	第三詩集「路傍の春」書籍企画局（若い人社）	昭和 18 年（1943）6 月 20 日	吉備路文学館蔵
	「路傍の春」内容紹介文届書（筆書房）	昭和 18 年（1943）8 月 18 日	吉備路文学館蔵
	宇野浩二序文原稿	昭和 18 年（1943）5 月	吉備路文学館蔵
	詩稿「野菊」	昭和 18 年（1943）	
	詩稿「月夜の時雨」	昭和 18 年（1943）	
	詩稿「遠景」	昭和 18 年（1943）	
	詩稿「桃郎」	昭和 18 年（1943）	
4 満州へ―百年を生きた苦しみ	詩稿「大根の詩」	昭和 18 年（1943）	
	詩稿「美しき不覚」	昭和 18 年（1943）	
	詩稿「水車」	昭和 18 年（1943）	
	詩稿「たうきび畑」	昭和 18 年（1943）	
	詩稿「おじいさんとおばあさん」	昭和 18 年（1943）	
	「anan」1778 号（「村上ラジオ 秋をけりけ」	平成 23 年（2011）10 月	内藤省二氏蔵
	詩稿「障子」	昭和 18 年（1943）	
	昭和 8 年の詩稿ノート（「秋」の原型）	昭和 8 年（1933）3 月 15 日	吉備路文学館蔵
	みさを夫人代筆の詩稿「晝の夢」	昭和 18 年（1943）	
	『木山捷平詩集』（特装限定本）	昭和 42 年（1967）3 月 昭森社	
	木山捷平旧蔵の新京地図		吉備路文学館蔵
	写真 新京 ダイヤ街の盛観（絵はがき）		原資料：愛知大学国際中国学研究センター蔵
	写真 新京 興安大路の街景（絵はがき）		原資料：愛知大学国際中国学研究センター蔵
	写真 順天公園より司法部を望む(新京)（絵		原資料：愛知大学国際中国学研究センター蔵
	写真 城内大馬路の盛観（絵はがき）		原資料：愛知大学国際中国学研究センター蔵
第 4 章 木山捷平の戦後	原稿「私と戦争」	昭和 40 年（1965）	
	原稿「望郷二首他」	執筆時期不詳	吉備路文学館蔵
	「素直」（「海の細道」掲載）	昭和 22 年(1947)1 月	吉備路文学館蔵
	「作品」（「どろ柳」掲載）	昭和 23 年（1948）3 月	
	「文学界」（「白兔」掲載）	昭和 25 年（1950）4 月	
	『大陸の細道』	昭和 37 年（1962）7 月 新潮社	
【阿佐ヶ谷会】	写真 引揚げの際の木山	昭和 21 年（1946）	吉備路文学館提供
	引揚げの際の名札 腕章	吉備路文学館蔵	吉備路文学館蔵
	佐世保引揚援護局発行の定着証明	昭和 21 年（1946）8 月 23 日	吉備路文学館蔵
	「瀬戸内海」（「帰国」掲載）	昭和 21 年 12 月「瀬戸内海」	吉備路文学館蔵
	写真 母の墓		
	井伏鱒二 木山捷平宛はがき	昭和 21 年（1946）9 月 2 日	吉備路文学館蔵
	写真 井伏鱒二と木山		吉備路文学館提供
	太宰治 木山捷平宛はがき	昭和 21 年（1946）9 月 13 日	吉備路文学館蔵
	写真 阿佐ヶ谷会のついで（青柳瑞穂邸）	昭和 29 年（1954）5 月 22 日	吉備路文学館提供
	阿佐ヶ谷会寄せ書き	昭和 23 年（1948）2 月	吉備路文学館蔵
	写真 木山の将棋の対局を見つめる井伏	昭和 33 年（1958）6 月 29 日	
	写真 生家にて	昭和 25 年	吉備路文学館提供
	妻みさを宛書簡	昭和 26 年（1951）8 月 5 日	吉備路文学館
	木山捷平 古賀残星宛はがき	昭和 32 年（1957）7 月 8 日	
	宮崎修二郎宛はがき	昭和 35 年（1960）10 月 11 日	
	原稿「柚子」	昭和 37 年（1962）	
2 いやなさびしい人生―痛みの孤独	原稿「痛みの孤独」	昭和 42 年（1967）1 月	吉備路文学館蔵

3 五十年 木山ブームの到来

原稿「愚かなる私ごと」	昭和 34 年（1959）1 月	
「文藝春秋」（「耳学問」掲載）	昭和 31 年（1956）10 月	
『耳学問』	昭和 32 年（1957）4 月	芸文書院
写真 骨折による退院直後	昭和 35 年（1960）8 月 18 日	
写真 姫路 書写山門教寺にて	昭和 36 年（1961）5 月 15 日	
「サンデー毎日」（「夢前川」掲載）	昭和 35 年（1960）4 月	
『苦いお茶』	昭和 38 年（1963）5 月	新潮社
写真 芸術選奨文部大臣賞受賞式	昭和 38 年（1963）4 月	吉備路文学館提供
芸術選奨祝賀参会者芳名帳	昭和 38 年（1963）5 月	吉備路文学館蔵
『日本の旅あちこち』	昭和 42 年（1967）4 月	永田書房
「旅」（「孤島栗島見たり聞いたり」掲載）	昭和 38 年（1963）7 月	吉備路文学館蔵
写真 取材旅行で	昭和 41 年（1966）1 月 15 日	
「週刊サンケイ」（「一等奥さま 木山みさを」	昭和 38 年（1963）7 月	吉備路文学館蔵
「別冊小説新潮」（「夫婦善哉」掲載）	昭和 42 年（1967）1 月	吉備路文学館蔵
原稿「六四会のこと」	昭和 40 年（1965）3 月	
「週刊文春」（「捷平さんの東京見物」掲載）	昭和 38 年（1963）5 月「週刊文春」	吉備路文学館蔵
写真 テレビ朝日「夫と妻」に出演した際	昭和 38 年（1963）7 月 21 日	
昭和 38 年「文壇酒徒番付」	昭和 38 年（1963）1 月	吉備路文学館蔵
「風景」（詩「五十年」掲載）	昭和 38 年（1963）	吉備路文学館蔵
色紙「五十年」複製		

4 終焉 一木山さんの不在

原稿「去年今年」	昭和 41 年（1966）9 月	吉備路文学館蔵
「群像」（「軽石」掲載）	昭和 42 年 1 月	
「軽石」草稿	昭和 41 年（1966）	吉備路文学館蔵
「軽石」NHK 放送台本	昭和 42 年（1967）9 月 23 日	吉備路文学館蔵
紙片に書きつけられた俳句	執筆時期不詳	
写真 大好きな焚火をする木山		
「小説現代」（「うちの嫁さん」掲載）	昭和 42 年（1967）3 月「小説現代」	吉備路文学館蔵
「別冊文藝春秋」（「悪魔の微笑」掲載）	昭和 42 年（1967）6 月	
原稿「真珠のプローチ」	昭和 41 年（1966）	
原稿「七人の乙女」	昭和 42 年（1967）	
「長春五馬路」草稿		吉備路文学館蔵
「長春五馬路」ゲラ		吉備路文学館蔵
『長春五馬路』	昭和 43 年（1968）10 月	筑摩書房
「群像」（「大安の日」掲載）	昭和 43 年（1968）5 月	
写真 病床での最後の姿	昭和 43 年（1968）8 月 15 日	
みさを夫人が清書した遺稿「点滴日記」	昭和 43 年（1968）8 月	吉備路文学館蔵
『感恩集 木山捷平追悼録』	昭和 45 年（1970）9 月	永田書房
「文藝春秋」（みさを夫人手記「病床記・夫木山捷平の死」）	昭和 44 年（1969）2 月	吉備路文学館蔵
「群像」（小沼丹追悼文）	昭和 43 年（1968）10 月	吉備路文学館蔵
色紙『駄目も目である』		
『臍に吹く風』	昭和 39 年（1964）4 月	サンケイ新聞
『茶の木』（創作集）	昭和 40 年（1965）2 月	講談社
『石垣の花』（随筆集）	昭和 42 年（1967）2 月	現文社
『角帯兵児帯』（随筆集）	昭和 43 年（1968）1 月	三月書房
『去年今年』	昭和 43 年（1968）9 月	新潮社
『長春五馬路』	昭和 43 年（1968）10 月	筑摩書房
『斜里の白雪』	昭和 43 年（1968）11 月	講談社
『見るだけの妻』	昭和 43 年（1968）11 月	講談社
『わが半生記』	昭和 44 年（1969）7 月	永田書房
『酔いざめ日記』	昭和 50 年（1975）8 月	講談社
『自画像』	昭和 50 年（1975）9 月	永田書房
『木山捷平父の手紙』	昭和 60 年（1985）3 月	三茶書房
『木山捷平全詩集』	昭和 62 年（1987）8 月	三茶書房
『木山捷平全集 全 2 巻』	昭和 44 年（1969）	新潮社

『木山捷平全集 全8巻』	昭和53年(1978)～54年(1979) 講談社	
『木山捷平ユーモア全集 全1巻』	昭和46年(1971) 永田書房	
写真 笠岡市古城山公園の「杉山の松」詩碑	昭和45年(1970)	
写真 生家庭の「ひんがしの」歌碑	昭和47年(1972)	
写真 笠岡市図書館の「五十年」歌碑	昭和63年(1988)	
写真 書齋にて(撮影小久保善吉)	昭和43年(1968)3月	
黄瀛から贈られた自筆の表札	昭和5年(1930)推定	吉備路文学館蔵
竹製花筒		吉備路文学館蔵
姫山人形(佐野信夫作)		吉備路文学館蔵
ハンチング		吉備路文学館蔵
万年筆 ペン皿 ペーパーナイフ		吉備路文学館蔵
腕時計		吉備路文学館蔵
色紙「あぶらげのうまきしはすとなりにけり」		
愛用の酒器		
灰皿代わりに使っていた片口		
愛用の湯呑と急須		
栗谷川虹『木山捷平の生涯』	平成7年(1995) 筑摩書房	
岩阪恵子著『木山さん、捷平さん』	平成8年(1996) 新潮社	
定金恒次『木山捷平の世界』	平成4年(1992) 岡山文庫	

2 第2回藤原正彦姫路文学館長講演会

我が国のオピニオンリーダーの一人である藤原正彦姫路文学館長（数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授）が、現在の日本社会、日本文化について講演するもの。

日 時 令和5年6月3日（土） 午後1時30分～3時
会 場 姫路キャスパホール
参加者 300人
演 題 「21世紀を担う子供たち」
内容等 日本の教育において次世代に何を手渡していくべきなのかを、論理的思考、知識、情緒力の三つのキーワードをもとに提示し、なかでも日本人の精神に宿る情緒、“側隠の情”こそが世界を希望に導くことを力説した。
前日の大雨の影響による東海道新幹線の運休のため急遽リモートでの出演となった。



会場風景

3 司馬遼太郎セミナー「司馬遼太郎の播磨」

姫路にゆかりの作家司馬遼太郎の生誕百年の記念事業を一環として、司馬が播磨の人物や歴史をどのように書いているかについてテーマ毎に当館の学芸員が話した。

講 師 玉田克宏（姫路文学館学芸員）
会 場 姫路文学館 講堂
受講者 191人（5月13日－70人、6月17日－71人、7月8日－50人）
日程と内容 令和5年5月13日（土）青野ヶ原からの青春
6月17日（土）三島由紀夫と司馬遼太郎
7月8日（土）立川文庫と司馬作品

尚、このセミナー・シリーズは市政出前講座の2回を追加した（8月27日（日）手柄公民館にて「播州門徒を語る」、11月8日（水）八幡公民館にて「宮本武蔵をどう描いたか？」）。

4 第25回司馬遼太郎メモリアル・デー

現代日本を代表する作家であった司馬遼太郎の業績を顕彰するために、毎年司馬の生誕日である8月7日に開催。

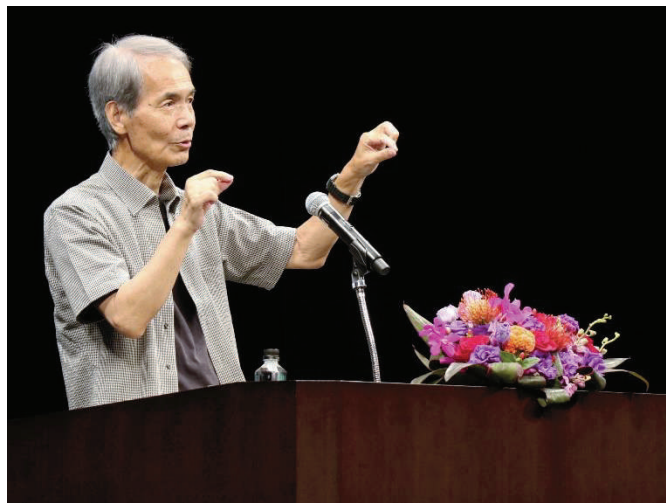
記念すべき「司馬遼太郎生誕100年」および「姫路城世界遺産登録30周年」にあたった第25回は、講師にノンフィクションの分野に常に新たな地平を切り拓いておられる司馬遼太郎賞受賞者の作家沢木耕太郎氏を招き、司会はラジオ関西番組のパーソナリティを務める田名部真理氏が担当した。

沢木氏は、「街道をゆく」は司馬遼太郎の紀行文の集大成、だが、多くの場合、取材旅行に画家、写真家、編集者などが同道し、マイクロバスを仕立てて行くのは果たして旅というのだろうかという気持ちがあったという。「仕事で東北地方によく行くことがあり、ふと『北のまほろば』（『街道をゆく41』）を読んでみたところ、たいへん面白く、その理由を考えた。折よくテレビで「街道をゆく」の取材番組が放送され、マイクロバスの中でメモをしたり資料を広げたりしている司馬が映った。司馬は、バスの中で現在を移動していくと同時に、昭和20年代の新聞記者だった時代、明治維新前後の時代、戦国時代と四つの層を持っており、その多様性が『北のまほろば』を面白くしていると気づく。そして当時すでに人気作家だった司馬が一人で自由に旅をすることができたか、いや周りに人垣ができてしまって自由に旅などできなかっただろう、マイクロバスはシェルターの役割を果たすと同時に、その中で司馬は自由に考えを巡らせることができたのだ。『街道をゆく』は、司馬の膨大な知識と好奇心や想像力によって書かれた」と語られ、最後に「膨大な知識に裏打ちされた強固な節度を持つ司馬のような成熟した大人は、今はもういない」と締めくくられた。

ラジオ関西が1時間の特別番組に編集し、8月16日（水）午後8時から放送した。

全記録を「姫路文学館紀要 No.27」に収録している。

日 時	令和5年8月7日（月） 午後1時30分～3時
会 場	アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター） 中ホール
協 賛	公益財団法人司馬遼太郎記念財団
参加者数	700人
内 容	講演：沢木耕太郎（作家） 「紀行の方法—司馬遼太郎を中心として」
備 考	当館は通常休館日であったが、臨時開館した。



沢木耕太郎氏

〈司馬遼太郎記念室特別展示〉

期間：令和 5 年 8 月 7 日（月）～11 月 26 日（日）

内容：以下の実物資料を展示 ※通常は常設展示として作品保護のため複製を展示

書「思無邪」

原稿「播磨灘物語」より「藤の花房・十三」

原稿「私の播州」

原稿「生きる励まし 中西進『万葉集と海彼』について」（第 3 回和辻哲郎文化賞選考評）

原稿「官兵衛と英賀城」

5 第9回藤原正彦エッセイコンクール

エッセイストとしても人気の高い当館の藤原正彦館長（数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授）が「読書」とともに推奨する「書くこと」の大切さを伝えるため、平成27年度に創設した。「生きることとは創ること」という藤原館長の言葉をキャッチフレーズに、何気ない日常、出会った人や書物など、心のどこかに宿り自分自身をつくり出しているものを見つめ、考え、文章にする機会を全国に発信するものである。

入賞作品は、表彰式において配布する作品集（冊子）や、姫路文学館ホームページに掲載。また、各部門の最優秀作は文化雑誌「バンカル」131号（令和6年3月 姫路市文化国際交流財団発行）でも紹介した。

■賞の概要

(1) 応募規定

対象は中学生以上、テーマは自由、400字詰め原稿用紙5枚以内。日本語で書かれた自作で、未発表のものに限る。令和5年9月15日〆切。

(2) 審査員

姫路文学館館長 藤原正彦（数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授）

(3) 賞

各部門とも〈最優秀賞〉〈優秀賞〉〈佳作〉各1編。賞状、藤原正彦館長のサイン入り著書と副賞を贈呈。
〔副賞〕

	最優秀賞	優秀賞	佳 作
中学生部門	図書カード1万円分	図書カード5千円分	図書カード2千円分
高校生部門	図書カード3万円分	図書カード1万円分	図書カード5千円分
一般部門	10万円	3万円	1万円

■受賞作及び受賞者

※学年、職業は発表日（令和5年12月20日）時点

【中学生部門】

最優秀賞 「自然に寄り添う幸せ」山本佳歩（兵庫県 小林聖心女子学院中学校3年）

優 秀 賞 「後悔しない生き方を」木村歩睦（兵庫県 姫路市立琴陵中学校1年）

佳 作 「私の意識改革」中島彩乃（兵庫県 姫路市立琴陵中学校2年）

【高校生部門】

最優秀賞 「言語偏愛者による新聞論」百瀬泉里（兵庫県立姫路西高等学校1年）

優 秀 賞 「五時のブランコ」林凜音（兵庫県立神戸高等学校1年）

佳 作 「ただ、ストイックなだけ」吉住恒思（東京大学教育学部附属中等教育学校5年）

【一般部門】

最優秀賞 「インド夜想曲」藤村貴子（主婦 埼玉県狭山市）

優 秀 賞 「家族のコーヒーリレー」藤田邦子（自営業 カナダ モントリオール市）

佳 作 「霊供膳と麦酒」稲葉真季（会社員 東京都世田谷区）

■応募点数

1,764点（中学生部門 293点、高校生部門 869点、一般部門 602点）

■表彰式

日 時 令和6年1月21日（日）午後1時30分～3時
 会 場 姫路文学館 講堂
 内 容 表彰式、各部門最優秀作（計3点）の朗読（音訳ボランティア サークルさえずり 原田香代さん、水野香保里さん）、藤原正彦姫路文学館長による講評・講演
 ※一部の受賞者はリモートで出席
 参加者 110名



受賞者と、藤原正彦館長（後列右）、清元秀泰姫路市長

6 第12回「世界にひとつの絵本づくり」

夏休みの子ども向けワークショップ。2日にわたっておはなしを作り、実際に製本する作業まで体験できるプログラムを実施している。

講 師 成広のり子氏（画家・絵本作家）
 会 場 姫路文学館 講堂
 日 時 令和5年7月29日（土）、8月5日（土）
 ●午前の部 午前10時～12時
 ●午後の部 午後2時～4時
 対 象 小学1年生～中学3年生
 参加費 1人（1冊）500円
 参加者 計109名と保護者



7 第12回KOTOBAMAまつり

会 期 令和5年7月16日(日)～令和6年2月23日(金・祝) 全4イベント
会 場 姫路文学館 講堂(北館3階)

幅広い年齢層の参加者がさまざまなイベントを通して「ことば」との出会いを楽しむことのできる恒例行事。

■ 江戸時代のガイドブック『名所図会』にトラベル！一琴丘高生のガイドでさし絵のぬり絵体験ー

江戸時代に旅行案内本として人気のあった『東海道名所図会』に登場する古跡や景色を、姫路市立琴丘高等学校図書文芸部の学生が解説。解説の後は、挿絵のぬり絵も楽しんだ。

日 時 令和5年7月16日(日)
午後2時～2時40分
出 演 姫路市立琴丘高等学校図書文芸部
参加者 35人



姫路市立琴丘高等学校図書文芸部

■ 影絵劇「よだかの星」再現上映会

小説家の竹本健治氏が淳心学院高等学校在学中の1970年に、同級生でのちに映画評論家、SF小説家として活躍した故・東海洋士氏らと自主制作した影絵劇「よだかの星」(宮沢賢治作)の再現映像を上映。映像には、竹本氏が保存していた、当時の背景画のスライドや音源が用いられた。

日 時 令和5年9月23日(土・祝)
午後2時～3時
ゲスト 竹本健治(ミステリー作家)、竹本伸子
参加者 130人



竹本健治氏

■ 絵本朗読劇「まゆとうりんこ」

姫路工業高等学校演劇部が朗読と演劇が一体となった独自の手法で、『まゆとうりんこ』(富安陽子文・降矢なな絵、福音館書店)を上演。小さなお子さんから大人まで、幅広い世代が楽しんだ。

日 時 令和6年1月7日(日)
午前10時30分～午後4時10分
(全6回公演・各回10分)
出 演 兵庫県立姫路工業高等学校演劇部
参加者 のべ60人



兵庫県立姫路工業高等学校演劇部

■「兵庫県立大学環境人間学部 卒業設計展 一葉えたい未来を形に一」

兵庫県立大学環境人間学部学生による卒業設計展の3回目。建築模型を展示するとともに、設計の趣旨や意図、活用のイメージも紹介し、学生が作品に込めた想いを自身の言葉で伝えた。同学部2年生から4年生の設計演習の優秀作品も展示。

会 期 令和6年2月17日（土）
～2月23日（木・祝）
協 力 兵庫県立大学環境人間学部
来場者 275人



8 第15回如月まつり

地域との連携として、文学館東隣の男山八幡神社厄神祭の開催日にあわせて開催。常設展を無料開放し、姫路文学館友の会ボランティアによる常設展ガイド、古本市などを開催した。

日 時 令和6年2月18日（日） 午前10時～午後5時
会 場 姫路文学館
来場者 732人

○常設展（企画展）無料開放

企画展「生誕120年記念 木山捷平展」（北館）を開催。

○文学館クイズラリー

こども用・おとな用2種類のクイズを作成し、答えを探しながら見学できるようにした。

○常設展ボランティアガイド

姫路文学館友の会ボランティアの展示ガイドグループ3人が担当した。

○おはなし会

図書室（南館）前にて、姫路文学館友の会ボランティアのおはなし会グループ6人が絵本の読み聞かせを行った。

○古本市（南館さんかくギャラリー）

市民から提供された古本を50円～100円で販売。



おはなし会



古本市

9 講座・読書会

(1) 古典文学講座「源氏物語の世界」

講 師 中川正美（梅花女子大学名誉教授）
会 場 姫路文学館 講堂
日 時 原則として第2金曜日 午前10時30分～12時
受講料 （10回通しで）6,000円
受講者 123人

日程と内容

令和5年4月14日（金）	女三宮の婿選び
5月12日（金）	光源氏の承引
6月9日（金）	玉鬘による源氏四十賀
7月14日（金）	女三宮降嫁
9月8日（金）	朧月夜尚侍
10月13日（金）	紫上たちの源氏四十賀
11月10日（金）	明石女御男皇子出産
12月8日（金）	明石入道の文
令和6年1月12日（金）	蹴鞠の日
2月9日（金）	柏木の思慕

(2) 文学思想講座「よりよく自己を生きるために 芸術が見せる世界と人間」

講 師 岡田勝明（姫路獨協大学名誉教授）
会 場 姫路文学館 講堂
日 時 原則として第1木曜日 午前10時～11時30分
受講料 （10回通しで）6,000円
受講者 128人

日程と内容

令和5年4月6日（木）	宮下規久朗・佐藤優『美術は宗教を超えるか』	…見えないものを見る
5月11日（木）	展覧会カタログ『エルンスト・バルラハ』	…ドイツ表現主義の彫刻家
6月1日（木）	展覧会カタログ『永遠のソール・ライター』	…伝説の写真家
7月6日（木）	島本英明『モディリアーニ』	…生涯と作品
8月3日（木）	ゲイリー・シュバルツ『フェルメールの世界』	…静謐の物語
10月5日（木）	ガスケ『セザンヌ』	…特殊性から普遍性へ
11月2日（木）	岡本太郎『青春ピカソ』	…ピカソを泣く
12月7日（木）	渋谷区松濤美術館『白井晟一入門』	…心休まる建築
令和6年1月11日（木）	「手島圭三郎全仕事」編集委員会『手島圭三郎全仕事』	…魂の木版画
2月1日（木）	皆川明『生きる はたらく つくる』	…ミナ ペルホネン

(3) 市民名作講座「近現代文学中の名作」に挑む」

講 師 菅原美文（近現代文学を読む会主宰）
会 場 姫路文学館 会議室
日 時 原則として毎月第3木曜日 午前10時～11時50分
参加者 15人

課題図書

令和5年4月20日（木）ギュスターヴ・フローベール『感情教育』光文社古典新訳文庫ほか
5月18日（木）ビクトル・ユーゴー『レ・ミゼラブル』岩波文庫ほか
6月15日（木）リュドミラ・ウリツカヤ『緑の天幕』新潮社
7月27日（木）島崎藤村『夜明け前』岩波文庫ほか
宮地正人『歴史のなかの『夜明け前』－平田国学の幕末維新』吉川弘文館
8月24日（木）ドナルド・キーン『ドナルド・キーン著作集12・13・14『明治天皇』』新潮社
坂本一登『伊藤博文と明治国家形成－「宮中」の制度化と立憲制の導入』
講談社学術文庫
御厨貴『日本の近代〈3〉明治国家の完成』中公文庫
9月28日（木）村上春樹『街とその不確かな壁』新潮社
池澤夏樹『また会う日まで』朝日新聞出版
10月19日（木）ジェラルド・マーティン『ガブリエル・ガルシア＝マルケス ある人生』
岩波書店
11月16日（木）紫式部『源氏物語』
12月21日（木）ドストエフスキー『悪霊』新潮文庫
令和6年1月25日（木）ロジェ・マルタン・デュ・ガール『チボー家の人々』白水社

(4) 「司馬遼太郎の「坂の上の雲」「街道をゆく」「東と西」などを読む」読書会

南館・司馬遼太郎記念室において常設展示している司馬遼太郎の作品を読む読書会。参加者が、課題図書の内容にそって考えを自由に述べあい、作品の理解を深めることを目的とする。

令和5年度は、近代国家として歩み出し、日露戦争に勝利するまでの明治日本を描いた「坂の上の雲」、紀行文集「街道をゆく」、談話集「東と西」などの作品を取り上げた。

会 場 姫路文学館 会議室
日 時 原則として毎月第2土曜日 午前9時30分～12時
参加者 24人

課題図書

令和5年5月13日（土）『街道をゆく22 南蛮のみちⅠ』
6月10日（土）『東と西』

7月8日(土) 『街道をゆく35 オランダ紀行』
8月12日(土) 『街道をゆく23 南蛮のみちⅡ』
9月9日(土) 『坂の上の雲 一・二』
10月14日(土) 『坂の上の雲 三・四』
11月11日(土) 『坂の上の雲 五・六』
12月9日(土) 『坂の上の雲 七・八』
令和6年2月10日(土) 『司馬遼太郎の日本史探訪』
3月9日(土) 『街道をゆく38 オホーツク街道』

10 博物館実習・「トライやる・ウィーク」

■博物館実習

学芸員資格取得の講座を持つ下記の大学からの依頼をうけ、次のとおり実施した。

期 間 令和5年8月2日（金）～6日（日） 計5日間

実習生 神戸女子大学1人、関西学院大学1人、神戸松蔭女子大学 計3人

	午 前		午 後	
8月2日 （水）	9:30～10:00 オリエンテーション 課題（企画展立案）説明	会議室	13:00～14:00 文学館活動概説	会議室
	10:00～12:00 館内見学 ・図書室（現代播磨ゆかりの作家たち） ・常設展	館内	14:15～15:30 企画展の実務の流れ	
			15:40～ 絵本づくり準備（パーツづくり）	
8月3日 （木）	9:30～11:30 南館北館収蔵庫清掃及び点検口 確認作業 11:30～12:00 中性紙箱組立作業	収蔵庫	13:00～13:30 課題（企画展構想）自習 13:30～15:00 当館ボランティアガイドグループ 活動見学 15:30～17:00 課題（企画展構想）自習	講堂／ 会議室
8月4日 （金）	9:30～10:30 掛軸・巻子の取り扱い 10:45～12:00 資料の状態チェック、調書の実務 キャプション、企画展リード文等の作成 について 解説と実作	収蔵庫	13:00～14:30 北館収蔵庫清掃及び点検口確認作業 14:30～16:00 課題（企画展構想）自習 16:00～17:00 絵本づくり準備	収蔵庫／ 会議室
8月5日 （土）	9:30～12:00 絵本づくりワークショップ補助	講堂	13:00～16:30 絵本づくりワークショップ補助	講堂
8月6日 （日）	9:30～12:00 企画展構想 発表準備 （発表用資料のコピー等）	会議室	13:00～14:30 課題（企画展立案）の発表	会議室
			15:00～17:00 館作業補助 （司馬遼太郎展示室展示替え） 実習ノートまとめ	

■トライやる・ウィーク

兵庫県が平成10年度から県内の中学2年生を対象として実施している地域での体験活動週間。令和5年度は、下記の中学校から2人の生徒を受け入れた。生徒は、館職員の指導のもと、図書室に設置するお薦め本の紹介パネル作成をはじめとして、資料取り扱い実技、郵送物準備作業、館ボランティアとの発送作業や、館内の清掃、受付業務など、さまざまな業務を体験した。

期 間	令和5年（2023年）9月12日（火）～15日（金） 計4日間
実習生	姫路市立置塩中学校 1人 姫路市立書写養護学校中等部 1人

11 出前講座

実施日	出講先	内 容	講 師
5月9日	兵庫県立香寺高等学校	もっと知りたい播磨の文学者、学者たち (和辻哲郎・柳田國男)	徳重公美学芸員
5月26日	姫路市老人クラブ	姫路城に紡がれた歴史ものがたり	甲斐史子副館長兼学芸課長
7月2日	茶道裏千家淡交会姫路支部 連合会	姫路城を彩る女性たち	甲斐史子副館長
7月19日	高砂市高齢者大学	司馬遼太郎の播磨	玉田克宏学芸員
7月25日	賢明女子学院中学校	学芸員の仕事	杉田陽子学芸員
8月19日	神河町成人セミナー	哲学者 和辻哲郎	徳重公美学芸員
8月25日	姫路市立安室東公民館	泉鏡花『天守物語』	杉田陽子学芸員
8月27日	姫路市手柄地区連合自治会	司馬遼太郎の播磨 播州門徒を語る	玉田克宏学芸員
10月25日	姫路市立飾磨橋東公民館	椎名麟三の文学世界 故郷・播磨とのつ ながり	玉田克宏学芸員
10月28日	加古川市立別府公民館	地域の偉人「尾上が生んだ俳人 永田耕 衣」	竹廣裕子学芸課長
10月29日	関西大学校友会神崎支部	司馬遼太郎の『播磨灘物語』	玉田克宏学芸員
11月8日	姫路市立八幡公民館	司馬遼太郎の播磨 宮本武蔵をどう描 いたか	玉田克宏学芸員
1月20日	宍粟市・宍粟学講座	山崎ゆかりの歌人安田青風 その人と 作品	竹廣裕子学芸課長
1月24日	安富高齢者教室	播磨の姫君 千姫	甲斐史子副館長
3月30日	大阪俳句史研究会	永田耕衣 終戦までの歩みー『鶏頭陣』 時代を中心にー	竹廣裕子学芸課長

12 出版活動

姫路文学館では、展覧会に際しての図録やパンフレットの制作、館報「手帖・姫路文学館」や目録、紀要の発行等を行っている。

（１）姫路文学館紀要の発行

学芸部門の研究成果を世に問う場として、平成９年度より紀要を発行している。（年刊）

『姫路文学館紀要 No.27』

令和６年３月31日 編集・発行／姫路文学館

A5判 150頁 300部 ￥800

内容 〔第25回司馬遼太郎メモリアル・デーの講演、質疑応答〕

□講演「紀行の方法―司馬遼太郎を中心として」 沢木耕太郎（作家）

〔記録〕

小林修写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点 トークイベント

小林修（朝日新聞出版写真映像部長）・村井重俊（元週刊朝日編集委員）

〔研究〕

椎名麟三『懲役論の告発』論―『椎名麟三の思想』序説― 玉田克宏

〔別記〕

総目次 1号～26号

（２）館報「手帖・姫路文学館」の定期発行

年４回 令和５年４月１日（第127号）

令和５年10月１日（第129号）

A4判 ８頁 非売品

令和５年７月１日（第128号）

令和６年１月１日（第130号）



手帖 姫路文学館 127号



128号



129号



130号

資料概要

1 資料収集状況

(1) 令和5年度収集資料数

※登録番号を採番した（整理をおこなった）資料の数。

種別	購入	寄贈	制作	その他	計
書籍・雑誌	377	495	8		880
原稿	31	20		1	52
書簡	0	2,158			2158
書画・墨蹟	0	25		8	33
遺品					
その他	8	163		5	176
写真	0	37		3	40
映像・音声	1	12		1	14
レプリカ					0
計	417	2,910	8	18	3,353

資料総数 約18万点

主な新資料

〔寄贈〕

徳永勲保氏 永田耕衣書作品「梅華」、書画「金剛童子図／うっかりと野菊散り痕赤裸々に」2点
 木下栄三氏 時実新子著作 12点
 茉莉亜まり氏 時実新子関連資料 6点
 西村恭子氏 梶山俊夫画「夜あけのめんどり」（森はな作）等 2点
 山崎晃嗣氏 安田青風 原田与一郎宛書簡 11点
 小林まさ子氏 永田耕衣（小林氏宛て）書簡16点、永田耕衣書画10点
 山崎晃嗣氏 佐多稲子 木俣修宛はがき1点、前田陽一 森本優宛はがき1点
 沖山隆久氏 車谷長吉書額「愚者壹得」等 3点
 竹松良明氏 阿部知二関連資料 2点
 赤木弘子氏 阿部知二遺品、関連資料
 室井美千博氏 三上参次 大槻文彦宛書簡、和辻哲郎書簡、阿部知二書簡、はがき 計4点
 小西智之氏 掛軸「天岳院（三上参次の養母、三上もと）画像」1点
 高橋夏男氏 木山捷平書籍等関連資料 計15点
 山野博史氏 柳田國男関連資料242点、山田風太郎関連資料16点、和辻哲郎関連書籍1点

〔購入〕

文化学院女学生の日記（阿部知二関連）1点
 柳田國男書簡1通、はがき2通
 辻善之助旧蔵書籍
 大鳥圭介書状
 木山捷平原稿「愚かなる私ごと」（6枚）
 雑誌「風報」（木山捷平関連）87冊
 佐多稲子草稿「阿部さんの純情な個性」
 「竜馬がゆく」岩田専太郎 挿絵 2点
 竹本健治他制作「影絵劇 よだかの星」記録映像

(2) 情報検索システム登録件数 (令和6年5月31日現在)

種別	件数
書籍	71,965
雑誌	52,562
書簡	13,190
書画・遺墨	1,976
原稿	4,757
写真	483
映像・音声	1,047
その他	13,374
文人基本データ	325
デジタルアーカイブ	1,419
絵本・児童書	1,991
計	163,089

システム開発 株式会社ハナテックコンピュータシステム (旧・環境総合研究所)

2 協力者一覧（50音順 敬称略）

【個人】

赤木弘子	明石久美子	麻生直子	生田よしえ	市ノ瀬翔子	乾 佐伎	上野一孝
植村初子	上村亮二	大内高秀	大谷司郎	沖山隆久	尾崎義久	大野とくよ
落山泰彦	小畑庸子	香山雅代	川涯利雄	木下栄三	木村 勲	窪田泰子
小坂忠弘	小西智之	小林まさ子	近藤健史	佐藤岳俊	子 伯	鈴木 漠
高橋夏男	竹松良明	玉井洋子	恒藤滋生	時里二郎	徳永勲保	豊田善敬
中野信吉	中村猛虎	滑志田隆	難波正司	西岡亜紀	西谷裕子	西村恭子
葉名尻竜一	林 桂	広井 護	藤本真美	星 澄子	堀込 学	茉莉亜まり
室井美千博	諸井 学	山崎晃嗣	山野博史	山本雅也		

【法人】

會津八一記念館	青森県立郷土館	青森県近代文学館	赤磐市教育委員会	明石市立天文科学館
明石市立文化博物館	秋田県立博物館	赤穂義士顕彰会	あさご芸術の森美術館	旭川市井上靖記念館
芦屋市谷崎潤一郎記念館	梓俳句会	尼崎芸術文化協会	尼崎市文化振興財団	尼崎市立歴史博物館田能資料館
石川近代文学館	石川県西田幾多郎記念哲学館	石坂洋次郎文学記念館	泉鏡花記念館	一茶記念館
印南野半どんの会	井上靖記念文化財団	茨木市市民文化部	茨木市立川端康成文学館	いぶき発行所
いわき市立草野心平記念文学館	岩手県立博物館	印刷博物館	N H K出版	特定非営利活動法人絵本・児童文学研究センター
円虹発行所	大洗町幕末と明治の博物館	大倉精神文化研究所	大阪国際児童文学振興財団	大阪樟蔭女子大学田辺聖子文学館
大阪俳句史研究会	大阪歴史博物館	大田区立龍子記念館	大田区立尾崎士郎記念館	岡崎市美術博物館
岡山シティミュージアム	小川未明文学館	小野市立好古館	貝の会	香川県立ミュージアム
学習院大学史料館	学習院大学上代文学研究会	加西短歌の会	風花随筆文学賞実行委員会	火星俳句会
神奈川近代文学館	公益財団法人神奈川文学振興会	公益財団法人金沢文化振興財団	金沢文芸館	軽井沢高原文庫
河井継之助記念館	川崎市市民ミュージアム	菊池寛記念館	北九州市立文学館	北九州市立松本清張記念館
京都市学校歴史博物館	京都府京都文化博物館	京都府文化スポーツ部文化芸術課	京都：Re-Search実行委員会	虚子記念文学館
麒麟俳句会	銀河書籍	近代作家旧蔵書研究会	吟遊社	九年母会
㈱クマヒラ・ホールディングス	桑名市博物館	群馬県立土屋文明記念文学館	現代川柳研究会	高知県越知町立横倉山自然の森美術館
高知県立文学館	香寺短歌会	神戸学院大学地域研究センター	神戸市立小磯記念美術館	神戸女子大学古典芸能研究センター
神戸市立博物館	神戸深江生活文化資料館	交友プランニングセンター	こおりやま文学の森資料館	國學院大學博物館学研究室
国立民族学博物館	越谷市立図書館野口富士男文庫	高志の国文学館	小諸市教育委員会	彩雲の会
さいたま市教育委員会	さいたま文学館	埼玉文芸家集団	斎藤茂吉記念館	坂の上の雲ミュージアム
佐佐木信綱顕彰会	山頭火ふるさと館	四季派学会東京事務所	詩人会議	児童文学同人「花」
司馬遼太郎記念館	紫明の会	勝央美術文学館	昭和館	ジョセフ彦記念会
白珠社	新宮市立佐藤春夫記念館	新宿区立漱石山房記念館	新葉館出版	杉発行所
成城大学民俗学研究所	西南学院大学博物館	公益財団法人世界人権問題研究センター	世界俳句協会	世田谷文学館

専修大学	仙台文学館	相馬御風記念館	園田学園女子大学近松研究所	太子町立歴史資料館
太地町立くじらの博物館	高岡市万葉歴史館	竹中大工道具館	田鶴発行所	たつの市立龍野歴史文化資料館
たつの市立室津海駅館	蟹の会	館林市教育委員会	田原市博物館	短歌ぐるうぶ象の会
短歌人会	遅筆堂文庫	竹柏会「心の花」	潮流詩派の会	調布市武者小路実篤記念館
東京都江戸東京博物館	東京都台東区中央図書館	時の川柳社	徳島県立文学書道館	徳田秋聲記念館
栃木市立文学館	鳥取県立博物館	鳥羽水族館	富山市郷土博物館	中原中也記念館
中村元記念館東洋思想文化研究所	新美南吉記念館	西尾市岩瀬文庫	西川徹郎記念文学館	西脇順三郎を偲ぶ会
日本歌人クラブ	日本近代音楽館	日本近代文学館	日本現代詩歌文学館	女人随筆社
公益社団法人沼津牧水会	野田宇太郎文学資料館	公益社団法人俳人協会・俳句文学館	萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館	萩原朔太郎研究会
白圭社	原阿佐緒記念館	播磨学研究所	播磨町郷土資料館	播磨町郷土資料館「古文書を学ぶ会」
播火編集事務局	阪急文化財団	火野葦平資料館	姫路歌人クラブ	姫路コンベンションビューロー
姫路市市史編集室	姫路市書写の里・美術工芸館	姫路市文化財課	姫路市立動物園	姫路市文化国際交流財団
姫路市立城郭研究室	姫路市立城内図書館	姫路市立水族館	姫路文学会	姫路文学人会議
兵庫県歌人クラブ	兵庫県現代詩協会	兵庫県立考古博物館	兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科	兵庫県立大学・豊岡ジオ・コウノトリキャンパス
兵庫県立美術館	兵庫県立兵庫津ミュージアム	兵庫県立人と自然の博物館	兵庫県立歴史博物館	兵庫県立歴史博物館友の会事務局
ひょうご歴史研究室	風琴の会	福井県ふるさと文学館	福岡市文学館	福岡町教育委員会
福崎町立神崎郡歴史民俗資料館	福崎町立柳田國男・松岡家記念館	ふくやま文学館	公益財団法人ブルボン吉田記念財団	文学園社
文京ふるさと歴史館	文京区立森鷗外記念館	公益財団法人北海道立文学館	町田市立自由民権資料館	松の花俳句会
松山市立子規記念博物館	三浦綾子記念文化財団	美加志保短歌会	一般社団法人岬の分教場保存会	三鷹市山本有三記念館
株式会社港屋	美作学術文化振興財団	宮柊二記念館	室生犀星記念館	繡の木俳句会
森鷗外記念館	焼津小泉八雲記念館	やまぐに俳人会	大和文華館	山梨県立文学館
やまなし文学賞実行委員会事務局	与謝野晶子倶楽部	吉村昭記念文学館	立命館大学国際平和ミュージアム	立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター
ロマネコンティ俳句ソシエテ	わかば会	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館		

3 文学館資料の貸出状況

貸 出 先	展 覧 会 名 等	貸出期間等	資 料 名
国文学研究資料館	日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画 (略称:歴史的典籍NW 事業) 貸出先:国文学研究資料館	令和5年6月6日～ 令和6年5月29日	金井寅之助文庫古典籍1334冊(714作品)
朝来市 (和田山地域振興課)	「児童文学作家森はなの世界展～やさしさおしえてくれたひと～」令和5年6月24日～7月9日(於:あさご芸術の森美術館)	令和5年6月14日 ～7月12日	森はな関係資料 19点
姫路市城郭研究室	特別展「酒井家姫路藩の文化」 令和5年9月14日～9月29日 (於:姫路文学館)	令和5年9月12日 ～9月29日	「直泰夜話」 「水の月」「類題青藍集」
兵庫県立考古博物館	特別展「駅家発掘!ー播磨から見えた古代日本の交通史」 令和5年9月30日～12月3日	令和5年9月14日 ～12月24日	隠岐国駅鈴(複製)1点、西本願寺本万葉集(複製)3冊

4 文学館資料の出版物等掲載状況

掲載許可先	掲載番組・書籍等	提供資料・期間等
神戸新聞総合印刷	神戸新聞コラム「今日は何の日? 兵庫版」 坂本遼生誕生日 令和5年9月1日	坂本遼肖像写真 ※画像データ提供
神戸新聞総合印刷	神戸新聞コラム「今日は何の日? 兵庫版」 椎名麟三生誕生日 令和5年10月1日	椎名麟三肖像写真 ※画像データ提供
神戸新聞総合印刷	神戸新聞コラム「今日は何の日? 兵庫版」 アニメの日 令和5年10月22日	瀬尾光世「桃太郎の海鷲」スチール写真 ※画像データ提供
N H K 出版 (「N H K 俳句」)	「森澄雄の世界」令和6年(2024)2月号「俳句の歴史」(青木亮人執筆)	森澄雄(銀座「卯波」にて) ※画像データ提供
都市出版株式会社(「東京人」編集室)	月刊誌「東京人」令和5年(2024)5月号「東京つれづれ日誌」(川本三郎執筆)	木山捷平展展示風景 ※画像データ提供

運 営 管 理

1 利用状況

(1) 入館者数

令和5年度（2023年度）常設展観覧者数

〔単位：日、人〕

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	26	27	26	26	27	26	26	25	21	22	25	26	303
一般	442	769	242	672	902	362	508	406	122	188	192	266	5,071
大・高	30	52	7	30	72	22	26	6	13	14	16	26	314
中・小	16	32	28	158	258	49	5	4	12	6	2	13	583
団体一般	568	1,422	251	1,314	1,885	481	256	312	74	132	97	171	6,963
団体大高	11	21	5	38	62	8	1	2	4	42	4	3	201
団体中小	16	27	34	349	560	82	0	1	2	1	159	77	1,308
その他	428	1,116	368	1,714	1,963	544	132	419	252	284	444	123	7,787
合計	1,511	3,439	935	4,275	5,702	1,548	928	1,150	479	667	914	679	22,227

令和5年度（2023年度）企画展観覧者数

〔単位：人〕

企画展	10月7日～11月26日 43日	2月17日～4月14日 49日	合計 開催日数92日
	小林修写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点	木山捷平展	
一般	876	535	1,411
大学生・高校生	31	45	76
中学生・小学生	7	23	30
団体 一般	554	282	836
団体 大学生・高校生	3	4	7
団体 中学生・小学生	1	80	81
招待等	539	562	1,101
幼稚園以下	7	7	14
合計	2,018	1,538	3,556

令和5年度（2023年度）特別展観覧者数

〔単位：人〕

特別展	4月15日～5月28日 39日	6月24日～9月3日 62日	12月2日～2月4日 46日	合計 開催日数147日
	竹久夢二展	ぞうのエルマー展	阿部知二と椎名麟三展	
一般	1,004	1,660	192	2,856
大学生・高校生	68	87	14	169
中学生・小学生	41	470	7	518
団体 一般	1,870	3,713	221	5,804
団体 大学生・高校生	31	96	45	172
団体 中学生・小学生	37	997	2	1,036
招待等	1,436	2,037	578	4,051
幼稚園以下	38	2,493	1	2,532
合計	4,525	11,549	1,060	17,134

令和5年度文学館利用状況（再掲）	
常設展・特別企画展入館者（◎）	22,227人
施設利用者	7,269人
その他行事参加者	47,180人
合計	76,676人

◎常設展・企画展・特別展観覧者 内訳	
特別展	17,134人
常設展（企画展開催中）	3,196人
常設展（企画展なし）	1,897人

※特別展または企画展を観覧した人数は、20,330人

入館者数（貸館利用者等を含む）

年 度	開館日数 (日)	来館者数（人）		再掲：うち観覧者数（人）			
		来館者数（人）	累計（人）	観覧者数（人）	累計（人）	再々掲：うち特別企画展 （人） （日数）	
平成3年度	300	70,427	70,427	44,575	44,575	37,090	204
平成4年度	298	62,755	133,182	32,268	76,843	25,263	171
平成5年度	296	45,104	178,286	24,571	101,414	20,242	196
平成6年度	298	48,134	226,420	23,276	124,690	18,292	134
平成7年度	299	37,224	263,644	13,524	138,214	7,328	78
平成8年度	297	59,602	323,246	29,961	168,175	23,233	141
平成9年度	298	34,522	357,768	14,050	182,225	9,484	134
平成10年度	298	33,995	391,763	16,824	199,049	10,752	160
平成11年度	296	39,383	431,146	23,470	222,519	10,969	120
平成12年度	300	34,885	466,031	16,838	239,357	7,885	116
平成13年度	300	34,055	500,086	16,123	255,480	8,017	123
平成14年度	300	37,284	537,370	15,756	271,236	7,159	130
平成15年度	300	48,264	585,634	26,830	298,066	17,572	141
平成16年度	298	35,979	621,613	14,780	312,846	7,522	133
平成17年度	301	39,694	661,307	14,677	327,523	7,959	117
平成18年度	303	46,445	707,752	16,327	343,850	8,959	131
平成19年度	303	43,738	751,490	14,234	358,084	7,652	131
平成20年度	303	58,002	809,492	26,740	384,824	16,672	122
平成21年度	300	63,529	873,021	28,564	413,388	13,870	135
平成22年度	299	96,391	969,412	53,210	466,598	25,396	146
平成23年度	304	93,474	1,062,886	59,631	526,229	29,515	147
平成24年度	305	139,059	1,201,945	83,021	609,250	39,091	140
平成25年度	302	75,030	1,276,975	37,148	646,398	16,161	175
平成26年度	301	70,686	1,347,661	34,189	680,587	14,720	139
平成27年度	60	34,278	1,381,939	18,176	698,763	9,150	45
平成28年度	198	71,108	1,453,047	20,398	719,161	18,341	186
平成29年度	302	70,255	1,523,302	16,067	735,228	14,047	254
平成30年度	303	95,077	1,618,379	26,660	761,888	24,270	253
令和元年度	279	95,497	1,713,876	29,704	791,592	27,804	242
令和2年度	247	41,531	1,755,407	13,114	804,706	11,916	175
令和3年度	286	84,045	1,839,452	36,146	840,852	34,779	210
令和4年度	300	66,481	1,905,933	21,684	862,536	19,826	228
令和5年度	303	76,676	1,982,609	22,227	884,763	20,330	239

(2) 団体見学受付状況

日程	曜	団体・個人名	人数(人)	備考
令和5年	4月28日	金 姫路市立城乾幼稚園	14人	特別展展示見学
	5月11日	木 姫路市立高岡公民館	28人	特別展展示解説、展示見学
	5月17日	水 姫路市立城北公民館	16人	特別展展示解説、展示見学
	5月23日	火 姫路市立城乾公民館	22人	特別展展示解説、展示見学
	6月13日	火 加古川市立別府中学校	7人	常設展展示見学
	6月27日	火 エンゼル学園幼稚園	67人	特別展展示見学
	6月28日	水 エンゼル学園幼稚園	27人	特別展展示見学
	7月4日	火 景福寺瑞松学院	88人	特別展展示見学
	7月12日	水 エンゼル学園幼稚園	61人	特別展展示見学
	7月13日	木 エンゼル学園幼稚園	50人	特別展展示見学
	7月15日	土 兵庫県立香寺高等学校	16人	特別展展示見学
	7月19日	水 真教寺宝国幼稚園	45人	特別展展示見学
	7月19日	水 姫路市立城乾幼稚園	16人	特別展展示見学
	7月20日	木 網干保育園	53人	特別展展示見学
	7月20日	木 姫路若葉保育園	43人	特別展展示見学
	7月21日	金 姫路若葉保育園	49人	特別展展示見学
	7月25日	火 エンゼル学園幼稚園	66人	特別展展示見学
	7月26日	水 保城さくらんぼこども園	37人	特別展展示見学
	7月27日	木 保城こども園	18人	特別展展示見学
	7月27日	木 姫路市立朝日中学校	28人	特別展展示見学
	7月28日	金 網干保育園	46人	特別展展示見学
	7月30日	日 姫路市立城北公民館	23人	特別展展示解説、展示見学
	8月1日	火 のぎ保育園	43人	特別展展示見学
	8月17日	木 姫路市立城東公民館 姫路市立野里公民館	30人	特別展展示解説、展示見学
	8月23日	水 ほうこく保育園	23人	特別展展示見学
	8月24日	木 姫路市立東公民館	18人	特別展展示解説、展示見学
	8月24日	木 みのり保育園	30人	特別展展示見学
	8月25日	金 みのり保育園	33人	特別展展示見学
	10月13日	金 姫路市立城北公民館	11人	常設展展示解説、展示見学
	10月27日	金 姫路市立高等学校PTA連合協議会	26人	常設展展示見学
	11月5日	日 姫路市立城の西北公民館	13人	常設展展示解説、展示見学
	11月15日	水 水上校区老人クラブ	16人	常設展展示見学
	12月21日	木 関西大学中等部	4人	常設展展示見学
	12月22日	金 姫路市立城北公民館	14人	特別展展示解説、展示見学
令和6年	1月26日	金 姫路市立城東公民館 姫路市立野里公民館	16人	特別展展示解説、展示見学
	2月8日	木 姫路市立灘中学校	128人	常設展展示見学
	2月9日	金 姫路市立飾磨東中学校	34人	常設展展示見学

3月5日	火	姫路市立飾磨東中学校	72人	常設展展示見学
3月14日	木	姫路市立夢前中学校	6人	特別展展示見学

(3) 館使用者数

令和5年度(2023年度)館使用状況

〔単位：件、人〕

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合 計			
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
講 堂	午前	4	320	7	328	6	337	7	390	7	265	4	202	7	359	6	377	7	331	4	182	3	141	1	50	63	3,282	210	11,720
	午後	9	559	9	389	6	319	10	414	6	209	7	423	5	277	12	409	6	276	5	272	6	216	4	189	85	3,952		
	全日	3	185	5	530	6	506	5	539	4	370	4	313	4	185	2	59	5	359	6	363	8	402	10	675	62	4,486		
和 室	午前	12	71	6	31	1	6	4	20	4	20	3	15	1	4	17	99	7	35	3	14	1	6	7	25	66	346	152	1,597
	午後	12	74	6	106	6	24	5	33	5	29	4	18	4	17	12	63	6	36	1	4	3	56	4	26	68	486		
	全日	0	0	3	240	1	40	0	0	1	5	1	4	6	214	0	0	0	0	2	17	0	0	4	245	18	765		
茶 室	午前	2	15	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	17	1	4	0	0	0	0	2	0	9	36	40	591
	午後	0	0	1	2	2	0	2	0	2	0	0	0	1	0	3	14	0	0	0	0	2	0	1	10	14	26		
	全日	2	24	3	234	0	0	0	0	1	0	1	0	5	207	1	17	0	0	1	12	0	0	3	35	17	529		
洋 間	午前	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	19	0	0	0	0	0	0	4	19	38	658
	午後	1	11	1	0	3	24	2	0	2	0	1	7	1	0	2	30	3	39	1	10	2	0	0	0	19	121		
	全日	1	12	3	234	0	0	0	0	1	0	1	0	5	207	2	65	0	0	0	0	0	0	2	0	15	518		
特 展 室	午前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	372
	午後	0	0	0	0	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10		
	全日	0	0	0	0	5	210	0	0	0	0	17	150	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	362		
さんかくギャラリー	午前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	午後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
会 議	午前	5	67	4	48	5	57	4	36	3	23	5	50	5	41	6	59	0	0	4	36	3	26	3	29	47	472	76	752
	午後	2	17	2	16	1	8	2	20	2	21	2	20	1	7	3	21	0	0	1	10	1	9	3	28	20	177		

室等	全日	1	33	0	0	0	0	0	0	4	12	1	10	1	19	0	0	0	0	1	19	1	10	0	0	9	103		
計		54	1,388	50	2,158	43	1,541	41	1,452	44	954	53	1,212	47	1,539	68	1,230	37	1,099	29	939	30	866	44	1,312	540	15,690	540	15,690

（４）資料特別観覧申請

令和５年度（2023年度）資料特別観覧状況

区 分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
熟 覧			件数	1件	0件	0件	1件	0件	1件	1件	0件	0件	0件	1件	0件	5件
複 写	電子複写機使用		枚数	0件	15件	2件	0件	0件	6件	20件	0件	0件	0件	586件	0件	629件
			金額	0円	300円	40円	0円	0円	120円	400円	0円	0円	0円	11,720円	0円	12,580円
撮 影	新規撮影	学術用途	枚数	0件	0件	0件	22件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	22件
			金額	0円	0円	0円	4,620円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	4,620円
		そ の 他 用 途	枚数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	5件	5件
			金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	10,450円
	フィルム貸 出 し ・ データ提供	学術用途	枚数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
			金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
		そ の 他 用 途	枚数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
			金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
合 計				0円	300円	40円	4,620円	0円	120円	400円	0円	0円	0円	11,720円	10,450円	27,650円

(5) 出版物等販売数

令和5年度(2023年度)復刻本等売払い状況

(単位:円、冊)

図 書 名		単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	冊数	金額
書籍・雑誌	自叙伝の試み	2,800	1				1			1					3	8,400
	城	1,400								1	4	3	2		10	14,000
	井上通泰伝	600				1	2	2	1		1			1	8	4,800
	芳水詩集	1,500	2	7		1	1				1				12	18,000
	明治時代の歴史学界	2,300						1		1					2	4,600
	猫背の散歩	1,200			1						3	2		1	7	8,400
	野球美談	1,500	1	3				1			1				6	9,000
	意志表示	470		1	2		1				1	1	1	1	8	3,760
	冬の宿	460	1	1				1			7	8	3	1	22	10,120
	自由の彼方で	1,500			1			1				2	1		5	7,500
	阿部知二 道は晴れてあり	2,000									2	2			4	8,000
	夫和辻哲郎への手紙	680		1	1	1						1		1	5	3,400
	妻和辻照への手紙(上)	800			1	1						1		1	4	3,200
	妻和辻照への手紙(下)	780			1	1						1		1	4	3,120
	邂逅	1,600			1							1	3		5	8,000
	播磨古歌考	3,000												1	1	3,000
	近代播磨文学史	1,800											1		1	1,800
	第一阿房列車	490											1		1	490
	椎名麟三戯曲選	2,000			1						1				2	4,000
	初井しづ枝文庫目録	500								1					1	500
	紀要N03～26	800	5	18	11	3	6	10	1	2	7	2			65	52,000
図録	和辻哲郎展	1,000	1	2	1		1	2			1		1	1	10	10,000
	酒井宗雅展	1,000						1	2			1		1	5	5,000
	森はな展	1,200			1										1	1,200
	椎名麟三の昭和展	1,500			2						1	2	1		6	9,000
	有本芳水展	1,200						1					2		3	3,600
	二人のヨーロッパ展	1,200	1	1	1						1		1		5	6,000
	泉鏡花と「天守物語」展	1,200	2	8		1	1		2		1		2	1	18	21,600
	とっておきコレクション展	800										1			1	800
	お夏清十郎展	1,200	1	1			1						2	1	6	7,200
	森澄雄の世界	1,200		1											1	1,200
	あの日の子どもたち展	1,200	1		1								3		5	6,000
	戦後期文学のクラシックス展	600	1								2		1		4	2,400
	ごんぎつねの世界	800	2				1						1	1	5	4,000
	作家車谷長吉展	1,200		1			1	2		1	1		3		9	10,800
	西脇順三郎展	800					1			1			1		3	2,400
	黒田官兵衛の魅力	500		1			1	2			2		4		10	5,000
	官兵衛と軍師を描いた文豪たち展	600					1						1		2	1,200
	夏目漱石 漱石山房の日々展	700		1							2				3	2,100
	姫路文学館ガイドブック	400	5	17	3	6	9	8	5	7	5	2	8	11	86	34,400
	時実新子展	600						1					1	1	3	1,800
	五十嵐播水展	600		2				1	2	1				1	7	4,200
	永田耕衣展	700					1		2				3	2	8	5,600
	樋口一葉展	1,000											1		1	1,000
	没後60年岸上大作展	1,000		1				1					1	1	4	4,000
	五味康祐展	1,000					2				1		1		4	4,000
	西山松之助展	1,000	4	1		2	1	1		1	1		1		12	12,000
	安田青風展	1,000	7	1	10			6	1	1	1				27	27,000
	阿部知二と椎名麟三展	1,100									31	45	23		99	108,900
	木山捷平展	1,000											39	77	116	116,000

図 書 名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	冊数	金額
しおり+ポストカード	250	2	5		1		3	2	2					15	3,750
合計	冊数	37	74	39	18	32	45	18	20	78	75	113	106	655	
	金額	34,460	60,860	37,100	12,610	25,370	35,710	11,900	16,500	76,890	78,310	110,340	98,190		598,240

暗唱ノート

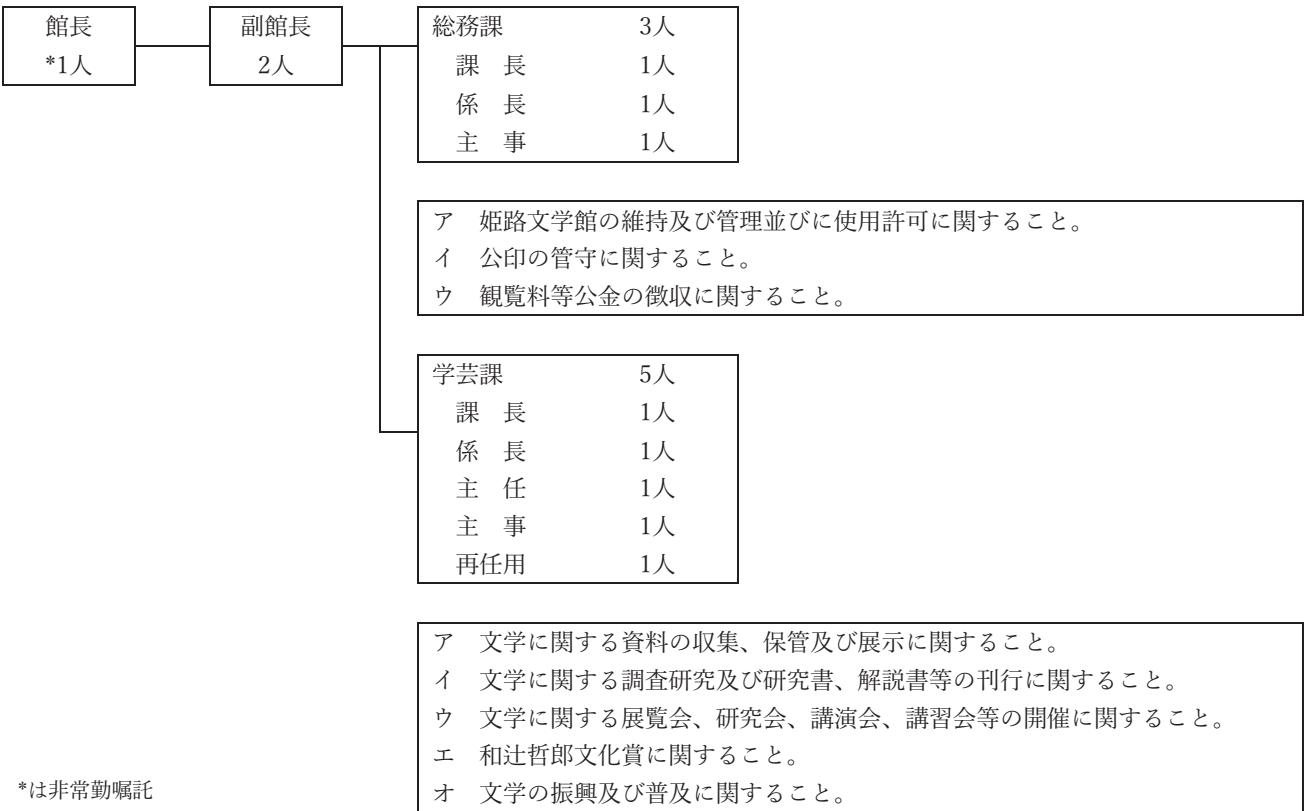
	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	冊数	金額
暗唱ノート5年	400	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	800
暗唱ノート6年	400	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	800
暗唱ノート基礎	400	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3	1,200
暗唱ノート発展	400	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3	1,200
合計		0	4	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	10	4,000

月別販売金額

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
復刻本	11,760	31,010	18,300	6,760	10,770	14,960	1,400	8,600	28,090	23,210	13,240	7,990	176,090
図録	22,200	28,600	18,800	5,600	14,600	20,000	10,000	7,400	48,800	55,100	97,100	90,200	418,400
グッズ	500	1,250	0	250	0	750	500	500	0	0	0	0	3,750
暗唱ノート	0	1,600	0	0	0	800	1,600	0	0	0	0	0	4,000
計	34,460	62,460	37,100	12,610	25,370	36,510	13,500	16,500	76,890	78,310	110,340	98,190	602,240

2 組織および分掌事務

(令和6年3月31日現在)



職員名簿

(令和6年3月31日現在)

館長	藤原正彦	副館長・学芸員	甲斐史子
副館長	北野 充	課長・学芸員	竹廣裕子
総務課課長	佐野奈緒美	係長・学芸員	杉田陽子
係長	蟹井真人	主任・学芸員	徳重公美
主事	河内佐和子	主事・学芸員	市太佐知
		学芸員	玉田克宏

3 予算の概要

令和5年度（2023年度）一般会計歳出予算（令和5年4月1日現在）

款	55 教育費	項	38 文化振興費	目	48 文学館費	(単位：千円)
節				説明		
区分		金額				
7	報償費	11,681		文学館の管理運営等に要する経費		
8	旅費	2,524		管理運営経費 111,208		
10	需用費	42,554		教育普及活動費 5,528		
11	役務費	2,810		和辻哲郎文化賞経費 10,507		
12	委託料	89,653		特別企画展経費 18,480		
13	使用料及び賃借料	5,242		資料収集経費 4,431		
14	工事請負費	0		施設整備事業費 5,340		
17	備品購入費	1,030		負担金 95		
18	負担補助金及び交付金	95		(加入団体会費 83)		
26	公課費	0		(出席者負担金 12)		
計		155,589		155,589		

令和5年度（2023年度）一般会計歳入予算（令和5年4月1日現在）

(単位：千円)

款	節	説明
使用料及び手数料	文学館使用料 1,085	文学館施設占用使用料、目的外使用料、資料複写料
	文学館目的外使用料 1,676	
	文学館特別観覧手数料 30	
財産収入	復刻本等売払収入 758	復刻本・常設展図録・企画展図録等
諸収入	文学館常設展観覧料 780	竹久夢二展 ぞうのエルマー展 阿部知二と椎名麟三展 喫茶電気代等 日本文化・文学思想講座、絵本づくり等
	文学館企画展観覧料 8,500	
	文学館共益費等収入 245	
	文学館教育普及活動 1,240	
	事業参加負担金	
合計		14,314

施設の概要（令和6年3月31日現在）

文学館構造・規模

敷地面積	18,003㎡
建築面積	3,174㎡
北館	1,324㎡
南館	1,360㎡
望景亭	444㎡
書斎風建物	29㎡
駐輪場	17㎡
延床面積	6,869㎡

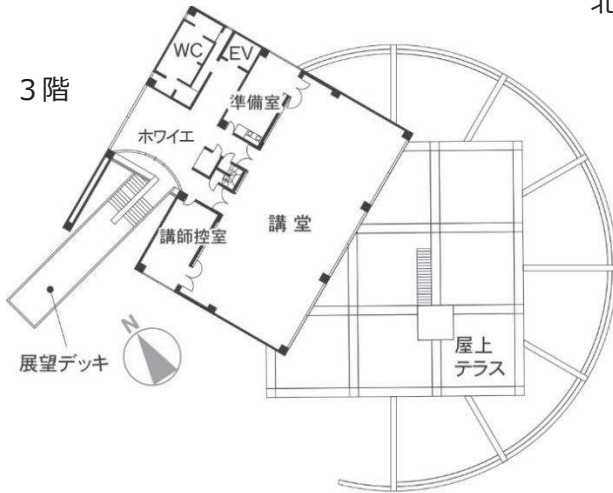
北館	鉄骨鉄筋コンクリート造	3,815 ㎡	南館	鉄筋コンクリート造	2,564 ㎡
	●地下1階	1,067 ㎡		●地下1階	1,485 ㎡
	作業室	54 ㎡		収蔵庫	117 ㎡
	ボランティア室	17 ㎡		会議室	73 ㎡
	研究室	36 ㎡		一時保管庫	36 ㎡
	撮影室	16 ㎡		駐車場	786 ㎡
	消毒室	16 ㎡		その他	473 ㎡
	収蔵庫	412 ㎡		●1階	573 ㎡
	その他	516 ㎡		司馬遼太郎記念室	99 ㎡
	●1階	1,134 ㎡		さんかくギャラリー	76 ㎡
	エントランスホール	64 ㎡		よいこのへや	47 ㎡
	姫路城歴史ものがたり回廊	277 ㎡		カフェ	81 ㎡
	ことばの森展示室	283 ㎡		その他	270 ㎡
	その他	510 ㎡		●2階	506 ㎡
	●2階	990 ㎡		図書室	96 ㎡
	企画展示室・和辻展示室	208 ㎡		事務室	80 ㎡
	特別展示室	225 ㎡		閲覧室	39 ㎡
	体験交流ひろば①	65 ㎡		その他	291 ㎡
	体験交流ひろば②	54 ㎡			
	その他	438 ㎡	望景亭	木造平屋建瓦葺	444 ㎡
	●3階	511 ㎡		和室	131 ㎡
	講堂	250 ㎡		茶室	40 ㎡
	準備室	29 ㎡		洋間	65 ㎡
	講師控室	29 ㎡		その他	208 ㎡
	ホワイエ	58 ㎡			
	その他	145 ㎡	書斎風建物	木造平屋建瓦葺	29 ㎡
	●塔屋	113 ㎡			
			駐輪場	鉄筋コンクリート造	17 ㎡

建築費（単位：百万円）	北館	南館
総額	2,605	2,568
建築工事	1,951	1,278
展示工事	550	429
用地費	104	861

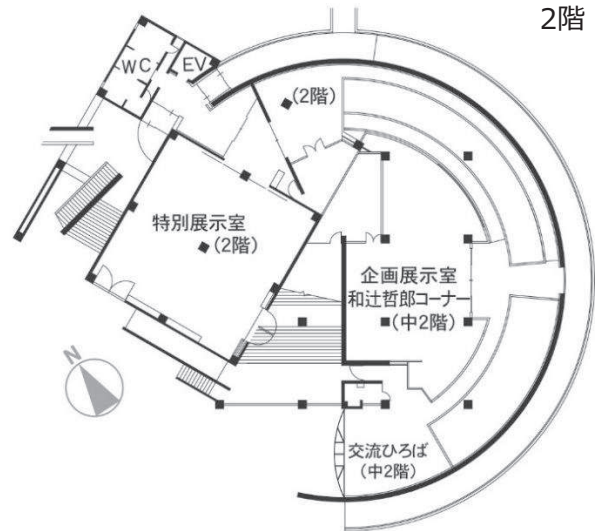
大規模施設整備費（北館・南館・外構を同時に整備）（単位：百万円）	
総額	1,993
大規模改修工事	1,415
展示更新制作	578

北 館

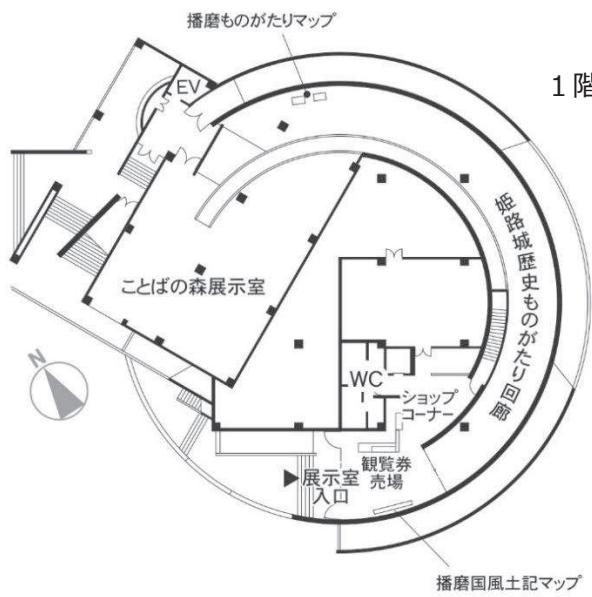
3階



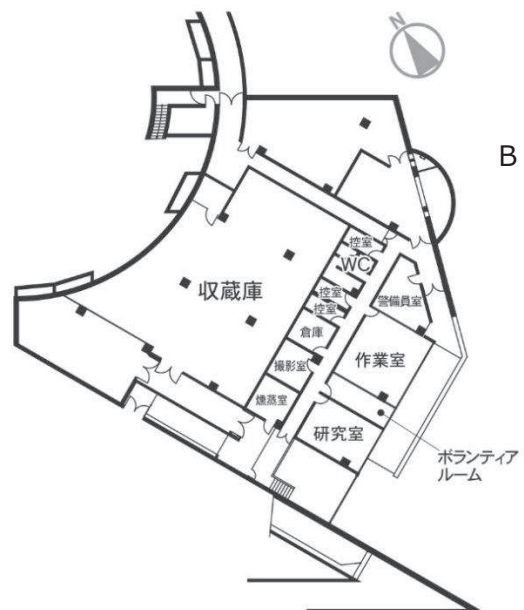
2階



1階

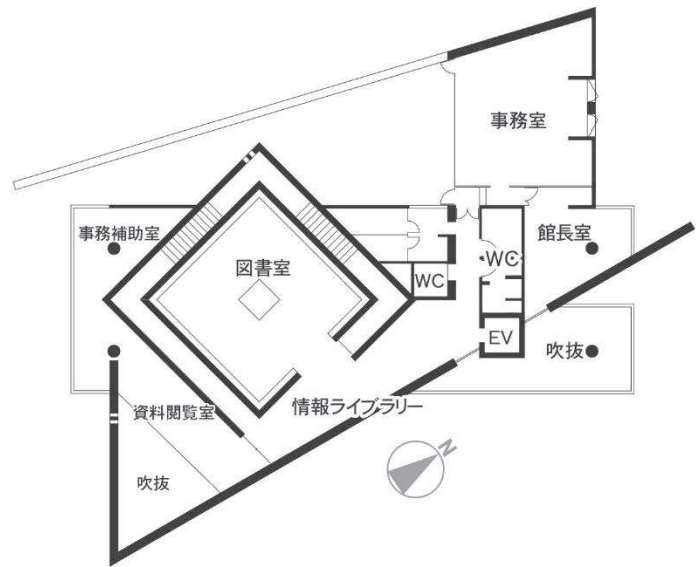


B1階

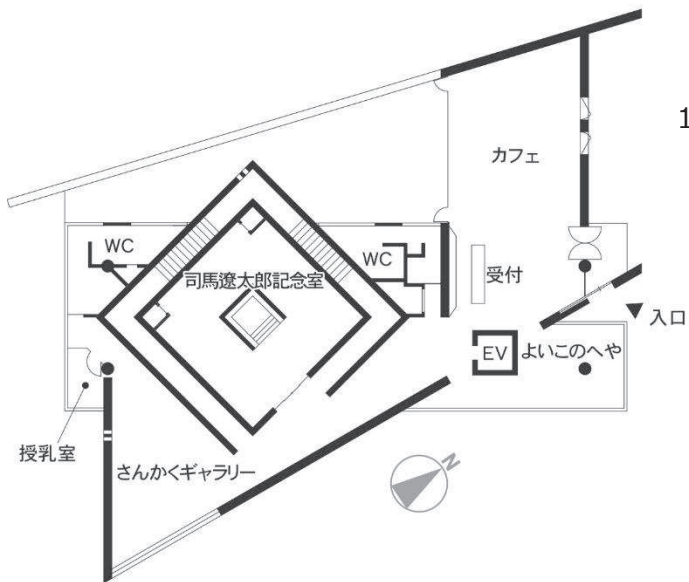


南 館

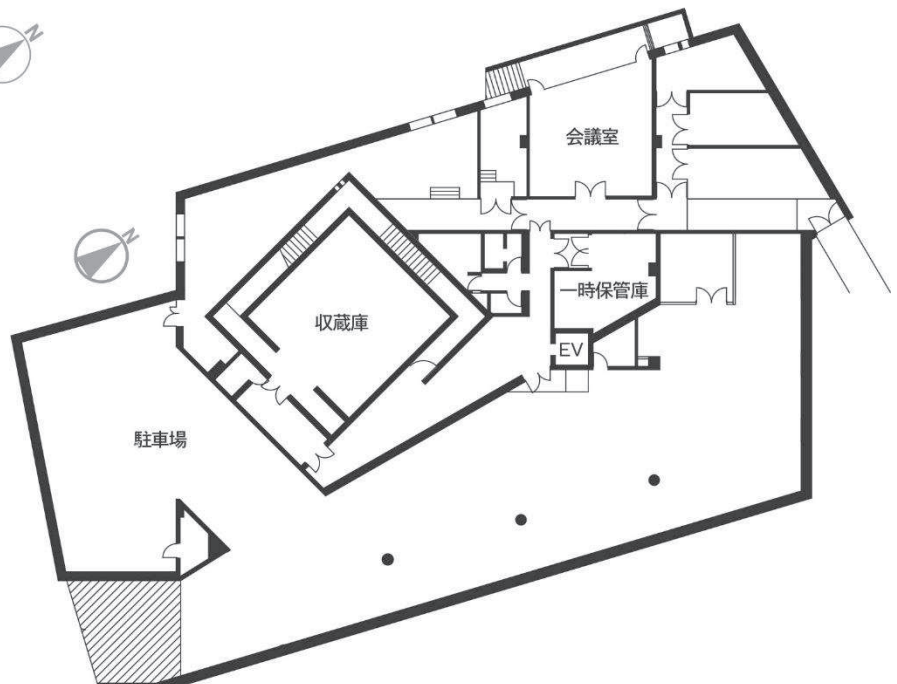
2 階



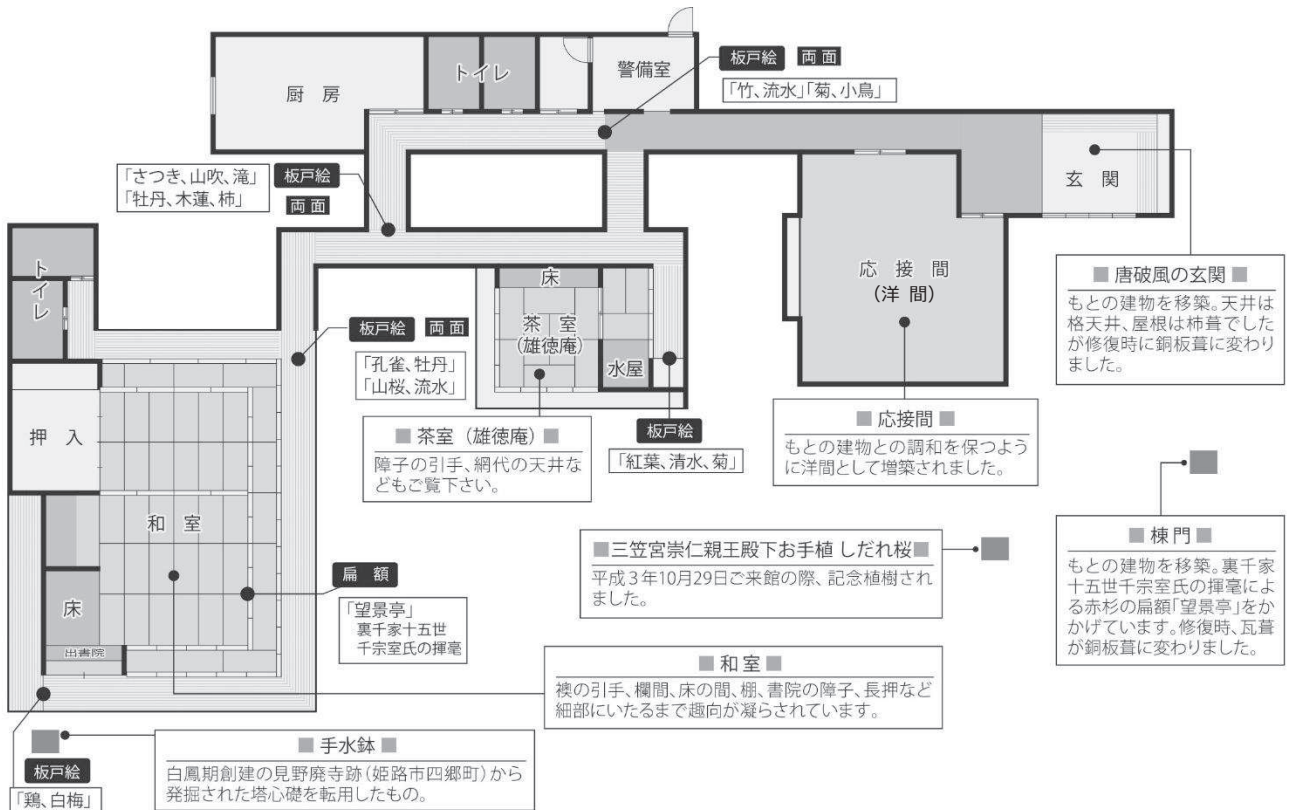
1 階



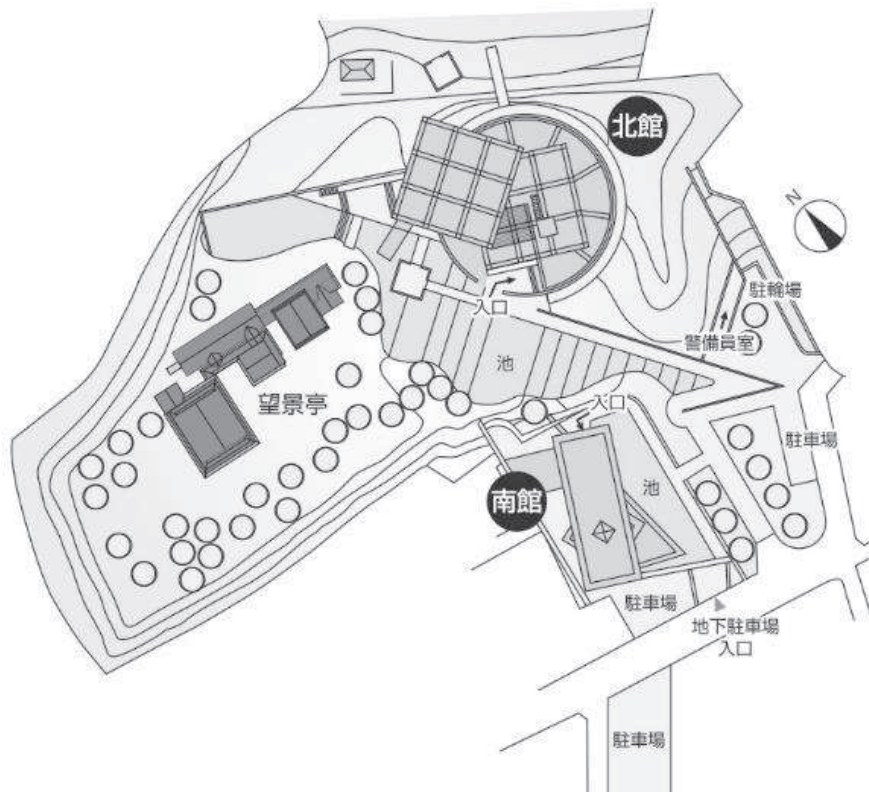
B1 階



望景亭



配置図



日 誌 抄

- 4月12日 建築学生対象バックヤード見学ツアー実施。
- 4月15日 特別展「大正ロマンの寵児 竹久夢二展」（以下、「竹久夢二展」）開幕（～5月28日）。
「竹久夢二展」記念講演会「詩人になりたかった夢二 一大正ロマンに彩られた美と言葉を追って」開催。
講師は、竹久夢二美術館学芸員の石川桂子氏。
- 4月29日 「竹久夢二展」記念講演会「竹久夢二 絵と文学の出会い」開催。講師は甲南大学名誉教授の木股知史氏。
- 5月14日 国際博物館の日に協賛、常設展無料開放。
- 5月31日 姫路文学館友の会（以下、「友の会」）理事会並びに総会開催。
- 6月3日 第2回藤原正彦姫路文学館長講演会開催。
- 6月18日 第1回友の会研修講座「城下町の怪談」開催。講師は京都精華大学人文学部特別任用講師の久留島元氏。
- 6月24日 特別展「ぞうのエルマー絵本原画展」（以下、「エルマー展」）開幕（～9月3日）。
「エルマー展」オープニング記念講演会「デビッド・マッキー 作品とそのひとがら」開催。講師は、絵本作家・イラストレーターのきたむらさとし氏。
- 7月15日 「エルマー展」イベント「えほんのじかん～ぞうさんのおはなし会」開催。出演は、友の会ボランティア（8月19日も）
- 7月16日 第12回KOTOBAまつりPART1「江戸時代のガイドブック『名所図会』にトラベル！～琴丘高生のガイドでさし絵のぬり絵体験～」を開催。出演は、姫路市立琴丘高等学校図書文芸部。
- 7月22日 「エルマー展」イベント「まいにちがカラフル！おうちうたコンサート」開催。出演は、クジララ。
- 7月29日 ちびっこセミナー「世界にひとつの絵本づくり」開催（8月5日も）。
- 8月2日 博物館実習実施（～8月6日）。
- 8月7日 第25回司馬遼太郎メモリアル・デー開催。生誕100年の節目にちなみ、臨時開館。
- 8月15日 台風7号接近により臨時休館。
- 9月12日 第36回和辻哲郎文化賞（以下、和辻賞）一般部門第1回推薦会開催（於姫路・一部オンライン）。
トライやる・ウィーク実施（～9月15日）。
- 9月19日 和辻賞学術部門第1回推薦会開催（於東京）
- 9月23日 第12回KOTOBAまつりPART2「影絵劇「よだかの星」再現上映会」を開催。ゲストとして、推理作家の竹本健治氏が出席。
- 10月7日 企画展「小林修写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点 歩いた風土、見抜いた時代」（以下、「写真展」）開幕（～11月26日）。
- 10月8日 「写真展」トークイベント「写真家と担当記者が「週刊朝日」司馬遼太郎シリーズを語る」開催。講師は、写真家の小林修氏と元週刊朝日編集委員の村井重俊氏。
- 11月1日 友の会ボランティア見学研修会「空間と色彩を楽しむ こども本の森 中之島と神戸ファッション美術館」を実施。
- 11月3日 第2回友の会研修講座「『坂の上の雲』の町 松山」開催。講師は、坂の上の雲ミュージアム前総館長の松本啓治氏。
- 11月5日 和辻賞一般部門第2回推薦会開催（於姫路・一部オンライン）。
- 11月12日 和辻賞学術部門第2回推薦会開催（オンライン）。
- 11月18日 関西文化の日に協賛、常設展無料開放。翌19日も。
- 11月22日 友の会見学研修会「晩秋の滋賀へ メタセコイヤ並木と名利 石山寺・三井寺（円城寺）拝観」を実施。
- 11月28日 和辻賞一般部門第3回推薦会開催（於姫路）。
- 12月2日 特別展「没後50年 姫路が生んだ二人の作家 阿部知二と椎名麟三展」（以下、「阿部・椎名展」）開幕（～翌年2月4日）。開会式に阿部知二令孫、阿部真弓氏が出席。
「阿部・椎名展」イベント「映画「冬の宿」上映会」開催。
- 12月10日 和辻賞学術部門第3回推薦会開催（於東京）。
- 12月13日 第2回友の会理事会開催。
- 12月17日 「阿部・椎名展」イベント「朗読会 ふたりの「姫路」」開催。出演は、音訳ボランティアグループ サークルさえずり。
- 1月7日 第12回KOTOBAまつりPART3「絵本朗読劇「まゆとうりんこ」」を開催。出演は、兵庫県立姫路工業高等学校演劇部。
- 1月12日 和辻賞学術部門選考委員会開催（オンライン）。
- 1月13日 「阿部・椎名展」イベント「椎名麟三セミナー「椎名麟三の思想」」開催。講師は、玉田克宏学芸員。
- 1月17日 和辻賞一般部門選考委員会開催（於東京）。
- 1月21日 第9回藤原正彦エッセイコンクール表彰式開催。

- 1月28日 第3回友の会研修講座「作家と作品を支える校正の仕事ーアナログからデジタルのいま」開催。講師は、ぼっと舎代表で校正者の大西寿男氏。
- 2月6日 第36回和辻哲郎文化賞受賞作を発表。
- 2月17日 企画展「生誕120年記念 木山捷平展」(以下、「木山展」) 開幕(～4月14日)。
第12回 KOTOBA まつり PART4 「兵庫県立大学環境人間学部 卒業設計展ー叶えたい未来を形にー」
開幕(～2月23日)。
- 2月18日 第15回如月まつり開催。
- 3月3日 第36回和辻哲郎文化賞授賞式開催。
- 3月9日 第4回友の会研修講座「アガサ・クリスティの世界 「癒やし」としての推理小説」開催。講師は、関西学院大学教授の松宮園子氏。
- 3月13日 友の会ボランティア総会開催。
- 3月15日 防火訓練実施。
- 3月24日 「木山展」イベント「世田谷ピンポンズライブ 木山捷平をうたうーおき忘れた下駄に雨がふるー」開催。出演は、世田谷ピンポンズ氏。

姫路文学館友の会

姫路文学館友の会は、文学を愛する市民が一堂に集い、さまざまな分野における学習の場に参加しながら会員相互の親睦会を深め、会員各々が自己の向上をはかっていくための組織として平成3年10月1日に発足した。

1 役員（令和6年5月31日現在）

会 長	家永 善文				
副 会 長	原 誠吾				
常務理事	北野 充				
理 事	石川 誠	菅原 美文	黒田美江子	鑛 隆志	
	奥田 正彦	鎌谷 弘美			
監 事	内海知香子	三木 総子			

2 会員数（令和6年3月末日現在）

- ・ 正 会 員（ボランティア会員を含む） 373 人
（年会費 2,000 円×360 人、1,000 円／下半期×13 人）
- ・ 家族会員（年会費 1,000 円） 14 人
- ・ 学生会員（年会費 1,000 円） 5 人
- ・ 賛助会員（法人・団体 年会費 50,000 円） 4 社

3 令和5年度事業

(1) 総会 5月31日（水）

●記念行事「夢二をうたう」

出演：林裕美子（ソプラノ歌手、元エリザベト音楽大学教授）、中村展子（ピアノ）、嵯峨山庸子（バイオリン）

(2) 各種講座

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| ① 「万葉集」巻九を読む | （全10回 講師：大森 亮尚 受講者 67人） |
| ② 徳川家康と彼の生きた時代 | （全10回 講師：菅原 美文 受講者 87人） |
| ③ 文学史を彩る名作との出会い（大正編） | （全10回 講師：山本 欣司 受講者 60人） |

○研修講座

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 「城下町の怪談」 | 講師：久留島 元 （6月18日 受講者 51人） |
| 「『坂の上の雲』の町 松山」 | 講師：松本 啓治 （11月3日 受講者 66人） |
| 「作家と作品を支える校正の仕事ーアナログからデジタルのいま」 | 講師：大西 寿男 （1月28日 受講者 100人） |
| 「アガサ・クリスティの世界『癒し』としての推理小説」 | 講師：松宮 園子 （3月9日 受講者 64人） |

(3) 見学研修会

- | | |
|--|------------------|
| ① 「晩秋の滋賀へ ～メタセコイア並木と名刹 石山寺・三井寺（円城寺）拝観」 | （11月22日 参加者 27人） |
| ② 「空間と色彩を楽しむ こども本の森 中之島と神戸ファッション美術館」
（ボランティア対象） | （11月1日 参加者 36人） |

(4) 協賛事業

- ① 特別展「阿部知二と椎名麟三展」朗読音声配信 (12月2日～2月29日)

(5) 主なボランティア活動

- ① 郵便発送作業 (7回)
- ② 各講座・諸行事の受付 (年間講座、司馬遼太郎メモリアル・デー) (60回)
- ③ ワーキンググループ活動
- ・展示ガイドグループ
勉強会 (12回)
常設展案内 (6回)
 - ・おすすめ展示グループ (2回)
 - ・おはなし会グループ
全体会議 (1回)
おはなし会 (12回)
絵本よみきかせ研修講座 (5回)
特別展「えほんのじかん」 (2回)
- ④ その他
- ・ボランティア全体会議
 - ・如月まつり (展示ガイド・古本市・おはなし会)
 - ・ぬいぬいクラブ (展覧会撮影コーナー用衣装の製作)

4 文学館グッズ販売事業

友の会では、姫路文学館オリジナルグッズを制作し販売しているほか、時宜に応じて姫路文学館にふさわしい物品を入荷し販売している。

オリジナルグッズ

	品 名	価 格
絵葉書	資料図版 (11 種)	各 7 0
一筆箋	北館外観 (1 種)	3 0 0
	資料図版 (2 種)	各 3 0 0
	イラスト (2 種)	各 2 0 0
メモ帳	イラスト (2 種)	各 1 0 0
ファイル	クリアファイル	3 5 0
その他	一筆便箋・メモ 4 点セット 革製ペンケース、ブックカバー、書籍等 (随時販売)	5 0 0

令和 5 年度グッズ売上合計額 117,875 円

5 資料整理業務

平成 12 年度より、姫路市からの委託を受け、継続して行っている。姫路文学館が所蔵または新たに収集する資料について、文学館の方針に従って分類整理、情報検索システムへの登録等の業務を行うもの。

- (1) 受託期間 令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

(2) 業務内容

- ① 購入・寄贈図書、その他文学館資料の整理、保管、保存。
- ② 図書データ等の資料データの作成。
- ③ 情報検索システムへの登録作業。
- ④ 資料整理全般に関わる一切の業務。
- ⑤ その他、上記業務に関わる人員の雇用とそれに伴う整理・保存用品および事務用品の購入等。

(3) 雇用者数 1人

(4) 受託金額 2,506,000円

6 令和5年度決算（会計年度：令和5年4月1日～令和6年3月31日）

収 入	16,542,967円（資料整理業務費 2,506,000円含）
支 出	9,622,447円（資料整理業務費 2,506,000円含）
翌年度繰越金	6,920,520円

沿革

昭和 58 年 8 月	文化都市を目指す戸谷松司市長の方針に基づいて、「姫路市立文学資料館」の構想生まれる。
60 年 1 月 28 日	建設構想推進委員会及び資料収集調査委員会が文学資料館基本構想を答申。
61 年 5 月 1 日	姫路市民文化協会内に文学資料館開設準備室が発足。
63 年 2 月 17 日	郷土の哲学者和辻哲郎の生誕 100 年を記念して文化賞を創設。
3 月 31 日	展示基本設計完了。
4 月 1 日	市民局の中に文学資料館開設準備室を設置。
平成元年 3 月 31 日	建築設計完了。
5 月 22 日	文学資料館の正式名称を「姫路文学館」に決定。
7 月 1 日	文学資料館開設準備室が市民局から教育委員会に移る。
9 月 9 日	起工式。
12 月 28 日	展示実施設計完了。
2 年 12 月 21 日	姫路文学館条例、姫路文学館条例施行規則、姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則を制定。
12 月 28 日	建築工事完了。
3 年 1 月 31 日	展示工事完了。
3 月 27 日	竣工式。
4 月 1 日	開館。中西進氏、初代館長に就任。
6 月 28 日	兵庫県が創設した「第 1 回さわやか街づくり賞」建築部門を受賞。
7 月 11 日	建設省制定の「手づくり郷土賞」素材部門を受賞。
10 月 1 日	姫路文学館友の会発足。
4 年 3 月 26 日	姫路文学館条例の改正。4 月 1 日施行。
5 年 3 月 25 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。
4 月 23 日	姫路文学館施設整備検討委員会が施設整備基本構想を答申（別館建設を提案）。
6 年 3 月 4 日	入館者 10 万人達成。
3 月 18 日	別館展示設計及び建築設計完了。
10 月 19 日	別館起工式。
7 年 10 月 31 日	別館建築工事完了。
8 年 3 月 18 日	別館展示工事完了。
3 月 26 日	姫路文学館条例の改正。5 月 25 日施行。
4 月 1 日	姫路市教育委員会行政組織規則の改正、総務課、学芸課の 2 課制となる。 館の名称変更（本館を北館に、別館を南館に）。
5 月 24 日	南館竣工式。
5 月 25 日	南館開館。司馬遼太郎記念室を設置。
7 月 4 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。同日施行。
9 年 3 月 31 日	姫路文学館条例の改正。4 月 1 日施行。
5 月 31 日	中西進館長退任。
6 月 1 日	上田正昭氏、第 2 代館長に就任。
10 年 3 月 20 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。
13 年 8 月 28 日	姫路文学館条例施行規則の改正。同日施行。
14 年 6 月 10 日	姫路文学館公式ホームページ開設。
17 年 2 月 25 日	和辻哲郎文化賞展示コーナーを設置。
19 年 3 月 28 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。
20 年 7 月 23 日	博物館法第 10 条の規定による登録博物館となる。
21 年 8 月 7 日	望景亭が国登録有形文化財となる。
23 年 2 月 3 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。3 月 1 日施行。
26 年 3 月 31 日	上田正昭館長退任。
4 月 1 日	藤原正彦氏、第 3 代館長に就任。
27 年 6 月 23 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。7 月 1 日施行。
7 月 16 日	北館、南館の大規模改修工事及び展示更新制作開始。
28 年 6 月 24 日	姫路文学館条例の改正。7 月 30 日施行。
7 月 30 日	北館、南館のリニューアル開館。
29 年 3 月 29 日	姫路文学館条例の改正。7 月 1 日施行。
30 年 12 月 26 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。
31 年 3 月 27 日	姫路文学館条例の改正。10 月 1 日施行。 姫路文学館条例施行規則の改正。10 月 1 日施行。
令和 2 年 3 月 5 日	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、臨時休館措置を開始（～5 月 31 日）。
3 年 4 月 25 日	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、臨時休館措置を開始（～5 月 11 日）。

- 12月22日 姫路文学館条例の改正。4月1日施行。
- 4年3月29日 姫路文学館条例施行規則（教育委員会規則）廃止及び姫路文学館条例施行規則（姫路市規則）制定。4月1日施行。
- 4月1日 教育委員会より観光スポーツ局へ移管。
- 5年6月16日 姫路文学館条例施行規則の改正。公布の日から施行。
- 7月1日 組織改正により観光経済局の所管となる。

条 例 規 則 集

○姫路文学館条例

平成2年12月21日

条例第32号

改正 平成4年3月26日条例第4号

平成8年3月26日条例第26号

平成9年3月31日条例第3号

平成28年6月24日条例第52号

平成29年3月28日条例第34号

平成31年3月27日条例第61号

令和3年12月22日条例第55号

(設置)

第1条 郷土ゆかりの文学者を顕彰するとともに、文学に関する市民の知識及び教養の高揚を図るため、姫路文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

(施設の位置)

第2条 文学館の位置は、次のとおりとする。

姫路市山野井町84番地

(事業)

第3条 文学館は、第1条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 郷土ゆかりの文学者の文学作品及びその作者又は作品に関する資料を収集し、保管し、又は展示すること。
- (2) 郷土を題材とした文学作品及びこれに関する資料を収集し、保管し、又は展示すること。
- (3) 前2号に規定する作品、作者及び資料に関する調査及び研究を行うこと。
- (4) 文学に関する講演会、講習会、講座等を開催し、及びその奨励を行うこと。
- (5) 文学に関する研究書、解説書等を作成し、刊行すること。
- (6) 文学及び学芸に関する集会並びに展示のために文学館の施設を提供すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、文学館の目的を達成するため必要な事業を行うこと。

(職員)

第4条 文学館に、館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(観覧料)

第5条 文学館が展示する文学作品及び資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料（消費

税及び地方消費税相当額を含む。以下同じ。）を納付しなければならない。

- 2 前項の規定により特別展示観覧に係る観覧料を納付した者が、当該特別展示観覧の期間中において常設展示観覧をする場合にあっては、市長は、当該期間中において1回に限り、当該者の常設展示観覧に係る観覧料を徴収しないことができる。

(特別観覧許可及び特別観覧料)

第6条 文学館が保管し、又は展示する文学作品及び資料（以下「文学館資料」という。）を研究のために熟覧し、複写し、又は撮影しようとする者は、市長の許可を受け、1点1回につき2,090円（消費税及び地方消費税相当額を含む。）の範囲内で市長が規則で定める額の特別観覧料を納付しなければならない。

(占用使用許可及び占用使用料)

第7条 別表第2に掲げる文学館の施設を占用して使用しようとする者は、市長の許可を受け、同表に定める占用使用料（消費税及び地方消費税相当額を含む。以下同じ。）を納付しなければならない。

(使用の制限)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、前2条の許可（以下「使用許可」という。）をしない。

- (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認めるとき。
- (2) 文学館の設置の目的に反する使用をし、又はそのおそれがあると認めるとき。
- (3) 文学館の施設又は文学館資料を損傷するおそれがあるとき。
- (4) 文学館の管理に支障があると認めるとき。
- (5) その他市長が不適当と認めるとき。

(許可の条件)

第9条 市長は、使用許可に際し、必要な条件を付することができる。

(譲渡及び転貸の禁止)

第10条 使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

(許可の変更等)

第11条 市長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、使用者に対して、その使用許可の変更若しくは使用の停止を命じ、又はその使用許可を取り消すこと

ができる。この場合において使用者に生じた損害については、市長はその責めを負わない。

(1) 使用者が、この条例若しくはこれに基づく規則又は使用許可条件に違反して文学館の施設又は文学館資料を使用したとき、又は使用しようとするとき。

(2) 使用者が、偽りその他不正の手段により使用許可を受けたとき。

(3) 災害その他不可抗力によって使用させることができなくなったとき、又は使用させることが不適当と認められるとき。

(4) 前各号に定めるもののほか、市長が、公用、保安又は管理上の都合により特に必要と認めるとき。
(観覧料等の減免)

第12条 市長は、公益上必要と認めるときは、第5条第1項に規定する観覧料、第6条に規定する特別観覧料及び第7条に規定する占用使用料を減額し、又は免除することができる。

(観覧料等の還付)

第13条 既納の観覧料、特別観覧料及び占用使用料は、還付しない。ただし、第11条第3号若しくは第4号に該当するとき、又は市長がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

(特別の設備)

第14条 使用者は、特別な設備をしようとするときは、あらかじめ市長の許可を受けなければならない。

2 市長は、管理上必要と認めるときは、使用者の負担において必要な設備をさせることができる。

3 使用者は、前2項に規定する設備をしたときは、使用許可期間満了までにこれを撤去し、原状に復さなければならない。

(秩序維持)

第15条 何人も、文学館において次に掲げる行為をしてはならない。

(1) 文学館の施設及び文学館資料を汚損し、損傷し、又は亡失すること。

(2) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる行為をし、又はこれらのおそれがある物品若しくは動物の類を携帯すること。

(3) 許可なくして展示された文学館資料に触れること。

(4) 許可なくして模写、模造、撮影等を行うこと。

(5) 許可なくして物品の販売、宣伝その他営利行為を行うこと。

(6) 許可なくして印刷物、ポスター等を配布し、又は掲示すること。

(7) 所定の場所以外の場所において飲食し、喫煙し、その他火気を使用すること。

(8) 前各号に定めるもののほか、文学館の管理に支障がある行為をすること。

(入館の拒否、退館命令等)

第16条 市長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、文学館への入館を拒否し、退館を命じ、又はその他必要な措置をとることができる。

(1) 前条の規定に違反する行為をし、又はしようとする者

(2) 前号に定めるもののほか、文学館の管理上の必要な指示に従わない者

(損害の賠償)

第17条 文学館の施設及び文学館資料を汚損し、損傷し、又は亡失した者及び第14条第3項に規定する義務を履行しない者は、市長の認定額の損害を賠償しなければならない。

(補則)

第18条 この条例の施行について必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、市長が告示で定める日から施行する。ただし、第7条から第14条まで及び別表第2の規定は、平成3年1月4日から施行する。

(平成3年3月14日告示第30号で平成3年4月1日から施行)

附 則 (平成4年3月26日条例第4号)

この条例は、平成4年4月1日から施行する。

附 則 (平成8年3月26日条例第26号)

この条例は、平成8年5月25日から施行する。

附 則 (平成9年3月31日条例第3号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則 (平成28年6月24日条例第52号)

この条例は、平成28年7月30日から施行する。ただし、第3条第1号及び第2号、第6条、第8条、第11条、第12条(「減額」を「減額し、」に改める部分に限る。)、第15条から第17条まで並びに別表第2備考第3項の改正規定は、公布の日から施行する。

附 則 (平成29年3月28日条例第34号)

この条例は、平成29年7月1日から施行する。

附 則（平成31年3月27日条例第61号）

この条例は、平成31年10月1日から施行する。

附 則（令和3年12月22日条例第55号）

この条例は、令和4年4月1日から施行する。

別表第1（第5条関係）

観覧料

区 分		金額（1人につき）	
		個人	20人以上の 団 体
常設展示観覧	一般	円 310	円 240
	大学生・高校生	210	160
	中学生・小学生	100	80
特別展示観覧		2,000円以内で市長が定める額	

備考

- 1 常設展示観覧とは、文学館が平常的に展示する文学作品及び資料の観覧をいい、特別展示観覧とは、文学館が主催して特別に展示する文学作品及び資料の観覧をいう。
- 2 一般とは、大学生・高校生及び中学生・小学生以外の者で15歳以上のものをいい、大学生・高校生とは、大学、高等専門学校、高等学校、専修学校、各種学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

別表第2（第7条関係）

施設占用使用料

使用時間 使用施設	1日	午前	午後
	午前9時から 午後5時まで	午前9時から 正 午 ま で	午後1時から 午後5時まで
特別展示室	円 7,330	円 3,160	円 4,170
講堂	7,330	3,160	4,170
和室	7,330	3,160	4,170
茶室	5,190	2,130	3,160
洋間	7,330	3,160	4,170
さんかく ギャラリー	7,330	3,160	4,170

備考

- 1 使用者が入場料又は入場料に類するものを徴

収する場合における使用料は、使用区分に係る使用料の額に、当該使用料の10割に相当する額を加えた額とする。

- 2 特別展示室を展示の準備又は片付けのために使用するときの使用料は、使用区分に係る使用料の額（前項に該当するときは、その割増料金を加算した額）の5割相当額とする。
- 3 使用許可時間を超過し、又は時間を早めを使用する場合の超過時間に係る使用料は、所定の使用料（前各項のいずれかに該当するときは、当該各項により計算された額）を基礎として、それぞれの料金表の使用時間の区分ごとに1時間当たりの算出料金（使用料に定めのない時間帯にあっては、当初使用許可を受けた時間区分に係る1時間当たりの算出料金）に超過時間に乗じた額の合計額とする。この場合において、超過時間の計算は、1時間未満のときはこれを1時間とし、1時間を超える場合で1時間に満たない端数時間があるときはその端数時間は1時間として計算する。
- 4 前項における使用料の算定において、算出した使用料の合計額に10円未満の端数が生じたときは、これを切り捨てる。

○姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則

平成2年12月21日

規則第57号

改正 平成 5年 3月25日規則第10号
平成 8年 7月 4日規則第61号
平成 10年 3月20日規則第23号
平成 19年 3月28日規則第15号
平成 23年 2月 3日規則第6号
平成 27年 6月23日規則第60号
平成 29年12月19日規則第59号
平成 30年12月26日規則第60号

（趣旨）

第1条 この規則は、姫路文学館条例（平成2年姫路市

条例第32号。以下「条例」という。)第12条の規定による観覧料、特別観覧料及び占用使用料(以下「観覧料等」という。)の減免並びに条例第13条のただし書の規定による観覧料等の還付に関し必要な事項を定めるものとする。

(観覧料等の減免)

第2条 条例第12条の規定により、観覧料等を減免することができる場合及びその額は、次に定めるところによる。

(1) 療育手帳、精神障害者保健福祉手帳又は身体障害者手帳の交付を受けた者(以下「障害者」という。)及び当該障害者の介護者が観覧するとき 常設展示観覧料の全額及び特別展示観覧料の半額

(2) 市内に居住する65歳以上の者が観覧するとき 常設展示観覧料の全額

(3) 市内及び連携中枢都市圏構想推進要綱(平成26年8月25日付け総行市第200号総務省自治行政局長通知)に基づく連携協約市町の学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する小学校、中学校、義務教育学校及び特別支援学校の生徒又は児童並びにその引率者が学校行事として観覧するとき 常設展示観覧料の全額

(4) 使用者が市と共同で占用使用するとき 占用使用料の5割に相当する額

(5) 市が使用するとき 占用使用料の全額

(6) 前各号に定めるもののほか、市長が特別の理由があると認めるとき 観覧料等の額のうち市長が相当と認める額

2 前項の規定により観覧料等の減免を受けようとする者は、前項第1号及び第2号の規定により減免を受けようとする者にあつては、当該減免事由を証する手帳等を提示し、同項第3号の規定により減免を受けようとする者にあつては、文学館観覧料等減免申請書を提出し、同項第4号又は第5号の規定により減免を受けようとする者にあつては、文学館施設占用使用許可申請書の該当欄にその旨を記載しなければならない。

(観覧料等の還付)

第3条 条例第13条ただし書の規定により観覧料等を還付することができる場合及びその額は次に定めるところによる。

(1) 条例第11条第3号又は第4号に該当するとき 既納観覧料等の全額

(2) 災害その他不可抗力による事由により使用でき

なかったとき 既納の占用使用料の全額

(3) 占用使用を中止しようとする者から次に掲げる期日までに正当な理由により使用中止届があった場合

ア 使用期日前2月までの場合 既納の占用使用料の8割に相当する額

イ 使用期日前1月までの場合 既納の占用使用料の5割に相当する額

2 前項の規定により観覧料等の還付を受けようとする者は、文学館観覧料等還付申請書を市長に提出しなければならない。

(補則)

第4条 この規則の運用に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成3年1月4日から施行する。

附 則(平成5年3月25日規則第10号)

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則(平成8年7月4日規則第61号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成10年3月20日規則第23号)

1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。

2 この規則による改正後の姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則第3条第1項の規定は、この規則の施行の日以後に申請のあった使用許可に係る使用料の還付について適用し、同日前に申請のあった使用許可に係る使用料の還付については、なお従前の例による。

附 則(平成19年3月28日規則第15号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成23年2月3日規則第6号)

この規則は、平成23年3月1日から施行する。

附 則(平成27年6月23日規則第60号)

この規則は、平成27年7月1日から施行する。

附 則(平成29年12月19日規則第59号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(平成30年12月26日規則第60号)

(施行期日)

1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則による改正後の規定は、この規則の施行の日以後にされた申請に基づく使用許可に係る使用料、占用使用料又は特別展示室使用料(以下「使用料等」

という。)について適用し、同日前にされた申請に基づく使用許可に係る使用料等については、なお従前の例による。

○姫路文学館条例施行規則

令和4年3月29日
規則第12号

改正 令和5年6月16日規則第47号

(趣旨)

第1条 この規則は、姫路文学館条例(平成2年姫路市条例第32号。以下「条例」という。)の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 文学館の開館時間は、次に掲げる施設の区分に応じ、当該各号に定める時間とする。

(1) 北館及び望景亭 午前10時から午後5時まで。
ただし、条例第7条の許可を受けて条例別表第2に掲げる施設を使用する場合は、午前9時から午後5時まで

(2) 南館の開館時間 午前9時から午後5時まで

2 前項の開館時間は、市長が必要と認めるときは、これを変更することができる。

(休館日)

第3条 文学館の休館日は、次に掲げるとおりとする。
ただし、市長が必要と認める場合は、これを変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

(1) 月曜日。ただし、月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日にあたるときは、その翌日(月曜日を含んで連続した休日がある場合においては、当該連続した休日の最後の日の翌日)とする。

(2) 12月25日から翌年1月5日まで

(観覧料等の納付)

第4条 条例第5条に規定する観覧料、条例第6条に規定する特別観覧料及び条例第7条に規定する占用使用料は前納しなければならない。ただし、旅行業法(昭和27年法律第239号)第3条に規定する者で市長が指定した者(以下「旅行者」という。)が取り扱う観覧料、市長が特別な事由があると認める特別観

覧料及び国、地方公共団体又は公共的団体が使用する場合は、この限りでない。

2 第11条の規定による使用時間の延長の許可を受けて使用する場合は、当該使用時間延長に係る占用使用料は、使用終了後直ちに納付しなければならない。

(観覧券の交付)

第5条 条例第5条の規定により観覧料を納付した者に対しては、納付と同時に観覧券を交付するものとする。

2 観覧券の種類は、次のとおりとする。

- (1) 個人観覧券
- (2) 団体観覧券
- (3) 前売観覧券

3 文学館の観覧の取扱いを旅行者に委任した者については、当該旅行者が観覧券に代わるものとして発行するものの提出をもって条例第5条に規定する観覧料の納付があったものとみなす。

4 観覧券の交付は、閉館時間の30分前までとする。

(特別観覧許可の申請)

第6条 条例第6条の許可を受けようとする者は、あらかじめ文学館資料特別観覧申請書を市長へ提出しなければならない。

2 市長は条例第6条の許可をしたときは、当該申請者に文学館資料特別観覧許可書を交付するものとする。

3 条例第6条の許可を受けた者は、熟覧、複写又は撮影に際し、文学館資料特別観覧許可書を携帯し、文学館の職員の要求があったときは、これを提示しなければならない。

(特別観覧料)

第7条 条例第6条の規定により市長が規則で定める特別観覧料は、別表のとおりとする。

(占用使用許可等の申請)

第8条 条例第7条の規定により市長の許可を受けようとする者(以下「申請者」という。)は、あらかじめ文学館施設占用使用許可申請書(以下「申請書」という。)を市長に提出しなければならない。

2 前項の申請書は、使用しようとする日(以下「使用期日」という。)の属する月の3か月前の月の初日から使用期日の3日前までに提出しなければならない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

3 前項の規定にかかわらず、特別展示室を使用しようとする者は、次の各号に掲げる使用期日の区分に応じ、

当該各号に定める期間内に第1項の申請書を提出することができる。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

- (1) 使用期日が1月6日から3月31日である場合
当該使用期日の属する年の前々年の10月1日から当該使用期日の3日前まで
- (2) 使用期日が4月1日から9月30日である場合
当該使用期日の属する年の前年の4月1日から当該使用期日の3日前まで
- (3) 使用期日が10月1日から12月24日である場合
当該使用期日の属する年の前年の10月1日から当該使用期日の3日前まで

(占用使用許可書の交付)

第9条 市長は、条例第7条の許可をしたときは、申請者に文学館施設占用使用許可書を交付するものとする。

2 条例第7条の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、文学館の施設の使用に際し、文学館施設占用使用許可書を携帯し、文学館の職員の要求があったときは、これを提示しなければならない。

(使用期間等)

第10条 特別展示室の使用期間は、毎週火曜日から起算して6日間を1単位とする。ただし、市長が必要と認めるときは、この限りでない。

(使用時間の延長)

第11条 使用者は、やむを得ない理由により当該許可に係る使用時間を超過し、又は時間を早めに使用するときがあるときは、あらかじめ市長の許可を受けなければならない。

(使用中止届)

第12条 占用使用を中止しようとする者は、文学館施設占用使用中止届に使用許可書を添えて市長に提出しなければならない。

(収集の基準)

第13条 条例第6条に規定する文学館資料（以下「文学館資料」という。）の収集は、次に掲げる文学作品及び資料（以下「資料」という。）について行うものとする。

- (1) 郷土ゆかりの文学者の文学作品及びその作者又は作品に関する資料
- (2) 郷土を題材とした文学作品及びこれに関する資料
- (3) 前2号に掲げるもののほか、文学館の目的を達

成するために必要な資料

(収集の方法)

第14条 資料の収集は、購入、受贈若しくは受託又は借用により行うものとする。

(資料の購入)

第15条 資料を購入するときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値及び価格の妥当性等について学識経験者の意見を聴くものとする。

(資料の寄贈)

第16条 文学館に資料を寄贈しようとする者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

2 市長は、前項の申出があったときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値について学識経験者の意見を聴くものとする。

3 市長は、第1項の規定により寄贈を承諾した資料の引渡しを受けたときは、文学館資料受領書を寄贈者に交付するものとする。

4 前3項の規定にかかわらず、軽易なものについては、これらの規定を適用しないことができる。

(資料の寄託)

第17条 文学館に資料を寄託しようとする者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

2 市長は、前項の申出があったときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値について学識経験者の意見を聴くものとする。

(資料の寄託の期間及び返還)

第18条 資料の寄託の期間は、3年とする。ただし、寄託者との協議により、この期間を変更することができる。

2 寄託者は、寄託の期間中であっても、返還を希望する日の60日前に寄託資料返還申出書を提出して寄託した資料の返還を受けることができる。

(寄託を受けた資料の取扱い)

第19条 市長は、寄託者の同意を得て、寄託を受けた資料（以下「寄託資料」という。）を展覧若しくは特別観覧に供し、その複製物を公刊し、又は頒布することができる。

2 市長は、寄託資料のうち補修が必要なものについては、寄託者の同意を得て補修することができる。

(資料の借用)

第20条 市長は、資料を借用するときは、その所有者

に資料借用書を交付し、その控えを保管するものとする。

(資料の貸出し)

第21条 文学館資料の貸出しを受けようとする者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

2 市長は、前項の規定による申出者が次の各号のいずれかに該当し、かつ、貸出しの目的が文学、歴史、芸術等に関する教養の高揚、調査研究等に資するとともに、当該貸出しが文学館の業務に支障がないと認められるときは、貸出しの承諾をすることができる。

(1) 国又は地方公共団体が設置する文学館、博物館又はこれらに類する施設の長

(2) 前号に規定する施設以外の施設で、博物館法(昭和26年法律第285号)第11条の規定による登録を受けた博物館又は同法第31条第1項の規定による指定を受けた博物館に相当する施設の長

(3) 公共性を有する報道機関が企画主催する文学展等の場合の主催者

(4) 前3号に掲げるもののほか、市長が適当と認めた者

(貸出しの制限)

第22条 市長は、文学館資料のうち次に掲げるものについては、貸出しをしない。

(1) 文学館資料の保存上、貸出しをすることが望ましくない資料

(2) 未整理の資料

(3) 寄贈者、寄託者等の文学館資料の提供者から、あらかじめ貸出しの制限を求められている資料

(4) 前3号に掲げるもののほか、市長が特に貸出しを制限する必要があると認めた資料

(貸出しの期間)

第23条 文学館資料の貸出し期間は、60日以内とする。ただし、市長が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(寄託資料の貸出し)

第24条 市長は、寄託者の同意を得て寄託資料の貸出しをすることができる。

2 寄託資料の貸出しについては、前3条の規定を準用する。

(文学館資料の翻刻)

第25条 文学館資料の翻刻を行う者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない

い。

2 市長は、前項の承諾に際して必要と認める条件を付すことができる。

(翻刻の制限)

第26条 市長は、文学館資料のうち次に掲げるものについては、翻刻の承諾をしない。

(1) 未整理の資料

(2) 寄贈者、寄託者等の原資料の提供者から、あらかじめ翻刻の制限を求められている資料

(3) 前2号に掲げるもののほか、市長が、特に翻刻を制限する必要があると認めた資料

(文学館資料の熟覧)

第27条 文学館資料の熟覧は、次に定めるところにより行うものとする。

(1) 熟覧は、文学館内の所定の場所で、文学館の職員の立会いのもとで行うものとする。

(2) 文学者の自筆の資料の熟覧については、複写等により二次資料が作成されている場合は、二次資料によって行うものとする。

(文学館資料の複写)

第28条 文学館資料の複写は、次に定めるところにより行うものとする。

(1) 複写は、文学館内の所定の場所で、文学館の職員の立会いのもとで行うものとする。

(2) 文学館資料を複写する者は、著作権法(昭和45年法律第48号)を遵守し、著作権に係る問題が生じた場合は、全ての責めを負うものとする。

2 市長は、前項各号に定めるもののほか、複写に関し必要と認める条件を付すことができる。

(文学館資料の撮影)

第29条 文学館資料の撮影については、前条の規定を準用する。

(熟覧、複写及び撮影の制限)

第30条 前3条に定めるもののほか、文学館資料の熟覧、複写及び撮影については、第22条の規定を準用する。

(補則)

第31条 この規則に定めるもののほか、文学館の管理に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則(令和5年6月16日規則第47号)

この規則は、公布の日から施行する。

別表（第7条関係）

特別観覧料

区 分		特別観覧料 (1点1回につき)
複 写	電子複写機による	20円
撮 影	新規撮影〔学術用〕	210円
	新規撮影〔その他〕	2,090円
	フィルム貸出し・データ提供 〔学術用〕	100円
	フィルム貸出し・データ提供 〔その他〕	1,040円

附 則

この規則は、昭和63年7月1日から施行する。

○和辻哲郎文化賞規則

昭和63年5月17日

規則第29号

（目的）

第1条 この規則は、和辻哲郎の日本文化に関する幅広い活動を顕彰し、かつ市民の文化水準の向上に資するため、日本文化に関する優れた著作物に対し、和辻哲郎文化賞（以下「文化賞」という。）を贈与することを目的とする。

（贈与）

第2条 文化賞の贈与は、記章、賞状及び賞金とする。

2 文化賞の贈与は、毎年3月に行う。

（選考委員）

第3条 文化賞の選考は、文化賞選考委員（以下「選考委員」という。）の協議により決定する。

2 選考委員は、日本文化に関し、卓越した見識を有する者のうちから市長が委嘱する。

（選考基準）

第4条 文化賞の選考の対象となる著作物は、毎年9月1日を基準日とし、同日前1年以内に発表されたもので、次の各号に定めるものとする。

- (1) 一般部門 日本文化、伝統文化、風土と人間生活との関連等に関するもので和辻の研究業績に共鳴する評論
- (2) 学術部門 哲学、倫理学に関するもので高い水準に達した学術論文

（補則）

第5条 この規則の施行に関し必要な事項は、市長が定める。

利 用 案 内

- 開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日・休日の翌日（土・日・休日を除く）
年末年始

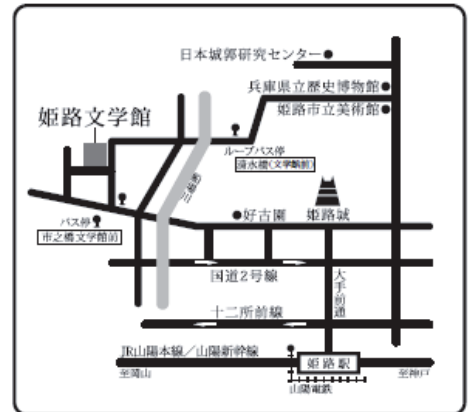
●観覧料

区 分		金 額	
		個 人	20人以上の 団 体
常設展示	一 般	310円	240円
	大学生・高校生	210円	160円
	中学生・小学生	100円	80円
特別展示は別料金となります。			

- アクセス JR・山陽姫路駅前から
神姫バス9・10・17・18番のりばで乗車6分、
「市之橋文学館前」下車、北へ徒歩4分
※上記乗り場から発車するバスにも「市之橋文学館前」に止まらないものがありますので、
確認のうえご乗車ください。
6番のりばで城周辺観光ループバス乗車10分、
「清水橋（文学館前）」下車、西へ徒歩3分

●問い合わせ

姫路文学館
〒670-0021 姫路市山野井町84番地
TEL (079)293-8228 FAX (079)298-2533
e-mail : kyo-bungaku@city.himeji.lg.jp
<http://www.himejibungakukan.jp/>



姫路文学館年報 第32号（令和5年度）

編集・発行 姫 路 文 学 館
〒670-0021 姫路市山野井町84番地
TEL (079) 293-8228
FAX (079) 298-2533

令和6年（2024年）9月1日発行